MIZUKISIGERU FAN CLUB MIZUKI DENSETSU

総括

フハッ増刊4

ゲゲゲの鬼太郎

アニメ版 4作目



フハッ　増刊四

総括　ゲゲゲの鬼太郎

アニメ４作目



水木伝説

フハッ　増刊四

総括　ゲゲゲの鬼太郎

アニメ４作目



目次

—東映アニメーション「ゲゲゲの鬼太郎」'９８年版カレンダー図版より構成—


~ベストの闇~

発表 『4作目ベスト10!!』

水木伝説版 ゲゲゲの鬼太郎・アニメ版

◎水木伝説会員による投票により正式に決定した鬼太郎アニメ4作目ベスト10ついに発表!!

4部ファンの皆様おまたせしました!!水木伝説が独自に行った会員の方々による「ゲゲゲの鬼太郎アニメ第4部 ベスト10」。その集計結果をついに発表!!

●やはり強かった夜叉!

2位以下を大きく引き離し、堂々の1位に輝いたのは『ギターの戦慄!夜叉』。オリジナルな要素を盛り込みつつ、原作の味、鬼太郎ながらのおどろおどろしさを見事表現した作品。1・2部のイメージに近いとも言える作風はやはり、水伝会員の心を捕らえたようだ。

！夜叉』（総得点＝60）



●怖くてカッコイイ鬼太郎の復活に拍手!

原作に忠実な「モノクロ版」、風刺色の強い「旧カラー版」、コミカルで明るさが売りの「第3部」。そして今回の新シリーズは久しく原点回帰!怪奇色の強い鬼太郎が帰ってきた。それを立証する作品が本作品であろう?「夜叉」に魂を抜かれ絶命するねずみ男!冒頭からショッキングな夜叉事件で物語ははじまる。ねずみ男の魂を喰って食あたりを起こす「夜叉」は子供の魂を喰うことで腹痛を癒すことを知る。ここでの鬼太郎はねずみ男の死に動揺することなく実にクールでカッコイイ。また、魂を抜かれた子供たちが担ぎ込まれることで鬼太郎は事件の重大を知り、夜叉を追うのだが、高架下の人込みの中を駆ける姿がシルエットのみでこれまたカッコイイ!そして「夜叉」を追いつめた場所は地下鉄構内で必然とここで対決することになる。この対決シーンがまた圧巻!「夜叉」を追いつめた鬼太郎は通過する電車にさえぎられながらも飛びかかろうとする。しかし鬼太郎は「夜叉」の催眠ギターで意識を失いピンチに!だが、「夜叉」じゃ殺気を感じ天井を見上げると電車の光でかろうじて猫娘が見える!このシーンは最高!まるで「必殺シリーズ」のように強いコントラストの光と影の映像にシビれる。事件が無事に解決した後も鬼太郎は「これでよかったんでしょうか?父さん」と笑顔一つ見せない。完全なハッピーエンドで終わらないのも今回のシリーズの特徴ともいえる。(しげ幽鬼)



COMMENT ~皆さんからのコメント~

○よくありがちな"正義は勝つ!"といった安っぽい作りではなく、"勝った"のだけど苦い何かが残った。ラストの鬼太郎のセリフにもあった、正義対悪でわり切れないものをもたせたところにこの作品の深みがある。(No.122 岩松真澄)

○ラストの謎がいい。(No.168 佐々木すぐる)

○鬼太郎世界の"妖気"を描いてる作品だと思う。細かい1シーン1シーンがとてもよくできている。(ねずみ男が死ねところや鬼太郎が夜叉の後を追ってゆくシーンとか…)オープニングからラストまで完璧!作画もキレイ。(さすが木下さん。)(No.171 亀田真理)

○内容的にも技巧的にもこの第三話に勝る話は無かった。全シーンぶっ通しで『闇』であり、光の使

編集:かめっち

第1位『ギターの戦慄

●第3話　演出/貝澤幸男　脚本/雪室俊一　作画監督/木下和栄　美術/伊藤岩光



あらすじ 不気味な夜の墓場。ギターを演奏する怪しい男。その音に惹かれ、魂たちが集まってくる。酔っぱらったねずみ男が音色を聞きつけ、男を見つける。男の悪態をついたねずみ男は魂を抜かれてしまった。鬼太郎たちが駆けつけるとねずみ男は病院に担ぎ込まれ、まさに魂の抜かれた状態だった。男の正体は妖怪・夜叉だった。夜叉がねずみ男の魂を食べるのと同時にとたんに死んだ様になるねずみ男。夜叉は直後、強烈にハラの具合が悪くなる。どうやらねずみ男の魂にあたったらしい。「生きた子供の魂はどんな痛みも忘れる程旨いというが…」団地に現れギターを弾く夜叉。集まってきた子供の魂を抜いていく。妖気をたどり夜叉を追跡していく鬼太郎。夜叉の吐き出したねずみ男の魂が換気扇から飛び出すのを見て、地下鉄構内に夜叉を追う。夜叉と鬼太郎の激突。しかし、夜叉の体は本体でなく攻撃が効かない。夜叉のギターに幻惑され死霊が迫る穴のなかに。あとから追ってきた猫娘の活躍でギターは壊れ、意識を取り戻す鬼太郎。髪の毛バリを本体の目に浴びた夜叉は、煮えたぎるお湯をかぶり、死霊に引きずり込まれる。魂は子供たちに帰り、火葬にされかけたねずみ男の体にもぎりぎりで魂が戻ってきた。

い方が更にその闇を深く印象づけていたし、地下鉄のシーンなんか最高だった。シュールだった。マジで鬼太郎だった。(No.196 石川顕子)

○暗い、そして恐ろしい鬼太郎アニメをまだ目指していた頃の最高の一本だと思う。(No.220 中根優作)○この話を見て今回の鬼太郎はいけると思った。全体的にオドロオドロしくてカックイー(No.231 糸永正明)

○4作目の初期を語る上でなくてはならない作品。30分間に原作が持つ怪奇的要素をふんだんにとりこんで最初から最後まで不気味さをかもしだしていた。「これは行ける!」と思いました。演出の人までチェックしたのに『ぬ〜べ〜』へ行ってしまいましたネ。2ケ月に1度は見たかったこういう話。(No.241 長澤美奈)

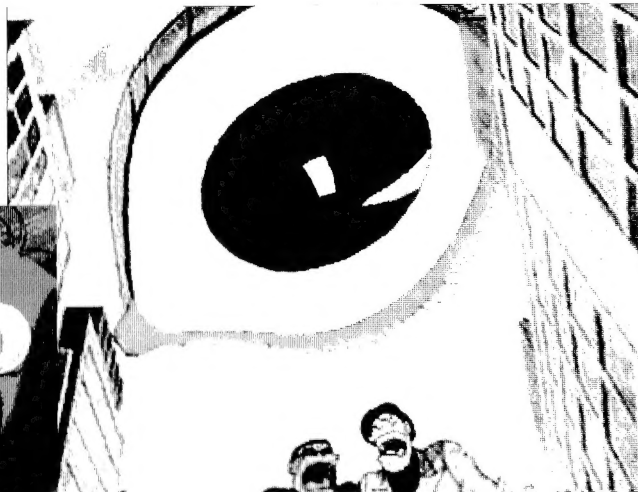
○う〜ん、ちょっと不気味なので。(No.260坂本幸子)

○親類の男の子(現小学校3年生)の推薦です。(No.320 海上知明)

●**総評として…**

『闇・影・暗さ』…水木漫画からは切り離せない世界観とも言えるこれらの言葉を挙げている人が目立つ。こだわりを感じさせる演出の評価も極めて高い。しかし、小学3年生がこの話を選ぶとは…。







第2位『鬼太郎の地獄流し』

(総得点＝38) ●第35話　演出／宇田鋼之助　脚本／島田満　作画監督／出口としお　美術／松宮正純

あらすじ

指名手配中の大黒と二郎が逃げ込んだラーメンやには鬼太郎たちがいた。鬼太郎の目つきに腹を立てた大黒は鬼太郎を撃ち、再び街中へ逃走するが、鬼太郎はもちろん死んでいなかった。2人は拾ったダイヤに吸い込まれ人が誰もいない街へ。どこからか聞こえてきた鬼太郎の声が、2人にそこは地獄だと告げると、風景は解けて砂漠になる。さまよう人は笑顔と引き替えにに砂かけ婆から水を、若さと引き替えにこなき爺からラーメンをもらう。ホテルに入った2人にメイドの猫娘は泊まるには、母親の思い出が必要だと告げる。記憶を蘇らせた二郎は一生懸命生きるという母との約束を思い出し、ホテルの外へ。目を覚した二郎は元の世界へ戻ったが、大黒は…

COMMENT
~皆さんからのコメント~

○正義のヒーローではなく妖怪としての鬼太郎が描かれていて仲々のケッ作でした。(No.14 古賀弘明)

○『鬼太郎を粗末に扱うとたとえ人間でもヒドイ目に合う…』タタリ神の末裔といったカンジでいいですね~。やっぱりこうでなくちゃ。ところで鬼太郎サン、101話にでてきた黒いオヤジを「地獄流し」にしてやってください!!(No.21木村香織)

○地獄流し、これをやってほしかったんです!!鬼太郎がピストルで撃たれるシーンなど、俗っぽい所が鬼太郎相手だと妙な感じになる不思議。生と死の境界も行き来できる鬼太郎の怖い感じがとてもよかったです。猫娘のウェイトレスさんのような衣装も♡でした!!!(No.176 天谷慶子)


●ひとり残された大黒の運命は…

○鬼太郎が妖怪ではなく人間をこらしめる話を作るところに、スタッフの意欲が感じられた。(No.220 中根優作)

○モノクロ版では2人共助かることになっているのに、今回はひとり助かって一人地獄に残るハメになった。それからどうなったのかちょっと気になります。(No.260　坂本幸子)

○昔に帰ったような人間性を振り返る傑作であると思う。(No.269 後藤隆志)

○鬼太郎の本性があらわれる(?)名作の地獄流しですが、撃たれても死なないのが強烈だったので選びました。悪人ふたりが地獄で何かを得るには、自分の大切なものを失わなければならないという展開はよかったです。(No.314 斎藤美紀子)

第3位『逆襲！妖怪さら小僧』

（総得点＝37）●第33話　演出／佐藤順一　脚本／武上純希　作画監督／飯島弘也　美術／松宮正純

あらすじ

ライブハウスまわりをする憂歌団。今日もガラの悪い客にヤジを飛ばされケンカ騒ぎそんな憂歌団にねずみ男が近づく。ねずみ男に妖怪の演奏場につれていかれ、さら小僧の歌を聴かされた憂歌団のメンバーは、たちまちその曲「ぺったらぺたらこ」にほれこんでしまった。そして、彼らがぺったらぺたらこを¥歌うとたちまち大ヒット。紅白夏の歌合戦への出場も決まったが…。おもしろくないのは持ち歌を盗られたさら小僧だ。さら小僧は憂歌団のメンバーをさらうが、鬼太郎と戦ってやぶれ、あっさり返してくる。しかし、さら小僧の仕返しはこれからだった。無事に戻った憂歌団はステージにたつ。さら小僧が頭の皿を使って見せた禁断の4番を歌ってしまい、、我に返ると、4人は屋台で酒をあおっていた。そう、禁断の4番は時間を巻き戻す呪文だったのだ。

COMMENT ～皆さんからのコメント～

○過去の作品ではイマイチ「音楽的に古くさくて、力のない」ぺったらこの唄だった。でも、今回は水伝ゆかりの憂歌団サンの手によってイケテル曲に生まれかわった♥さすがだね♥ところで、シナリオでは憂歌団のセリフ関西弁で書いてあるのでしょうか？（No.21 木村香織）

○憂歌団が出た。（No.75 千葉昇）

○実は予告編しか見ていないが憂歌団本人が出演しあの歌にメロディを与えたことはそれだけで４部最大の収穫。（No.115 浜崎俊一）

○どこまで話が進んでものほほ～んのほほん。（No.196 石川顕子）

○アニメ化された憂歌団がよかった。でもオチはいまいち。（No.231 糸永正明）

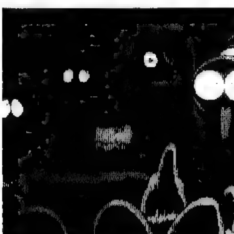


○こちらもストーリーが好きです。（No.251 大坂貴広）

○「ぺったらぺたらこ」が面白い。（No.272 川中茂）

○さら小僧のバカッぷりが良いのと「ぺったら、ぺたらこ」の歌がＣＤ化するなんて夢にも思わなかったです。見ていて幸せになりました。（No.292 天山）





●憂歌団の出演が話題!『ぺったらぺたらこ』も好評。



第4位『言霊使いの罠！』

（総得点＝30）●第101話　演出／角銅博之　脚本／京極夏彦　作画監督／木下和栄　美術／松宮正純



●御存じ京極夏彦氏の脚本・声出演!!

あらすじ　ぬらりひょんが鬼太郎退治のために依頼したのは、妖怪退治を生業とする陰陽道の達人、一刻堂だった。

小学校に夜な夜な妖怪が現れるという手紙を読んで調査に向かった鬼太郎。これが罠だと知り、駆け付ける仲間達。式神たちに苦戦する鬼太郎だったが、本体を壊して式神を倒す。しかし、仲間達は一刻堂の策略により五芒星に配置され、言葉の力で次々と砂山やただの布きれや、土壁にされていく。術で自分の名前も思い出せない鬼太郎。『遥か遠くの言葉の果てに去るがよい!』その時ぬらりひょんたちの『ざまあ見ろ鬼太郎。さよなら鬼太郎!』という声に自分が誰であるかを思い出す。術はとけ次々に復活する仲間達。『鬼太郎くん。君を祓うのは中止だ。』一刻堂はもともと乗り気でなかったのだ。逃げていくぬらりひょん達。戦いの後、鬼太郎は目玉親父に尋ねる。『僕達って本当は…』『無いと思えば何も無い。あると思えばすべてある。わしらを知っている人がる限り、わしらはここにいるし、こうしてわしらがいる限りこれが現実じゃあ。』『そうーですね。』夕日はゆっくりと沈む。

COMMENT
～皆さんからのコメント～

○（ちょっと異色ながらも）人間対鬼太郎という図式がいいですね。久々に小学生トリオが出てきたという点では京極夏彦、律儀な奴!!（No.14 古賀弘明）

○うむー!これをベストに選ぶのはチトくやしいが、オリジナルキャラを出してくれたし、話自体も楽しかった。（No.70 幸治 亮）

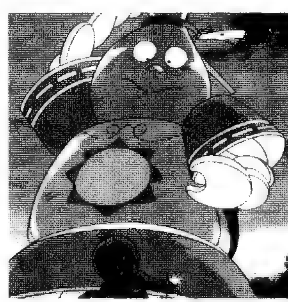
○当然かな。（No.75 千葉 昇）

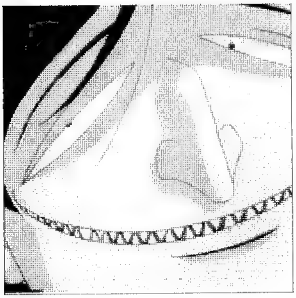
○いままでに見たことのない話。一刻堂がしゃべりまくるあのシーンは圧巻でした。あの独特の空気は京極氏の個性を全面に押し出した脚本がなせる技なのでしょうか。（No.171 亀田真理）

○つっこんで深い内容だったからです。30分内では難しい感じもありましたが、これは絶対、やってほしいテーマでした。鬼太郎は作品のワクを超えて生きていると自分はずっと思ってきましたから。（No.176 天谷慶子）

○京極氏の鬼太郎への思い。それに答えたスタッフ陣。見事です。（No.255 酒井信行）

○原作には無いが、脚本の京極夏彦が良かった。（No.272 川中 茂）

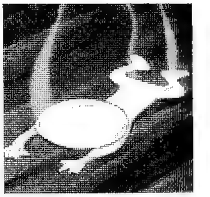




COMMENT
〜皆さんからのコメント〜

○あの長編を見事なアレンジで短縮したのはすごいと思います。個人的には「コロリポンですよ」を聞きたかった。（言ったっけ?）（No.14 古賀弘明）
○佐野史郎さんの声がけっこう良く合っていたと思う。（No.26 笠井友紀子）
○30分ではもったいない！前後編で、もっと原作通りにやってほしかった。（No.168 佐々木すぐる）
○なんといってもあの佐野史郎のアフレコがgood。（No.146 向後靖史）
○佐野史郎がエリートの声をやっていたというだけで感激。彼の歌が心に残る。（No.220 中根優作）
○原作が好きなので。欲を言えば、鬼太郎がとかされるとことかやってほしかった。（No.260 坂本幸子）
○「エリートの歌」も佐野史郎氏も良い。（No.272 川中茂）

あらすじ 頭のいい美女ばかりを狙う吸血鬼エリート。次の目標は、流行病の特効薬を開発中の、天才美女・綾子。ボディガードを依頼された鬼太郎。だが、吸血鬼エリートはギター催眠でねずみ男を味方につけ、まんまと綾子をさらってしまう。にんにくや十字架を持ってエリートの館まで乗り込む鬼太郎。だが、対鬼太郎用の催眠ギター曲を弾くエリートの前に、鬼太郎は深い吸血砂の地獄谷に落とされてしまう。目玉の親父と黄金虫の活躍で、谷を抜け出した鬼太郎とエリートとの対決が再び開始される。ギター催眠にかかったかに見えた鬼太郎だが、耳栓で見事エリートの裏をかき、エリートを逆に砂の地獄谷に突き落とすことに成功! 一千年かけて蓄えた、美女の血を砂に吸われ、エリートは、ただの吸血コウモリとなって、妹の吸血コウモリ、ティナと夜空に飛び立っていくのだった。



第5位『吸血鬼エリート！』

（総得点＝26）●第57話　演出／吉沢孝男　脚本／橋本裕志　作画監督／木下和栄　美術／松宮正純



●水木ファンでもある佐野史郎氏によるエリートの声が高評価。

第6位 『髪の毛地獄！ラクシャサ』

（総得点＝23）●第89話　演出／角銅博之　脚本／小中千昭　作画監督／木下和栄　美術／徳重賢

あらすじ 鬼太郎に会いにきた猫娘。鬼太郎が留守でがっかりしている所にねずみ男が現れる。「おめえみてえなずーっとガキの猫女なんかより、男同士の友情の方が重てえんだよ」 ずーっと子供…。猫娘は傷つきながら、街に出る。たまたま出会った大人びた女性に惹かれ、喫茶店に入るが、そこで無数の髪の毛に襲われる。驚いて飛び出した猫娘だが、今度は洗面所の前で、伸びだした自分の髪の毛に驚き、気を失ってしまう。 一方、砂かけたちは、自分の会いたいと思っていた姿をした髪の毛に襲われ大変な目に遭っていた。そうとは知らない鬼太郎は猫娘の呼びされ、喫茶店に向かう。そこに待っていたものは、大人の姿に変わっていく猫娘と、襲いかかる無数の髪の毛だった。砂かけたちも、髪の毛に自由を奪われてしまう。そこに目玉の親父が、インドの行者を連れて登場。その魔法の砂に、妖怪ラクシャサが正体を現す。強力な髪の毛の攻撃に苦戦するも、正気に返った猫娘の助けで、退治することができたのだった。

COMMENT ～皆さんからのコメント～

○猫ちゃんのロンゲ一度観てみたかった。色っぽくていいね♥。（No.26 笠井友紀子）

○同人誌っぽいテーマだったので意見は分かれるでしょうが、私は歳がいもなくドキドキしました。（No.70 幸治 亮）

○このあと「一刻堂」の回でその圧倒的な実力を発揮する角銅博之氏の演出。独特の暗いムードがいい。ところで他のアニメ系サークルの女の子たちは「最後アイスクリームでごまかす鬼太郎はずるい」と言ってましたがみなさんはどう思います？（No.21 木村香織）

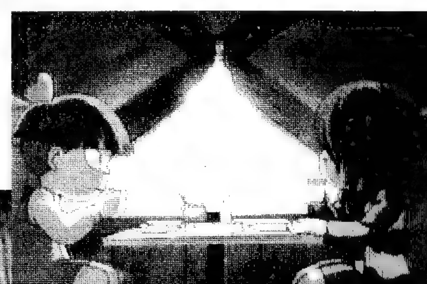
○猫娘がプリティ。（No.168 佐々木すぐる）

○大人になった猫娘がきれいで色っぽかったのもありますが、全体を流れる雰囲気がレトロっぽくて良い。地下鉄のトイレでの髪がのびるシーンや喫茶店での猫娘が化け物化するシーンが迫力。（No.171 亀田真理）

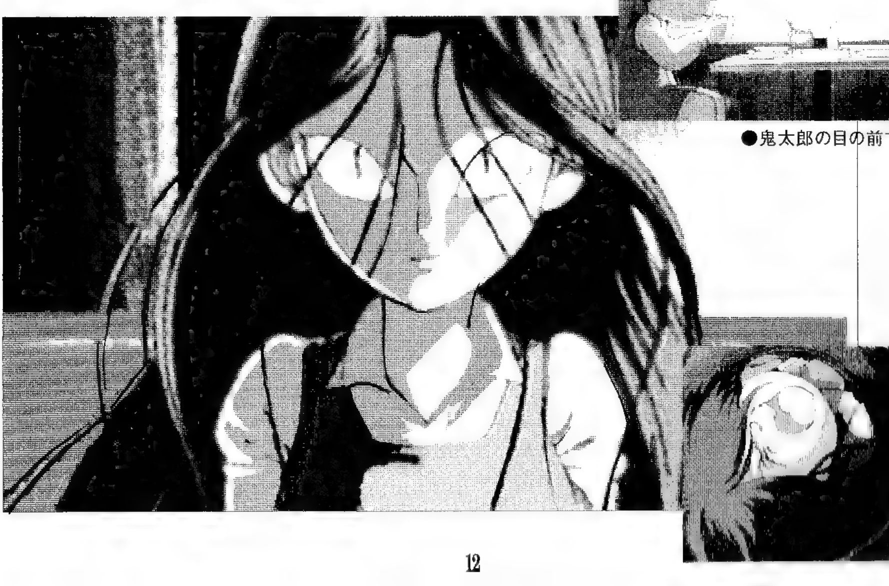
○猫娘を大人にする発想が鋭く幻想的で感動した。（No.269 後藤隆志）

○4作目としては珍しくラブコメが含まれている話だったので選びました。たまらなく優しい鬼太郎を見せつけられて「なんでそんなに優しいんだ？」と思ってしまう程でした。（No.314 斎藤美紀子）





●鬼太郎の目の前で成長していく猫娘





第6位『幻想譚・猫町切符』

（総得点＝23） ●第28話　演出／吉沢孝男　脚本／大橋志吉　作画監督／出口としお　美術／鹿野良行

あらすじ ねずみ男に頼まれ行方不明の秀夫をさがすことになった鬼太郎は、ノラ猫のの後を追ってデブ猫に会い猫町の存在を教えられた2人は、地下鉄猫町線で猫町へ。途中猫になった2人は見渡すかぎり猫だらけの猫町で、猫になった秀夫を見つける。だが秀夫はもう、人間に戻るつもりはないという。そこへ現れた猫又はねずみ男の正体を知り2人を捕らえてしまう。取り囲まれた猫たちに喰われそうになった2人を救ったのは、猫娘だった。秀夫は猫になった妻や息子と再会、猫町で暮らすことに。鬼太郎たちはもとの姿で人間界に戻る。「最近ノラ猫が多いですね。」「行方不明者が増えるとノラ猫も増えるというがのう。」猫娘以外は猫町の記憶をなくしていた。

COMMENT 〜読者さんからのコメント〜

○猫ちゃん関係が好きなもので…（No.26 笠井友紀子）

○原作と照らし合わせても遜色のない脚本で、幻想的な話をうまくまとめあげ、ウソっぽさを感じさせない。（No.122岩松真澄）

○全体的に漂う妙なふんいきが好き。（No.168 佐々木すぐる）

○小説「猫町」が好きなもので…。（No.220 中根優作）

○70年代作品の短編のアニメ化であるということがうれしくて楽しみでした。猫目玉親父がかわいいです。（No.241 長澤美奈）

○原作が大好きだしストーリーも好きでした。（No.251 大坂貴広）





●行方不明の人がふえるとノラ猫がふえるというが…？



●ひきずりこまれるぬらりひょん

第6位『ぬらりひょんと蛇骨婆』

(総得点＝23) ●第78話　演出／佐藤順一　脚本／田村竜　作画監督／八島善孝　美術／松宮正純

あらすじ 必ず帰ってきます。と置き手紙を残して鬼太郎がいなくなってから3日が過ぎた。どうやら、ぬらりひょんが関係しているらしい。手がかりをつかめないまま、目玉のおやじたちが心配していた。一方、ぬらりひょんは、古代岩と、妖怪コンクリートによって鬼太郎を封印し満足していた。だが、封印されなかった鬼太郎のリモコンゲタがぬらりひょんの周囲を動き回りはじめる。鬼太郎はまだ死んでいないのか。ぬらりひょんがゲタを始末しようと、蛇骨婆共々ゲタを追いかけまわす。悪戦苦闘を続けるがどうしてもゲタを捕まえることができない。「墓場といえば鬼太郎にとってゆりかごも同然。生きていても不思議ではない」ゲタを封印しようとした壺によって蛇骨婆は逆に封印されてしまう。業を煮やしたぬらりひょんが、鬼太郎を封印した古代岩に戻り、封印を確認しようとするが、その場所に立った瞬間、雷鳴が轟き、鬼太郎が復活。ぬらりひょんと朱の盆は鬼太郎と入れ替わりに妖怪コンクリートの池に沈められてしまう。

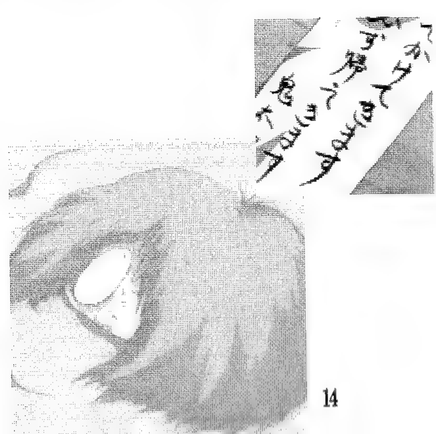
COMMENT ～皆さんからのコメント～

○うーん、やっぱり水木作品にムダなセリフは必要無いということを証明してくれた。(No.70 幸治亮)

○できれば人間相手にこれやってほしかった。(No.168 佐々木すぐる)

○スゴイ話でしたね。冒頭のシーンからして印象的ですが、鬼太郎がコンクリートでうめられる所とラストは夢に見そう。手が下駄にうまく置き換えられ(手ならもっと怖いだろうが…)ぬらりひょんの恐怖もみごとに表現されています。原作に近いイメージの誕生シーン。うれしいですね。(No.171 亀田真理)

○まさかこの話で『幽霊一家』の誕生シーンをやってくれるとは思わなかった。それ故。(No.196 石川顕子)



第9位『霊園行・幽霊電車！』

（総得点＝22）●第33話　演出／宇田鋼之介　脚本／大橋志吉　作画監督／直井正博　美術／松宮正純

あらすじ　夜の繁華街、幽霊の出るトンネルの話をしながら、頭からお化け、妖怪の存在を信じる人間をバカにする山田と小林。そんな二人にポツリと「妖怪はいるんだ」とつぶやいて立ち去ろうとする鬼太郎。それを聞きとがめて、鬼太郎をこずく彼等に、「この分のコブはおかえしするよ」と告げる鬼太郎。何も知らずに去っていく彼等の後ろ姿を見送りなが ら、「僕たちのやりかたで思い知らせてやる」とにっこり笑う鬼太郎。最終電車を逃した山田と小林が乗った電車は、霊園行きの特別列車。鬼太郎の「墓場行き、霊園列車出発！」の合図とともに、奇妙な列車が出発した。霊柩車のきしむような電車の音。火葬場の扉のようなドアの音。子泣き爺、ネコ娘、砂かけ婆達の大サービスの脅かしぶりに、慌てて電車を飛び降りた彼等の頭 には、鬼太郎と同じようなコブが・・・

COMMENT

○妖怪と戦う鬼太郎より人間をこらしめる鬼太郎は実に妖怪らしくて観ていて心地良いと思います。（No.14 古賀弘明）

○原作からして大好きな話です。あのガイコツ駅員の吹く「ショウキ」のピ～という音が良すぎる。（No.70 幸治亮）

○昔から好きなストーリー・キャラに時代の変化はあるものの内容は不変。（No.146 向後靖史）

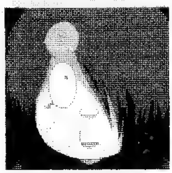
○久し振りに『怖い鬼太郎』が見れて嬉しかった。なにより「…よくある事ですよ（以下略）」のセリフがgood!!（No.196 石川顕子）

○原作通りの画にシビレタ。（No.231 糸永正明）

○「夜叉」の貝澤さん（演出の方）が外れても、怪奇な話は見られるのだなと…(笑)地獄流しより怖かったです。シリーズ後半もこういう話観たかった。（No.241 長澤美奈）

○どのシリーズも通してだけどこの話は怖い！今回もやっぱり怖かった。（No.292 天山）

○鬼太郎の逆襲ネタで、鬼太郎とねずみ男のささやかな友情が見られたので選びました。原作の良さがアニメの中でちゃんと反映されていたと思います。（No.314 斎藤美紀子）





●ホームにはいつのまにか不気味な乗客たちが…



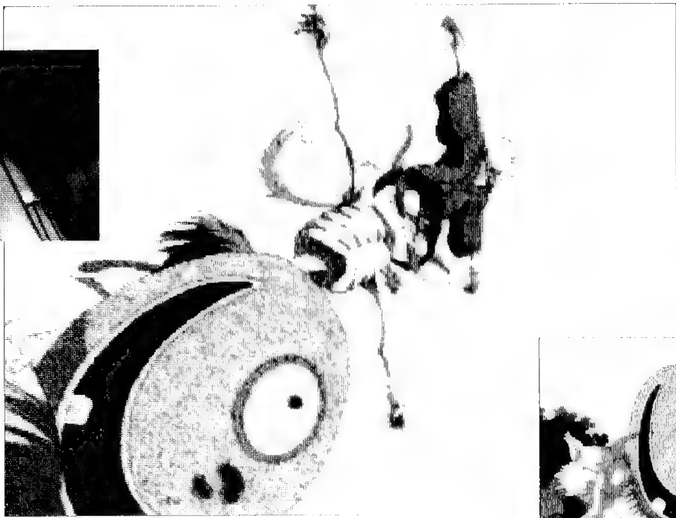
●ほねつぼ～、ほねつぼ～



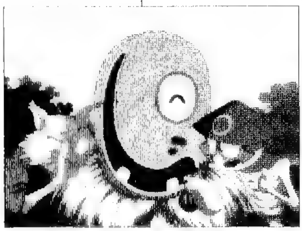
第10位『鬼太郎対三匹の刺客』

(総得点＝20) ●第113話　演出／細田守　脚本／矢島大輔　作画監督／木下和栄　美術／徳重賢





●これが妖気合体だ!!



COMMENT ～皆さんからのコメント～

○私は鬼太郎がムリに戦わない話が好き。これは戦わないどころか勝手に自滅する楽しい(?)話。作画もキレイで良い。もう一つ決め手に欠けた後半シリーズのうるおいになったと思う。(No.21 木村香織)

○とにかく絵が素晴らしい。クロサワ映画のよう。(No.64 水上文生)

○人を食った脚本、鬼太郎が狂言まわし(何もしない)的に使われ、脇役が主役と、作家が楽しんで書いてるのがおもしろい。(No.115 浜崎俊一)

○面白かった。後半の低迷した雰囲気をブチ破ってくれるくらいに凄かった。笑いをとる『間』が絶妙!!(No.196 石川顕子)

○主の盆がねずみ男にだまされ、三匹のダメ妖怪をやとう話。上質のギャグアニメーション。笑った。笑った。(No.220 中根優作)

○肩のこらないギャグ物もなかなか見てて楽しい。。(No.269 後藤隆志)

あらすじ

鬼太郎を倒すべく、助っ人探していた朱の盆はねずみ男の口車に乗り、見かけ倒しの妖怪五徳猫・如意自在・山爺の3人を雇うことになる。3人をすっかり信用しぬらりひょんは鬼太郎をついに倒せると大喜び。鬼太郎が相手と知り五徳猫と如意自在は逃げ出そうとするが失敗、ついに3人はぬらりひょんたちと鬼太郎の家へと向かう。鬼太郎が留守でほっとした所に、鬼太郎と猫娘が買い物から戻って来る。ついに対決となるが、五徳猫は自分が吹いた炎にやられ、如意自在は勝手に木に激突し、山爺に至っては木の実を蒔くだけ。そこで3人は最後の手段、『妖気合体』(＝一種の肩車)で向かっていくがバランスを崩し、五徳猫は吹っ飛び、買い物袋をめちゃくちゃにされ怒った猫娘によりこてんぱんにされる…鬼太郎が何もしないまま、この戦いは終劇した。



特別企画

制作スタッフが選んだベスト5

（編集者注：このアンケートは4作目終了後まもなくお答えいただいたものです。）

清水慎治さん（プロデューサー）

COMMENT

1～63話まで自分が担当した作品の中から選んでみました。その他ノスタルジックな「くびれ鬼」「猫町切符」「オバリヨン」、怖い鬼太郎パターンの「幽霊電車」、佐野史郎が曲まで作ってくれた「吸血鬼エリート」、宮沢賢治で少し味付けした「笠地蔵、ねずみ男に寅さんのイメージをダブらせた「おりたたみ入道」なども好きです。そうそう映画の「おばけナイター」もよかった。でも、なんといっても「夜叉」が最高だったな。演出の貝沢クンは7話の「のっぺらぼう」のコンテまでで他の作品に移ったのがかえすがえすも残念。次回は「夜叉」みたいな作品をどんどん作りましょう！

今頃鬼太郎たちはゲゲゲの森でのんびりと朝寝を楽しんでいることと思います。もう少しゆっくりさせてあげませんか。そのうち向こうからやって来るはずです。なお、現在私は3D（立体）の鬼太郎の制作をしています。来年の春ぐらいから全国のイベント会場で上映されます。アニメとは違うCGの鬼太郎ですが、なかなかの出来だと思うのでぜひ機会があったらみて下さい！

一位 第3話『ギターの戦慄！夜叉』
二位 第17話『海奇！妖怪さざえ鬼』
三位 第31話『妖怪変化！傘化け』
四位 第33話『逆襲！妖怪さら小僧』
五位 第35話『鬼太郎の地獄流し』

蛭田成一さん（プロデューサー）

一位 第78話『ぬらりひょんと蛇骨婆』
二位 第109話『雪山の怪異のびあがり』
三位 第113話『鬼太郎対三匹の刺客！』
四位 第85話『魔境・土蜘蛛の山』
五位 第100話『暗黒の招き・妖怪影女』

有原美千代さん（プロデューサー補佐）

COMMENT

別格として（ゲスト編）#33のさら小僧、#57の吸血鬼エリート、#101の言霊つかい…次回のキタローにはもっと怪奇な味わいを出せればいいと思います。（#78は、原作で使えなかった「」手¥のテイストを生かした話だったので…）

一位 第3話『ギターの戦慄！夜叉』
二位 第28話『幻想譚・猫町切符』
三位 第78話『ぬらりひょんと蛇骨婆』
四位 第16話『あかなめと白うねり』
五位 第17話『海奇！妖怪さざえ鬼』

番外編

森野達弥さん（漫画家・水木プロ出身）

COMENT

順位をつけるというのはモノスゴク心苦しいので印象に残ったものを書き出しました。清水プロデューサーもほぼ同意見で第4シリーズを総括する趣旨に喜んでいました。実はまだまだ「鬼太郎」は終わっていないそうです。清水さんも¥楽しみにしていますのでいい本にして下さい。ボクも楽しみにしています。

一位 第3話『ギターの戦慄！夜叉』
影の使い方がgoodでした

二位 第101話『言霊使いの罠！』
話題性では文句ナシでしょう 絵もよかった

三位 第35話『鬼太郎の地獄流し』
原作のムードに近かった？

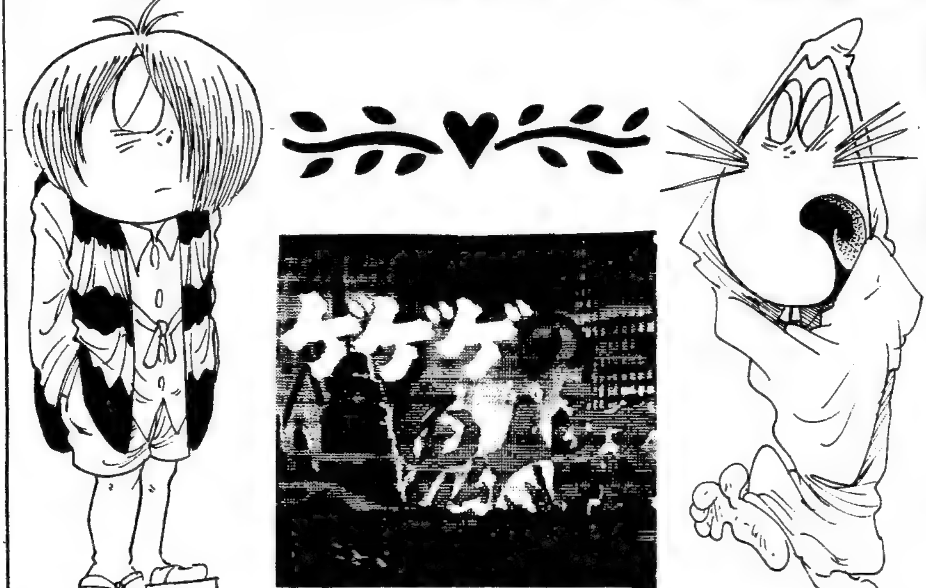
四位 第113話『鬼太郎対三匹の刺客！』
間のとり方とキャラの味、作画もgood

五位 第78話『ぬらりひょんと蛇骨婆』
「絵」を意識したスゴクいいムードの一ペン



アンケートに御協力くださったスタッフの方々、会員の皆様、ありがとうございました！！

アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」第4部感想集



◀ NO.[illegible]4　古賀　弘明 ▶

ベスト5の選考につき、全ビデオテープ確認の為、連絡が遅れ申し訳ありませんでした。私の選んだベスト5は

1.「髪の毛地獄！ラクシャサ」
2.「怪奇！人食い肖像画」
3.「悪夢！妖怪地獄」
4.「鬼太郎の地獄流し」
5.「鬼太郎対3匹の刺客」

以上の5作品です。

感想としまして、第2部での「地相眼」「妖怪水虎」「隠れ里の死神」等のもの悲しい結末の作品群の名作に負けない実に人間的な暖かみのある作品及び第1～3部で発表の作品の改良の作品。第4部のみのオリジナル作品など、非常に内容も充実している。

第4部全体を通して、良かった点、面白かった点は、1回登場した妖怪が他の作品にて時々出演したり、猫娘の顔もカワユクなりギャグも「鬼太郎と3匹の刺客」のような作品も楽しませてもらいました。悪い点、残念な点はねずみ男がドライなイメージが強かったのですが、第4部にかぎり、やさしい感じで時代の流れなのかな～と、感じている次第です。

NO.269　後藤　隆志

第4部は第3部に比べて仲間の妖怪の登場回数が少なかったような気がする。僕は第3部を小学校2年生の時に初めて見て「ゲゲゲの鬼太郎」の存在を初めて知った訳だがその時は絵もおどろおどろしくて、仲間の活躍も多かったような気がする。

そして次回予告の時の「扉のむこうで何かが起こる。」というのがゾクゾクして毎週すごく楽しみにしていた。が、第4部は、絵がキレイで昔のような恐ろしさがなくなってしまったような、気がする。あと最も嫌だったのが「塗壁」と「一反木綿」が同じ声優だったことだ。

次回のアニメ化は第3部のような傑作を期待しています。

NO.297　岡本　裕義

アンケートですが、ベスト5ということで、選ぶのがとっても難しかったです！好きな話はたくさんあって、しぼるのが・・・。
　4作目が始まった時、3作目の影を追い求めていた私ですが今はもうそんなこともなくなりました。それぞれの時代の中で生き続けられる鬼太郎がスゴイ！と思います。大好きです!!!
　4作目は感動できる話が多く、面白さバツグンだし、見ていて本当によかったです。まるで気でも狂ったかのように鬼太郎に惚れこんで10年。また新たな鬼太郎が現れてくれて幸せでした!!!
　これから2000年になっても、鬼太郎は生き続けてほしいです。自分の心の中だけじゃなく。いつまでも。

NO・176　天谷　慶子



NO．14　古賀　弘明

ゲゲゲの鬼太郎アニメ版第4部の感想を書かせて頂くと、今回のアニメ版は私はゲゲゲの鬼太郎ですらないとさえ思っています。なぜなら、（これは多くの方々がすでにおっしゃている事なのかも知れませんが）鬼太郎原作にある、あの独特の雰意気、禍々しさ、怠惰感、不気味さといったようなものが、少しも感じられず、かわりにさわやかさ（それも妖怪を退治したあとの）、こぎれいさが満ちている気がしたからです。
　もはや鬼太郎はヒーロー化され、人間味たっぷりで、妖怪であるということすら忘れてしまいそうです。個人的に、ゲゲゲの鬼太郎には、戦う相手も鬼太郎もみんな含めて妖怪であり、最後には皆が仲良く和解しあってまた、いままでの平穏な暮らしに戻っていく・・という所にロマンを感じているので、どうも"悪い妖怪を退治する"というアニメの感覚は好きではありません。
　などと勝手なことを書きましたが、本当は1～2回見て、「あ、これちがう」と思ってその後は数回しか観ていないので、アニメ版についての批評をできる身分ではないのですが・・・。
　このように批判ばかりをしてきましたが、今回のアニメの良いと思った点も挙げておくと、環境問題について考えさせられる内容であったという点です。これを多くの子供たちが観ていることを祈りました。（と書くとオーバーかもしれませんが・・・。）
　結論的には、アニメ版は、やはり子供たちのために作られたもののようで、大人側にはすこしもの足りない感がある気がします。

NO・000　津和野　えりか



NO・14　古賀　弘明

まず初めに僕の住んでいる東海テレビエリアの事を述べなくてはなりません。実は東海テレビは鬼太郎の放送が東京圏よりも何ヶ月も遅く放送時間も金曜午後 4 時からでした。4 時といえば僕はまだ学校です。毎週ビデオに録画をするものの、忘れることもしばしばでした。おかげで、京極さんの「言霊使いの罠！」は見ることができませんでした。しかもその回の翌週から放送時間帯が火曜夜 7 時の放送になったのです。最初僕はその事に気がつかず「ああ、いつのまにか最終回になってしまったのか・・・」と思っていたほどです。気がついて慌てたのですが 5 月の終わりには（ようやく）最終回をむかえてしまいました。

そのような状況なので感想を述べることができるほども見てない、というところが本当のところですが、まあ、読んでやって下さい。(長い前置きですみません)

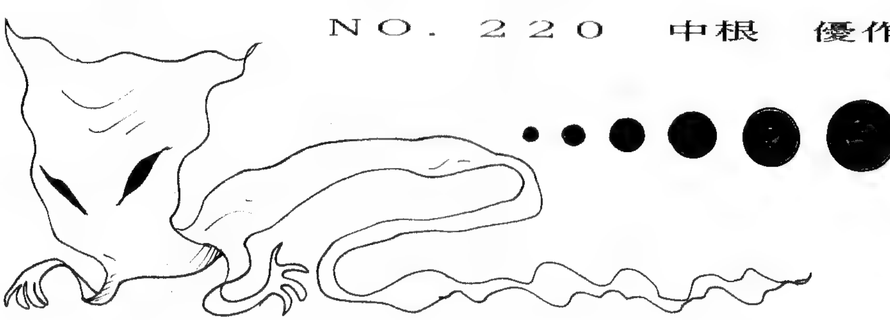
第 1 話を見たとき、まずそのオープニングに驚かされました。鳥の飛び交う墓場の中を鬼太郎がまっすぐこちらに歩いてくる、あの懐かしのシーンです。これだけでスタッフがどんな鬼太郎像を目指しているかよく分かりました。しかし”夜叉”の出てくる回や、”地獄流し”など秀作もあるのですが、話の後半からは（京極さんも言っていましたが）結局第 3 シリーズのようにおちゃらけた話が目立つようになり、スタッフのパワーダウンが感じられました。鬼太郎は人間をいじめる悪い妖怪やっつけるというのが基本的なパターンなのに、後半はいきなり鬼太郎対悪妖怪（特にぬらりひょん）の話が目立ったの思います。また、わき役キャラの姿と声の乖離があったように思います。

しかし「吸血鬼エリート」の回や、「言霊使い・・・」の回のようにビッグなゲストが登場するのはおもしろかったですね。声・佐野史郎とでたときは、フハッとなったものです。

しかし全体的にみるとパワーダウンがやはり惜しまれるシリーズになったと思います。

最終回は見ました。しかしあれでは、まだ第 3 シリーズ地獄編の最終回のほうが泣けると思いませんか？

NO．２２０　中根　優作



NO．１４　古賀　弘明

① はじめに

「原作に忠実に！」のスローガンのもと、放送開始された本作ですが、残念ながら「夜叉」等の意欲作がみられた前半に比べ後半はマンネリ化が目立ち、ジリ貧になり、ついには関西地方で放送打ち切りにおいこまれるという事態になってしまいました。

ここでは見られなかった数話を除き、全体をふりかえってみたいと思います。

② 作画

前3作と大きく異なる点は、なんといっても描き込みの細かさ、色の美しさです。ねずみ男の衣装、鬼太郎のチャンチャンコの柄など今まではベタ塗りで済まされていた部分もきっちり描かれていいます。特にキャラクターの髪の流れなどは、今までのベタ塗りではなく線描であったため、自然な動きになっています。

全編を通じて感じたことはアニメの美しさと、その影にある制作現場の苦労でした。

③ 音楽

これも前3作と比べ、重厚かつ情趣あふれた曲になっています。サントラ版がVOL1で止まってしまっているのが惜しいくらい。中でも戦いのシーンの時にかかる曲（サントラNO17〜22）クライマックスの時にかかる曲（同NO23〜26）が逸品です。（これらの曲は他曲、他番組でも使用され、筆者が確認したところでは毎日TV「動物奇想天外」、日本TV「笑ってコラえて」などのバラエティものに使用されるケースが多かったですね。）

独立しても通用するBGMが多かった点も第4部の特長だと思います。（妙に売らんかなのCD展開も今回はあまり目につきませんでした し。）

④ 脚本

この第4部の長所であり短所でもありました。前半作品では、いわゆる「善対悪」の柄にとらわれない"苦しい勝利"や"独りよがりの善のもたらす悪"とかけっこう深いところをついてくる野心作が多く、見ている方も子供向きとなめてかかるのにはあまりにも手強い、ある程度の気合いを要求される作品（いうなれば昔の「怪奇大作戦」とか「ウルトラQ」といったもの）をたのしめていたのに対し、中盤あたりから、いわゆる「水戸黄門」な類型的なストーリー展開が目立ちはじめ、見ていて気抜けするようになってからは、リアルタイムで見ることが少なくなり、VHSでとりっぱなしということが多くなりました。

最後にリアルタイムで見た作品は73話「土ころび」でしょうか。あと関西で最終話の「水虎」ぐらいですね。（LDBOXがでたとしてもほしいのは前半部で中部、後半はちと考える・・・）あっ！これからはDVDの時代か・・・。



NO.11 古賀 弘明

⑤ 模型、おもちゃ

第3部のことを思えば、今回のはあまり立体にめぐまれませんでした。「ニットー妖怪シリーズ」イマイの「妖怪シリーズ」（鬼太郎、ねずみ男、妖怪自動車）の再販が行われ、ワンフェス、ジャココンでアマチュアモデラーによる立体物が発表され、メーカーも昔のソフビ人形の再販物を限定ですが、リリースされたことは今回の収穫ですね。

　ただ、「EVA」HG、LMシリーズのように軟質ゴムの本体の中にプラフレームを仕込む、あの様式の妖怪プラモを期待していたのですが・・・。（昔のニットーの油すましやガンマーがフル稼動するものだと思って下さい。

⑥ 終わりに

　どうも後半〝子供にこびた〟展開が目立ってしまった第4部ですが、次回第5部が作られるのならOVAで、スポンサーの思惑に左右されない大人がみても思わずひきこまれてしまうような作品を作っていただきたいと思っています。実際前半ではそういう作品が多いのですから。

NO．122　柳葉　蛙



NO．14　古賀　弘明

＜さようなら ゲゲゲの鬼太郎＞

アニメ「鬼太郎」が終わって
しまったのはとても残念です。
今回ので4回目に
なっていたんですけど、
ストーリーからして原作に
少し近づいてきていたと思います。
オリジナルもありギャグも多く
けっこう笑わせてくれました。
今のアニメはどれも同じ絵で
全然ストーリーにいいところは
ないと思います。でも、
「鬼太郎」はちがいます。
あの独特のふんいき、そして
個性あふれる数々の妖怪たち。
「鬼太郎」はどの時代に
なっても存在すべき
キャラクターです。
今度はより原作に近づいた
「鬼太郎」を見てみたい。
（例）
「鬼太郎夜話」アニメ化！ ← 劇場版とか。
それと「悪魔くん」をもう一度みたい ← もちろん原作版



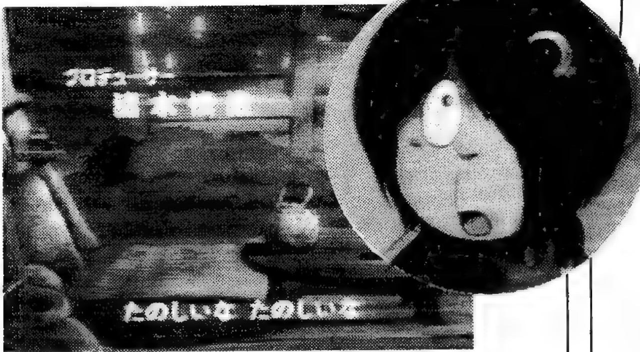




NO．000　加藤　純平


よしだよしえ
アニメの
鬼太郎日記
キタロウさんが 超ダンディーに 生まれ変わった♡ うっふ〜ん
て女のハートをくぎづけ!
大海獣で はだかになってた キタロウさん♡ やんはずかし〜
ねこちゃんと キタロウも イイ感じでしたね
イヤン バカン
ねこちゃんの アダルト Sexy でしたよね
ねずみチャンが 良いヒトになってたわね♡ 私はあんなねずちゃんも スキスキ♡ん〜もぅ!!
オレに ほれちゃ ケガするぜ!!
おやじは 2000年の味を 出してたぜ!!
まあな
映画館のオマケの キタロウシールが入ってなかったぞ!! 全員プレゼントだろ〜!?
←中学生が もらうなよ〜〜 (当時) 今は高校生ヨ♡

ゲゲゲの鬼太郎 6つの見所



① 幻想的なオープニング

新しく始まるアニメ版鬼太郎に、正直な話期待よりも不安の方が大きかった。それは前作が自分の知っている鬼太郎から大きく脱線した演出と云う事だからだ。だが、そんな不安を一掃したのがオープニング。憂歌団の歌う主題歌と見事にマッチし、実に幻想的なのだ。オープニングは番組の顔なので今回の鬼太郎が原点回帰した事を教えてくれる。



② 原作に忠実

今回の鬼太郎は原作に忠実。ストーリーはオリジナルが多いが、そんな中でも「さざえ鬼」と「まくら返し」の話は殆ど原作通り。また設定の方でも鬼太郎の性格をクールなものにしたり、ちゃんちゃんこの縞模様も原作通りに戻した。前作の夢子に相当するオリジナルキャラクターも登場するが、鬼太郎とのロマンスも無い。





③ 凝りに凝った演出

とにかく演出が素晴らしい。最高傑作と呼ばれる第三話の「夜叉」編はその代表作だろう。上の絵は地下鉄の天井に張り付いた猫娘が電車の照明でその存在が確認される場面であるが、他にも高架下を走る鬼太郎がシルエットのみで描かれるシーンや目玉親父の眼球に写し出されるねずみ男の姿等、凝った演出である。



⑤ 豪華！ゲスト声優

第33話「逆襲！さら小僧」の憂歌団を始め第57話「吸血鬼エリート」の佐野史郎、第一〇一話「言霊使いの罠」の京極夏彦と今回のゲスト陣はとにかく豪華。だが、もう一人忘れてもらっては困る人がいる。それは第39話「妖狐・白山坊の花嫁」で白山坊役を演じた大塚周夫さん、初代ねずみ男です。



④ 出た！鬼太郎誕生編

第78話の「ぬらりひょんと蛇骨婆」の中で鬼太郎の誕生が描かれている。ぬらりひょんの罠で地中に埋められた鬼太郎。完全にぬらりひょんの勝利と思われたが彼らの前に鬼太郎の下駄が…雨も強く降りぬらりひょんの仲間の蛇骨婆が鬼太郎の誕生を語り出す。前作「地獄編」のいい加減な誕生編と違って本当に怖かった。



⑥ 怪奇性を強調！

コミカルな前作とは違って怪奇色の強いエピソードが多く存在する。第35話「鬼太郎の地獄流し」と第53話「霊園行・幽霊電車」ではゲスト妖怪は一切登場せず、人間を懲らしめる恐ろしい鬼太郎が活躍する。コミカルな鬼太郎も良いが、やはり鬼太郎は怖い方が面白い！

ゲゲゲの鬼太郎

〝イイ話〟ばかりじゃないから鬼太郎は面白い

赤星政尚（編集＆著述業）

東映動画制作の番組は、いまどき珍しくチーフ・ディレクター（総監督）システムをとらない。代わりに、番組の立ち上げから一クール分（十三話ごと）を取り仕切る〈シリーズ・ディレクター〉というシステムが採択されている。これはまあ、同社制作の番組は基本的に原作ものであるから、約束事の確認さえしっかりできていれば、という事情などからだろう。もちろんチーフ・ディレクターがいないということは、演出家それぞれのカラーに従って各エピソードの独立性も高くなり、だから面白い。原作からして各話読み切り形式、もっというなら原作者・水木しげる一流のアバウトさが絶妙の味になっている『ゲゲゲの鬼太郎』は、実に東映動画向きの素材、とはいえまいか？

ただ、チーフ・ディレクターに代わるシステムはもちろん採択されており、東映動画の番組は一概に、プロデューサーのカラーが色濃い、そう、プロデューサー・システムで作られている。とくに、一人の脚本家が文芸面を取り仕切る〈シリーズ構成〉というシステムも採択されていない平成版『ゲゲゲの鬼太郎』は、とりわけプロデューサーのカラーが色濃く反映される印象もある。その〝イイ話度〟の高さ（ねずみ男の〝イイ人度〟が高いという大問題を含む）において。

例えば、第二十二話「蜂起！　妖怪泥田坊」（脚本／武上純希、演出／川田武範）のラスト、農業をやめることを考えてた爺さんが、孫の頼みで泥田坊のいる田んぼを残してくれるわけなんだけど、頼むから揺れる金色の稲穂、みたいな希望的観測あふれまくりの画面で終わらんでくれ、という気分にさせてくれることウケアイのイイ話ぶり。

例えば、第五十二話「コマ妖怪・あまめはぎ！」（脚本／矢島大輔、演出／明比正行）のラスト、復活した独楽神木であまめはぎが眠りにつく展開は別にイイ。目玉おやじが言う「物を大事にする心」がテーマ、なのだろうこともワカる。でも、ここに出てくる子供たちは、あまめはぎを怒らせたことに対して、何の責任も取らずに終わる〝イイ話〟ぶり……っておい、それでイイのか？

ここには、日曜朝九時に親と子で一緒に見て、なぜ妖怪が怒ったのか、とか、そんな道徳的なことを話し合ってくださいね、みたいな気分があふれすぎて、ない？

あと、この平成版には、仕事に疲れた中年サラリーマンが仕事よりも家族の絆が云々ってネタも、ひと頃やたらと多かった。そういうものを世の親御さんたちはよしとするのかもしれんけど、〝イイ話〟、つまりハッピーエンドを優先するよりも、否を被るべき存在（サラリーマンネタなら、それは会社でしょ？）をまずきちんと糾弾してほしい。これじゃ、見てる子供をアマやかしてるようにしか見えんのだ。

平成版最大の収穫！

なぜ、こんなことを書いてるかといえば、それは第三話「ギターの戦慄！　夜叉」（脚本／雪室俊一、演出／貝澤幸男）にダマされてしまったから、なのだ。いや、こ

の話はめっぽうイイ。なにより、この平成版最大の収穫、影を強調した美術（背景）が、夜の都会の狭間という舞台のコワさを、無言の圧力をもって物語っている。なんというか、妖怪にとっての都会の住みにくさが、そんなセリフは一切ないにもかかわらず、確かに描破されている。

雑踏というエキストラも圧巻の効果を生んでおり、例えば鬼太郎が夜叉を追う間も、その足並みが止まることはない。さらに、地下鉄構内のアジトに夜叉を追い詰めた鬼太郎が、いきなり走ってきた地下鉄に邪魔されたりして、実にこう、都会の狭間で人知れず繰り広げられている妖怪バトル、な気分を満喫させてくれるのだ。

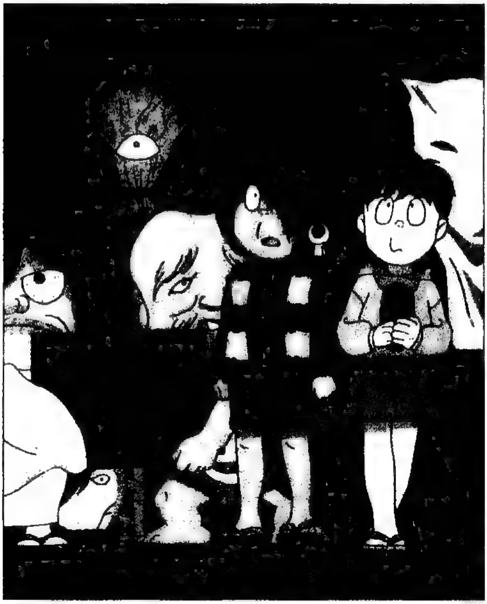
また、妖怪アンテナ（鬼太郎の髪が立つアレ）の新解釈、なんだか残留妖気が拾えるアイデアと、その描写も秀逸。しかもマンホールの蓋、つまり金属に妖気アンテナが無力化されるさまを、描写だけで見せたりするあたりも、渋すぎるけどグー。あと、平成版最大の収穫その二、水木テイストを残しながらかわいいという離れ業をやってのけたねこ娘の描写も、鼻をクンクンさせたりして、この回は最高にイカしてるのだ♪

この話に強烈な〝もはや都会の狭間にさえ妖怪の居場所がない〟寂寥感は、異様に強調されてる闇の暗さも手伝って、子供たちに都会のブキミさや、雑踏のコワさを（きっと）味わわせてる。だからこそ、妖怪という異端者が、人間社会の犠牲になって追い詰められていくという（この平成版でもやたら取り上げられており、半ばシリーズ全体のテーマと化している）構図も浮かび上がってくるのではないか？

親との会話で〈納得〉させることよりも、ビジュアルや雰囲気で子供たちに〈実感〉させておくこと、とりあえず痛い思いをさせておくことの方が大切でしょ、と思うのだ。とくに『ゲゲゲの鬼太郎』こそ、今のご時勢にそれがやれる希有な存在なのだから。

で、この第三話の感じは、同じく貝澤幸男が絵コンテとだけクレジットされる、第七話「妖怪のっぺらぼう」（脚本／橋本裕志、演出／宇田鋼之介）にも継承されており、シリーズ開始早々、この二本にツカまれた身としては、以降、やたらと田舎を舞台にした展開（って、それは原作がそうだし、実は「夜叉」の回も、雪室俊一の脚本だと夜叉のアジトは「草深い田舎の一軒家」）や〝イイ話〟度の高まりには、こりゃダマされた、と思わずにはいられないのだ。もちろん全部が全部、ここで貝澤幸男が選択したような作りでなけりゃいかん、とは全然思わないけど、この二本を最後に貝澤幸男が『地獄先生ぬ〜べ〜』に移動するのは、そりゃ反則ってもんだ。嗚呼、もったいない。

と書きつつ、四月から〝妖怪バトル度〟が上昇してるのは、明らかにプロデューサー交替（第六十四話以降、清水慎治から蛭田成一に）の影響があると思えるあたり、実にやっぱり東映動画の芸風が感じられて、面白いのだ。



■文・でえもん佐藤

アニメ版鬼太郎について

1 S43年版/2 S46年版







モノクロ版



モノクロ版ＯＰ⇑

⇨不朽の名作・カラー版ＯＰ





以前も数回アニメ版を採り上げましたが、4作目も順調に回を重ねていますし、今回は解りやすいアニメ版全域特集です。

ご存じの様にゲゲゲの鬼太郎は東映製作、フジテレビ放映によって4度のアニメ化がされております。

鬼太郎アニメ化に際して「墓場の鬼太郎」であったタイトルは縁起が悪いとの理由で現在の「ゲゲゲの鬼太郎」に改名されました。

しかし当時はよくあった。鉄人28号もスポンサーの意向で鉄人36号にされそうになった、何て話もあります。何はともあれ、昭和43年、今から30年も前に第1シリーズがモノクロ（白黒）にて製作、放映されました。現在ではお馴染みと言うより伝説となった知らぬ者の無い、鬼太郎の主題歌はアニメ版製作以前に水木先生作詞、いずみたく作曲によりイメージソングとして発売されていた物をそのまま使用。そして昭和43年1月により放映開始し、全65話を放送。

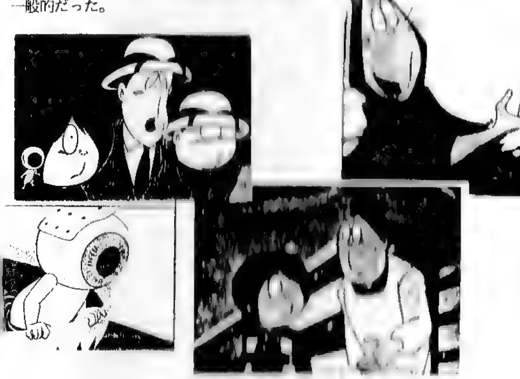
その後、2年以上のインターバルの後、再度鬼太郎はアニメ化。デザイン、音楽、スタッフ、声優はほぼ同じまま、昭和46年にカラー版に変更。アニメ技術自体のレベルアップでクオリティがアップ。昭和46年10月より再放送7話を含む全52話が放送される。

声優は鬼太郎に有名な野沢雅子（当時本人も髪型を鬼太郎に真似ていたそうだ）ねずみ男は大塚周夫、目玉親父はお馴染み田の中　勇。（回によっては大竹　弘）　猫娘、砂かけ、子泣きも回によって声優が変わっていた。

殊の外、カラー版はその不気味なムードから怪奇作品の代表格で、多くの水木マニアに支持されている。

又、劇場化は大海獣（前・後編）をつなげて放映された。

この頃はアニメを動かし易くする為、頭身、キャラクターデザインはシンプルにするのが一般的だった。





■アドバイザー・銅座橋壱万円

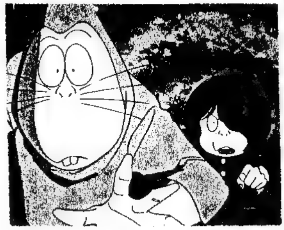
3 s60年版




第3シリーズは作画的にはむしろリアル路線。従って支持年令もやや高めであったが、内容的にはワンパターンである事が歪めないシリーズであった。

⇧劇場版2作目専用のリニューアルデザイン

3作目OP



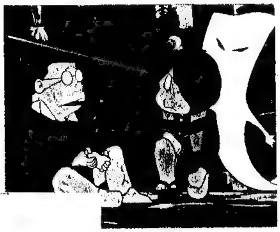


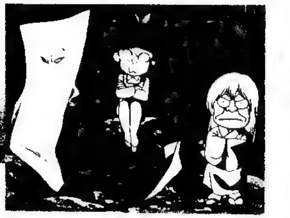
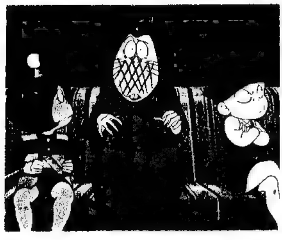
昭和60年10月、14年振り、3度目の鬼太郎アニメシリーズがフジTVでスタート。視聴率は常時20％前後をキープし、その年の秋の新番組視聴率1位となる。

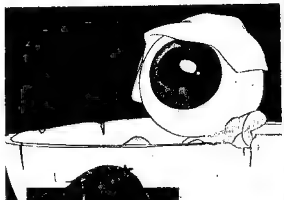
主題歌（オープニングテーマ）は詩、曲こそ昔のままだが、唄はなぜか熊倉一雄ではなく、吉 幾三となった。

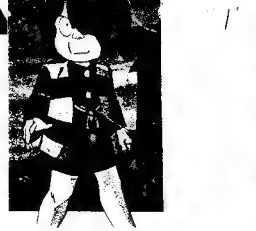
EDテーマもカランコロンの唄では無く、吉 幾三のオリジナル、おばけがイクゾ~になった。また、BGM等は竜童組の川崎真弘氏が担当。アニメの音楽は初めてだったそうだが、この後もアニメの音楽を色々作っていた様だ。作画に関してはキャラクターデザイン、OP、EDの作画監督を兼森義則氏が担当。YAWARA!や幽幻怪社も氏の手による物で、古くは劇場版銀河鉄道999の原画マンも務められた（そのせいか鉄郎が3作目の鬼太郎に酷似している）

特殊なタッチのキャラを使用する場合、氏の様なデザイン性の高い、アクの有るデザインにする方が最低限、作画が狂い難い傾向がある気がする。じゃリン子チエやルパンⅢ世の大塚康生（宮崎 駿の元親方）の時もそうだが。








第3シリーズは108話放映され最終回を向えたが、原作の「地獄編」にリンクして、続けて「母恋地獄編」が7話放映され、全115話放映される事となった。「母恋地獄編」は鬼太郎が母親を捜しに地獄を旅すると言うシリーズである。

この第3シリーズで鬼太郎は絶対的なヒーローの座を得て子供のアイドルとなるが、反面、怪奇作品としてのダーティーさは失われる。そう言う意味で、鬼太郎が悪い人間を懲らしめる「幽霊電車」は歴代、個人的に好きな話だ。もっと「地獄流し」や「手」の様な作品を作って欲しかったが…。

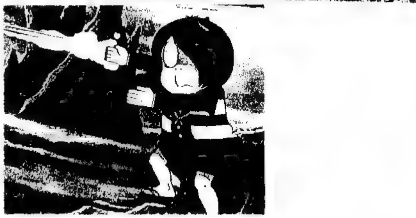
また、劇場作品は東映まんが祭で4本製作、上映された。特に2作目の「妖怪大戦争」は原作共に歴代人気の有る回だが、この為にキャラクターデザインを変更・一新し、作画監督も兼森氏自身が担当した。（TV版も数話担当している）当時も2作目以降の劇場版が製作される度に独特な新BGMが製作・使用され、2、3作目はCD化されたが、残念な事に4作目は発売されなかった。

声優は、鬼太郎に戸田恵子（アンパンマンやXファイルのスカリー役で有名）、ねずみ男には一昨年亡くなられ、二枚目役が多かった富山 敬。子泣きじじいに大御所・永井一郎、砂かけばばあに江森浩子、目玉親父は勿論田の中勇。このシリーズのみの新キャラ・ユメコは色川京子と言う配役であった。また、73話からは新キャラ・シーサーが加わった。↖

このシリーズは余りにも社会的なテーマや意義を追求した為にやや教育アニメ的になってしまい、怪奇作品の不気味さからは縁遠い物になってしまった。それは設定背景を50年先を基本にした事にも原因があるかもしれない。しかし、現在の様な乱世（？）において志は評価すべきであろう。1～3シリーズの細かい特集は先に譲ろう。

(平成)妖怪画談版





さて、ここで「妖怪画談」を紹介しておこう。平成6年にLD化された水木作品（妖怪談）のオムニバスアニメで、鬼太郎が2話収録されている。「鬼太郎誕生編」は、鬼太郎の誕生秘話（誰でも知ってるか）で、もう一話「鬼太郎～妖怪大戦争編～」は鬼太郎誕生後の成長、活躍をごく短く解説した物だ。鬼太郎の声が妙に幼い。作風としては原作タッチを重視した渋い作品である。一寸クラシカルで、原作にそのまま色を付けた様な映像が魅力だ。制作はタカハシスタジオ、水木先生の原作・監修・出演（冒頭にて解説）で、日本コロムビアより発売。（今も入手できると思う）

96's 最新版



平成8年、遂にファン待望のアニメ版復活となった。今回の第4シリーズは原作重視の作画が売りで、歴代最も原作に近い絵のシリーズであり、鬼太郎の声も一番似合っているのではないだろうか。今回も前回同様（全作品供そうだが）原作をアレンジしたストーリーなのだが、今回特に独自の展開となっており、登場する妖怪以外はほとんど新しく作り直された話も多い様だ。声優は鬼太郎が松岡洋子、目玉親父は当然、田の中 勇。ねずみ男は有名なトレンドギャグ声優（？）の千葉 繁。今回の声優選出に関しては前回同様オーディションによって選抜されているが、今回はその当初より総変更は予定されており、特に新人の起用が前提とされていた。（その為かサブキャラはいささか合って無い時がある気がする）

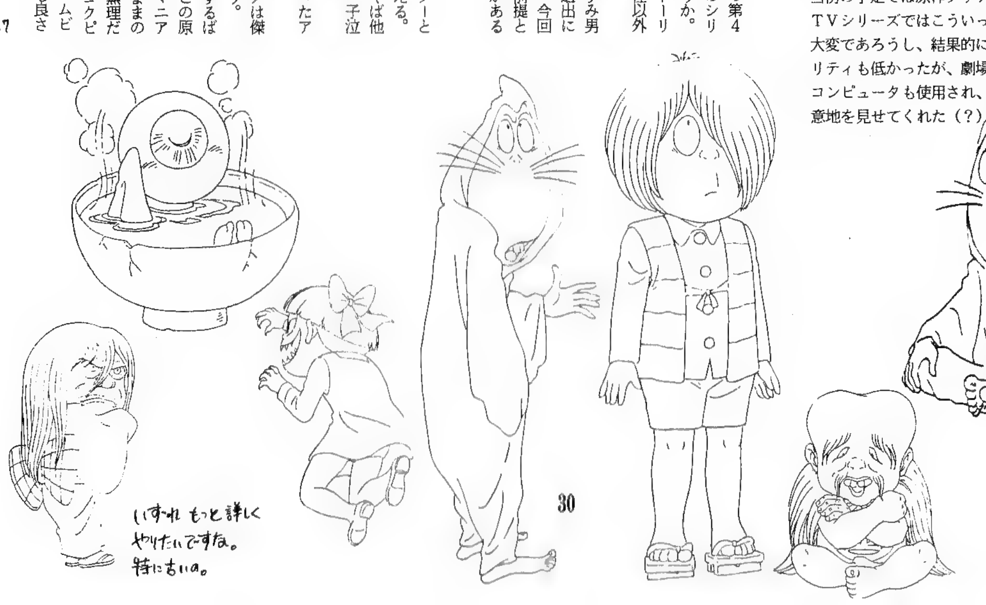
劇場作品は既に3本制作されている。（97年7月現在）劇場作品の新作が公開と共に新しいCDが発売され、コレクターとしては嬉しい限りだが、近年のアニメではよくある戦略と言える。本シリーズではとにかく、鬼太郎の作画は異様に良い。願わくば他のキャラクターももっと緻密になると好ましい。特に砂かけ、子泣き、猫娘の作画の甘さは気になる所だ。CDも続々リリースされているが、今回いかにも純和風に拘ったアレンジには好感が持てる。

更に、優歌団のOP、EDも趣があるが、EDの秀逸なアニメは傑作と言わねばなるまい。今後の放映に注目するしか無いだろう。

現シリーズにおいては結果的に秀作が多く登場する事を要望するばかりだ。マーケティング的に幼少向けを余儀なくされる中、この原作タッチを維持し続けるのは評価に値するところだが、水木マニアとしては、貸本時代の特に怪奇な鬼太郎シリーズの原作そのままのマニアックなアニメの登場を願うばかりだ。現シリーズでは無理だろうが、OVA等で機会が生じて欲しい！（松本零二のザ・コクピットの様なチャンスを作って下さい。東映さん もしくはコロムビアさん！）ジブリ作品に協力するくらいだから、何か有っても良さそうだが。

第4シリーズの設定より
当初の予定では原作タッチ重視であった。TVシリーズではこういった試みは色々大変であろうし、結果的に全体的なクオリティも低かったが、劇場シリーズではコンピュータも使用され、人気作品の意地を見せてくれた（？）





馬場会長のちょっといい話☺

「清水さんという方は（現行鬼太郎4作目の前プロデューサー）御自身、原作が好きな方で、絵だけで無く、内容も原作的な物を目指さしたかったみたいで、実際、前半は「幽霊電車」みたいな、単に正義の見方としての鬼太郎だけでなく、人間にとっても時に怖い存在となる「妖怪としての」鬼太郎を何本か描いてくれてるんやね、でも実際、日曜の朝の時間帯で視聴率を維持出来てるのは鬼太郎だけやそうやで。

＜今回は前回以上にグッズ何かも出てて色々大変ッスよね＞

突然、振って湧いた様に再開されて、これだけ指示されるのは大変な事やと思うよ。

前回はとりあえず、原作が連載されてて、それで徐々に人気が上がってアニメ化が再開されたと言う土壌があった訳やねんけど。でも、たまにコミケ何かでアニメ版鬼太郎の同人誌何か見るとあまり原作が支持されて無くて（読んで無い人が多くて）寂しいなあ。

＜とりあえず近年、鬼太郎、三平、悪魔くんがアニメ化されましたけど今後は短編の時代も来るんスかね＞

個人的には戦記物とか戒め的な短編とか、ごっつええねんからもっと皆に知ってもらいたいなあ。又、そう言う活動せんとね。

近年の水木アニメに関して…

　こと、最近の水木アニメは無理に水木先生の独特のタッチに拘り過ぎている気がする。これは真に水木作品を理解する事には実は、あたらない気がしてならない。

不得意な画風で無理に真似るより、より映像として完成度の高い、真実味あふれる、リアルなものを目指す事こそ、視聴者、観客が作品を意識する、のめり込み　理解しようとする重要な要素であろう。それでなくては作品が成立しないし、興業収入を狙うだけであったとしても限界がある。

　水木作品を単にアニメ化するだけであれば、そのまま作っただけでは、はっきり言って作る意味は薄い。作品の残留としては原作のままで十分だし、手塚治虫や大友克洋の様に自身がアニメを造っている人が自作品のリアル描写や別表現を狙って制作した場合でなければ存在価値は疑うべきだろう。

　初期の水木先生の原作を見ると、作品によっては話の性質や重要なものに関して、特に普段の水木タッチでは無く、写実的な画風や劇画タッチを用いている。又、作品前半のみ（体力的又は締切等の事情からか）特に丁寧に描かれているものが沢山有る。恐らくは状況が許せば限り無く上質な作品を目指されていた為であろうか。

しかし作品制作に際して至上思考主義をもたぬ作家が居るだろうか。

これはごく当然の事だろう。

だが、更に売れっ子漫画家になって行くに連れ、多くの連載を抱えて時間的に余裕の無くなった頃から劇画タッチ作品は減少し、作画プロセス上、より効率的で特徴的な独特の画風へと変貌していく。

つまり、時間と状況が許せば、持ち前の画力を生かした（先生が特に貸本時代拘ってこられた）リアルな劇画を目指されていた事は容易に創造のつくところだ。その片鱗は美少女の作画や要人・著名人キャラの誇張に伺える。

　そう言った方向性を考慮しても、アニメ作品が先生の画風を採り入れた以外、平凡なレベルのアニメに甘んじ続けて来た事は、真のファン又は制作会社はいい加減に気付き、水木作品をアニメで作る事の真の意味を悟るべきだろう。

独特な水木タッチを作るなら、その効果的に表現方法を模索する試みを行うのが一流といったものだろう。

まあ、以前にもアニメの記事で云ったけど、やはりそろそろ真面目に先生の希望する様な（そして単に自分がそう云うのを観たい）気合いの入った、これぞ日本の奇跡！と呼べる様な水木動画を作ってくれないかなあ。いい加減に気付くべき何だよね。

「水木しげる原作」の名を冠すれば売れる、と云うだけの考えはもう捨てるべきだ。と、声を大にして云いたい。

アニメといえば3作目のバンダイのSVSは今だに売ってるね。
小・中学生ファンの皆さんはアニメ版が終ってしまうー、と、
おなげきだろうが、これからは鬼太郎の時代です
ご心配無く。このヒーローは永遠です。



クイック・ジャパンは面白かった.
やはり水木先生は緻密なタッチが好きなんだなあ.
原作タッチにアクのある作品でも 大塚康生や宮崎 駿の
ルパン III世や じゃりン子チエの様に出来る人ならセンス良く
作っちゃうんだが…。水木作品も彼らにやって頂きたい…。
年中こんな事云ってるケド。

次回. 雑誌ネタ、等

1997.7./1998.2. KK.



#20
DEMON SATO
©CSTORMS 1998
不ガ〃ティヴ〃!!
怪奇・マメネーム の巻
そーいや鬼太郎のアニメ版終わりますねー。結局全然観んかったけど。
結局後半は前作みたいになっとったぞ
いやー、父さん だって僕らダークサイドの住人なんだから 仕方無いよ。フフフ…
『バンダイに企画会議無し!!!』
ビッグバイバーダリャー：昨年女性多数問題で福岡へ逃亡。ＪＡのドライバーとなるが暴力団の塀を破壊して指をつめられかけ大分へ逃亡。ＮＴＴが自宅の電話修理に来た際、ドイツ人の足フィスト本を見られ恥をかく。現在行方不明。
鬼太郎っ! 首が曲っておるぞ! それにレフトハンド君も野放しじゃ。
いやー、最近のアニメはすっかりコンピューター取り込みになってしまっ画質的には美しくなったけどセルワークの妙とい物が感じられんのう。
そーいう モンかね。
そうそう最近すっかりゲテ物にハマッてます。
マイブーム…
うっかり 怪楽図鑑や 超 変態系 が家にある。
いや、でも エイリアン3は あれはあれで いい作品さ
まんじだらけ、チオニチオチュ、鬼太郎関話三もなぜか持ってるし。
ハリウッド一の嫌われ者・デビットフィンチャーもマイブームッス。
世紀末のせいか最近鬼太郎や怪奇モノがブームの気がする。
妖怪達が 復活しつつ ある!
そー云う訳で今年も昨年大不評の怪奇ビデオを作って無理やり送るっス。（しかも本当に呪われるバージョン）
我が家にはスズキの軽が 6台有る。グーグーグー♪
スポーンといい スズキのＣＦといい 大宮霊苑といい…

<最新カラー版>ゲゲゲの鬼太郎'97・98 BRUSH UP　　点

見てた人には簡単だけど、見てなかった人には難しい!? まぁ…そんなこたどーであれ、やってみて下せ！

問題　次の表の①～⑳に当てはまる語をそれぞれ下の選択肢から選び、A～Eに当てはまる妖怪名をそれぞれ答えよ。（各４点）

放映No.	タイトル	放映No.	タイトル	放映No.	タイトル
52	（①）妖怪・あまめはぎ！	74	大蛇神ヤマタノオロチ！	96	妖怪王・ぬらりひょん
53	（②）行・幽霊電車！	75	妖術・鏡合戦！	97	追撃！（⑭）妖怪四天王
54	妖怪邪魅と（A）！	76	灼熱の妖怪！ひでり神	98	試練・（⑮）への道！
55	（B）と妖怪後神！	77	海和尚と（D）！	99	決戦！妖怪王対鬼太郎
56	水変化！妖怪水虎	78	ぬらりひょんと蛇骨婆	100	暗闇の招き・妖怪影女
57	吸血鬼エリート！	79	中国妖怪襲来！（前編）	101	言霊使いの罠！
58	冷凍妖怪・雪ん子！	80	中国妖怪襲来！（後編）	102	凶悪！（⑯）妖怪刑天
59	妖怪オバリヨン！	81	（⑥）妖怪！うぶめ	103	化けネズミ！妖怪旧鼠
60	ぬらりひょんの陰謀！	82	（⑦）妖怪・大首！	104	恐怖！（⑰）妖怪の島
61	妖怪いやみにご用心	83	（⑧）合戦！妖怪逆柱	105	（⑱）・妖怪だるま王国
62	怪奇！ばけ猫（③）	84	怪奇！人食い肖像画	106	悪夢！妖怪地獄
63	メンソーレ！妖怪ホテル	85	魔境・土蜘蛛の山！	107	山の神・穴ぐら入道
64	激争！妖怪ラリー	86	（⑨）の使い・モウリョウ	108	（⑲）！猫ショウ
65	驚異！マンモスフラワー	87	（⑩）の倉ぼっこ	109	（⑳）の怪異・のびあがり
66	荒海の伝説・磯女！	88	妖怪ふくろさげの罠！	110	八百八狸の反乱（前編）
67	風雲！妖怪城（前編）	89	（⑪）地獄！ラクシャサ	111	八百八狸の反乱（後編）
68	風雲！妖怪城（後編）	90	（⑫）の妖怪・ぶるぶる	112	妖怪鬼髪と（E）
69	悪魔ブエルと（C）	91	夜の怪！百鬼夜行の鬼	113	鬼太郎対三匹の刺客！
70	（④）！妖怪ぐわごぜ	92	百目とぬらりひょん	114	絶体絶命！死神の罠
71	オベベ沼の妖怪！	93	（⑬）よりの妖怪・桂男！		
72	出現！天狐の（⑤）王国	94	鬼太郎魚と置いてけ堀	映画	おばけナイター
73	爆進！怒りの土ころび	95	妖力泥棒・釜なり！	映画	妖怪特急！まぼろしの汽車

語

①＿＿＿＿　⑪＿＿＿＿
②＿＿＿＿　⑫＿＿＿＿
③＿＿＿＿　⑬＿＿＿＿
④＿＿＿＿　⑭＿＿＿＿
⑤＿＿＿＿　⑮＿＿＿＿
⑥＿＿＿＿　⑯＿＿＿＿
⑦＿＿＿＿　⑰＿＿＿＿
⑧＿＿＿＿　⑱＿＿＿＿
⑨＿＿＿＿　⑲＿＿＿＿
⑩＿＿＿＿　⑳＿＿＿＿

ア、雪山　　サ、西洋
イ、峠　　　シ、中国
ウ、地底　　ス、古代
エ、街道　　セ、吸血
オ、霊園　　ソ、子育て
カ、迷宮　　タ、髪の毛
キ、迷い家　チ、死
ク、妖魔城　ツ、不老不死
ケ、月　　　テ、コマ
コ、怪気象　ト、ゲタ

妖怪名

A、＿＿＿＿
B、＿＿＿＿
C、＿＿＿＿
D、＿＿＿＿
E、＿＿＿＿



解答　語　①テ　②オ　③エ　④コ　⑤ケ　⑥ソ　⑦ス　⑧ト　⑨チ　⑩キ
⑪ク　⑫イ　⑬ケ　⑭サ　⑮ウ　⑯シ　⑰セ　⑱カ　⑲ツ　⑳ア
妖怪名　A、ガマ仙人　B、座敷童子　C、やかんづる　D、船幽霊　E、黒髪切

アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」４作目　スタッフ列伝

ふりかけ!!伝説

語り部：御飯賀 進（No.241）

アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」４作目に於いて、ファンの間で語り継がれていた「ふりかけ」の事は、記録に残しておかねばなるまい。
ところで、「ふりかけ」とは？　ご飯にかけて食べるもの…ではない。

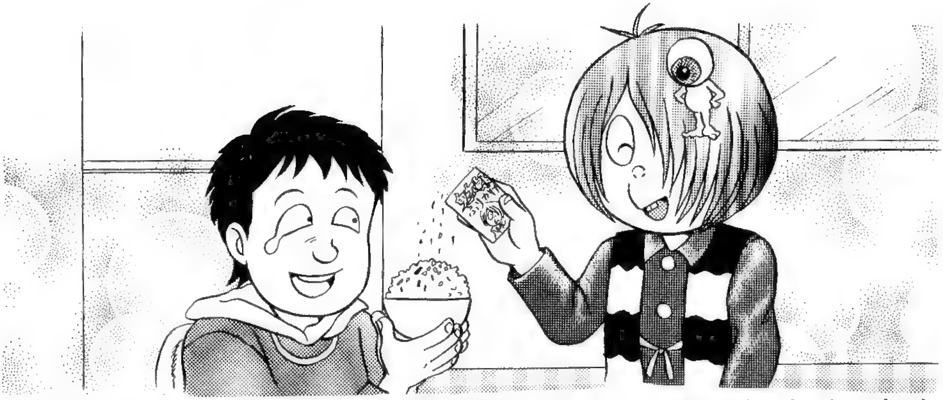
ルーツは番組放送当時、合間に流れていた丸美屋のＣＭにある。丸美屋では、昔から東映作品のスポンサーとなって各種のキャラクター「ふりかけ」、「カレー」を発売してきた。（例：ビックリマンふりかけ、セーラームーンカレーなど）おそらく前作の３部でも「ゲゲゲの鬼太郎ふりかけ」や「カレー」が発売されたのでは？今回の「鬼太郎」４作目でも、それは例外ではなく、スーパーには「鬼太郎ふりかけ」や「鬼太郎カレー」が並び、チビッ子達が「ママーキタロー買ってー！」などと、せがんだ（推測）。そこで本題に入るが、ズバリ「ふりかけ」とは、このＣＭのアニメを作画した方に、一部のファンが勝手に付けたニックネームである。

本名は、鬼太郎本編の作画監督も務めていらっしゃった八島善孝さん。きっと当の本人も「ぎょぎょっ」とビックリされているにちがいない。

八島さんの絵は、他の方よりも特徴があって、熱心なファンのようにビデオで繰り返し見なくとも、すぐに本人だと分かる。

４作目はそれほど作監による絵の違いはない方だが、「鬼太郎」以外のアニメ作品でも、一昔前ほど各話の絵のバラ付きはなくなった。もちろん技術の向上というのもあるが、アニメの制作体制が変化して、制作会社や作画スタジオ全体に、「スタジオ○○だからこそ○○！」といった特徴が薄れてきたことも大きいだろう。今日では、ひとつの制作スタジオが他社と共同で同じ作品を手がけたり、一つのスタジオで何社もの作品を請け負ったりという風景は珍しくない。フリーのアニメーターも増えた。それはそれで利点はあるが、味気ない感じもする。

話を元に戻すが、とにかく八島さんの絵には、キャラクター設定とまた違った味があるので、見ている側も自然に八島さんの絵を覚えていった。しかし、その特徴ある絵の決定打となったのが、例の「ゲゲゲの鬼太郎ふりかけ」のＣＭであった。



（少年、名は「淳」、片手に白飯の盛りつけてある茶碗を振り上げ、叫ぶ）

淳「鬼太郎さ～ん！早く～！」

（鬼太郎の妖怪アンテナがなぜか立ち）

親父「よし急げ鬼太郎！新発売の『鬼太郎』ふりかけで腹ペコ退治じゃ」

鬼太郎「はい、父さん」

（鬼太郎、目玉の親父、一反木綿に乗る）

（鬼太郎、淳の食卓の脇に立ち、ふりかけを淳のご飯にサッサッとかけてあげる）

鬼太郎「さあ、おいしいよ」

（淳、松下悪魔くんのようなタレ目で、すごくうれしそうに）

淳「ああ～♡」

鬼太郎「ほかほかご飯に丸美屋『ゲゲゲの鬼太郎』ふりかけ」

（目玉の親父、茶碗風呂に入りながら）親父「ダブル　シール入りじゃ♡」

………キョーレツである。

わざわざ食事時に、しかも白いご飯を手に持って、

なんで困るんじゃ～！

なんで鬼太郎を呼ぶんじゃー！

鬼太郎もわざわざ片手にふりかけ持って一反木綿に乗ってくるなー！

おそらく、この日は鬼太郎本人も事件がなくて、よっっっっぽどヒマだったに違いない。そんなわけで、このえらくシュールな話のＣＭは、ファンの脳裏に間違いなく八島さんの絵を焼きつけたのだった。

ところで、八島さんの詳しいデータは、実はよく知らない。下の名前も「善孝」と複雑で、とっさに名前が出てきにくい。そこで、手っ取り早く、しかも説明要らずの「ホラ、ふりかけの人」⇨「ふりかけ」になったのだろう。この単語を聞くだけで頭の中に例のＣＭが浮かぶ。ある意味ニックネームたるスバラチイあだ名、である。

このナイスなＣＭの作画を手がけられた八島さんにも拍手だが、このフーシギなシチュエーションを考え出したスタッフの方にも拍手である。あれに、八島さんの作画が相乗効果となって名作を、生み出したのだから。４作目は、ふりかけのＣＭ抜きには語れない。

ところで、今放送されている「デジモンふりかけ」も、八島さんのような気がするのだが、どうでしょう？

◇　◇　◇

あるファンの会話の例

Ａ「今日の話、ふりかけだったねー」

Ｂ「前の八百八狸の回だっけー、作監違う人だったけど、ふりかけも描いてたでしょー。」

Ａ「うん、すぐふりかけの絵って分かった。エンディングにも名前入ってたよ。」

Ｂ「ふーんやっぱふりかけだったんだ」

ちゃんと「八島さん」と言いなさい！（笑）でも「やしま」？「やじま」？

八島さん、東映アニメーションさん、ホントにホントにごめんなさい！

これでも４作目のファンです……

―ふりかけ伝説・完―





ゲゲゲの鬼太郎（アニメ第４作）

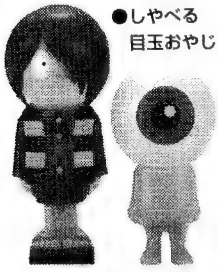
GOODS LIST



●ＤＸゲゲゲハウス

●ドンジャラ／パーフェクト20

●しゃべる鬼太郎



●しやべる目玉おやじ

バンダイ①

1996.01～

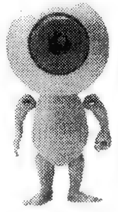
品　名	型　　名	発売日	種類	標準価格	
玩具	ＤＸゲゲゲハウス	1996	1	3980	
	ゲゲゲミニハウスシリーズ 猫娘のお店	1996	1	1380	
	ゲゲゲミニハウスシリーズ 子泣き爺の家	1996	1	1380	
	ゲゲゲミニハウスシリーズ 鬼太郎＆一反木綿の工事現場	1996	1	1380	
	学校の七不思議	1996.6	1	5980	
	夜は墓場で運動会	1996	1	2980	
人形	ＤＸゲゲゲの鬼太郎	1996	1	2980	
	変録目玉おやじ	1996	1	3500	
	ゲゲゲファミリー	1996	1	1480	
	鬚 夜光妖怪25	1996	1	1980	
	しゃべる鬼太郎	1996.6	1	1480	
	しゃべる目玉おやじ	1996.6	1	1480	
	ソフビ人形 ゲゲゲマスコット	1996	1	1500	
	ソフビ人形 ソフトゲゲゲセット	1996	1	1800	
	ソフビ人形 ゲゲゲの鬼太郎 水鉄砲	1996	3	680	
	ぬいぐるみ 目玉おやじ	1996	1	1380	
	鬼太郎	1996	1	3600	
	ぬりかべ	1996	1	12000	
	ぬいぐるみキーチェーン　ゲゲゲの鬼太郎	1996	3	780	
	キーホルダー　ゲゲゲの鬼太郎	1996	3	380	
ゲーム	ゲゲゲホッケー	1996	1	3980	
	ドンジャラ　ゲゲゲの鬼太郎パーフェクト２０	1996.8	1	6000	
	ゲゲゲボーリング	1996.9	1	3980	
ゲームソフト	ゲゲゲの鬼太郎　新しいピコ絵本シリーズ	1996.9	1	4980	
	妖怪ドンジャラ　スーファミター用	1996.7	1	3980	
	妖怪ドンジャラ限定セット　スーファミター用	1996.7	1	6800	
	ゲゲゲの鬼太郎　　Play Station用	1997	1	6800	
	ゲゲゲの鬼太郎 幻冬怪奇譚　セガサターン用	1997	1	6800	
	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪創造主現わる！ ゲームボーイ用	1997	1	4500	
ガシャポン	ゲゲゲの鬼太郎 100円(2個入り)	1996	8	100	
	ゲゲゲの鬼太郎 PARTⅡ 100円(2個入り)	1996	8	100	
	妖怪復活！消しゴム工場	1996	10	100	
	ガシャポンハウス	1996	5	200	
	ガシャポンハウス２	1996	5	200	
	ゲゲゲスイング	1996	6	200	

●ゲゲゲボーリング



●ぬいぐるみ目玉おやじ鬼太郎

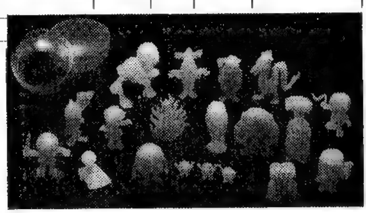


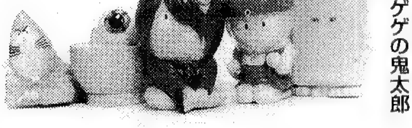


●変録　目玉おやじ

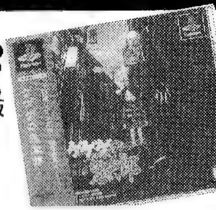
●ガシャポン／ゲゲゲの鬼太郎パート１・２







●妖怪らんど



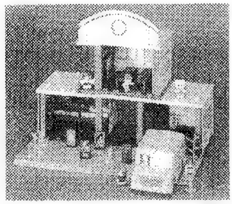
●PS版 ゲゲゲの鬼太郎



●ゲゲゲマンション

バンダイ②　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　1996.01～

品　名	型　　　名	発売日	種類	標準価格	
その他玩具	妖怪オカリナ	1996	1	3800	
	目玉おやじの妖怪電卓	1996	1	3980	
	ゲゲゲこわいぼ～	1996	1	680	
	たのしい水絵	1996	1	500	
カード	カードダス	1996.4	42	20	
玩具菓子	ゲゲゲの家	1996	5	300	
	ゲゲゲスクール	1996	5	300	
	ゲゲゲマンション	1996	5	300	
	ＤＸ鬼太郎百科	1996	1	500	
	鬼太郎百科	1996	10	100	
	鬼太郎百科II	1996	10	100	
	妖怪らんど	1996	5	200	
ビデオ	ゲゲゲの鬼太郎　第一集　鬼太郎と仲間たち	1997	1	3100	
アパレル関連	バスタオル ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	1500	製造）[illegible]織物株式会社
	ハンドタオル ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	300	〃
	ハンカチ　ゲゲゲの鬼太郎	1996	3	250	〃
	きんちゃく袋　ゲゲゲの鬼太郎　Mサイズ	1996	1	400	〃
	きんちゃく袋　ゲゲゲの鬼太郎　Lサイズ	1996	1	650	〃
	起毛スエットパンツ ゲゲゲの鬼太郎　67279 黒・チャコールグレー	1996	2	2600	〃
	スキータートル ゲゲゲの鬼太郎　67270	1996	1	1600	〃
	グランドベスト ゲゲゲの鬼太郎　67318　黒・ブルー	1996	2	2900	〃
	キルケット　ゲゲゲの鬼太郎　3818	1996	1	3500	〃
	綿毛布　ゲゲゲの鬼太郎　9813	1996	1	3900	〃
	ハーフケット　ゲゲゲの鬼太郎　4313	1996	1	3980	〃
	スリーピングタオルポンチョ ゲゲゲの鬼太郎　78013	1996	1	3900	〃
	デニム長袖シャツ ゲゲゲの鬼太郎　67192	1996	1	2900	製造）川島織物株式会社
	デニム五分丈パンツ ゲゲゲの鬼太郎　67206	1996	1	2300	〃
	裏毛五分丈パンツ ゲゲゲの鬼太郎　67149　コン・クロ	1996	1	2000	〃
	ハニカムスエットパンツ ゲゲゲの鬼太郎　67171　コン・ブルー	1996	1	2000	〃
	起毛トレーナー　ゲゲゲの鬼太郎　67240　オートミール・サックス	1996	1	2300	〃
	起毛カラートレーナー　ゲゲゲの鬼太郎　67250 チャコールグレー・紺ブルー	1996	1	2900	〃
	裏毛トレーナー ゲゲゲの鬼太郎　67093　オートミール・サックス	1996	1	2300	〃
	裏毛カラートレーナー　ゲゲゲの鬼太郎　67106 黒・ブルー	1996	1	2900	〃
	長袖Ｔシャツ ゲゲゲの鬼太郎　67066　オートミール・サックス	1996	1	1600	〃
	長袖Ｔスーツ ゲゲゲの鬼太郎　67080　オフ白/黒・オフ白/ブルー	1996	1	2600	〃
	変身スーツ ゲゲゲの鬼太郎　67217	1996	1	2900	〃
	お名前付けシートセット ゲゲゲの鬼太郎　67903	1996	1	3800	〃



●ゲゲゲスクール



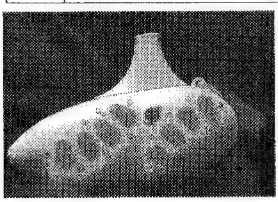
●目玉おやじ妖怪電卓



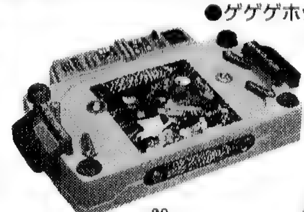
●ゲゲゲホルダー



●ゲゲゲこわいぼ～



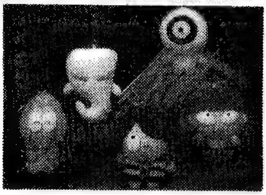
●妖怪オカリナ



●ゲゲゲホッケー

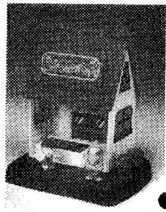


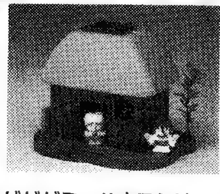
●GB版 / ゲゲゲの鬼太郎



●光るマスコット

・猫娘のお店





・子泣きじじいの家



・鬼太郎&一反木綿の工事現場

●ゲゲゲミニハウスシリーズ



●鬼太郎スウィング



●DXゲゲゲの鬼太郎



〈おもちゃに関する裏話等〉

今回のアニメ化で、21種アイテムが商品化されましたが、ボツになったものは、細かいものを入れると倍ぐらいになります。
例えば、"しゃべる鬼太郎"、"しゃべる目玉おやじ"という商品がありましたが、松岡さん(鬼太郎)や田の中さん(目玉おやじ)の声を録らせていただいた時に、実は千葉さん(ねずみ)、塩瀬さん(小泣き)、山本さん(砂かけ)にも声をいただいているんです。つまり"しゃべる○○"は声を録るところまでいっておきながら、商品化前に中止という憂き目にあった幻のシリーズだったのです。

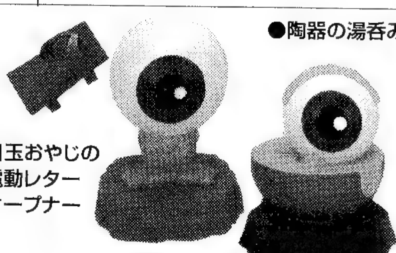
その他にも、妖怪自動車、妖怪バス、妖怪城、プカプカー反もめん等といった正体不明の怪アイテム等、中止になったアイテムにいつか付喪神と化して襲われるかもしれないと思うぐらい、数多くのアイテムが没っています。
基本的には、晴れて発売になったゲゲゲの鬼太郎のおもちゃに関するキーワードは、「ゲゲゲの鬼太郎の世界を体感できる物」だったと思います。売れたアイテムも売れなかったアイテムもありますが、私にとってはいずれの商品もあらゆる難関をくぐり抜けて発売された愛すべき子供達です。

次回もしアニメ化される際にも、バンダイがおもちゃを作らせていただけるのであれば、何らかの形で関わらせていただきたいと思います。

株式会社バンダイ　トイ第1事業部　開発課　太田健介

バンプレスト　　　1996.01～

品名	型名	発売日	種類	標準価格
マスコット	ゲゲゲの鬼太郎　きゃらころ	1996.	5	
キーホルダー	ゲゲゲの鬼太郎　光るマスコット	1996.07	5	
ぬいぐるみ	サマージャンボシリーズ　ゲゲゲの鬼太郎	1996.08	3	
バッグ	ゲゲゲの鬼太郎　ぬりかべ てさげ＆ショルダー	1996.	2	
文具品	目玉おやじ　レターオープナー	1996.10	2	
健康器具	ゲゲゲの鬼太郎　ぶるぶる目玉おやじ	1997.	4	
食器類	ゲゲゲの鬼太郎　陶器の湯飲み	1997	3	
キーホルダー	ゲゲゲの鬼太郎　目玉おやじおみくじキーホルダー	1997.10	5	
その他	ゲゲゲの鬼太郎　目玉おやじボイスチェンジャー	1997.11	2	
キーホルダー	ゲゲゲの鬼太郎　目玉おやじフィギュアホルダー	1998.04	7	
その他	ゲゲゲの鬼太郎　目玉おやじ冷蔵庫の見張り番	1998.06	2	
食器類	ゲゲゲの鬼太郎　目玉おやじの陶器のそばつゆセット	1998.09	2	
キーホルダー	ゲゲゲの鬼太郎　おみくじキーホルダーパート2	1999	6	
貯金箱	ゲゲゲの鬼太郎　おみくじバンク	1999.12	2	

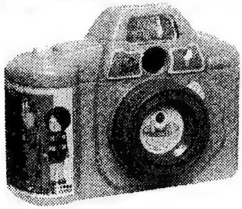


●目玉おやじの電動レターオープナー

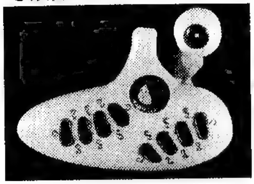
●陶器の湯呑み



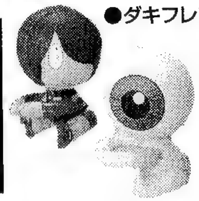
●妖怪カメラ

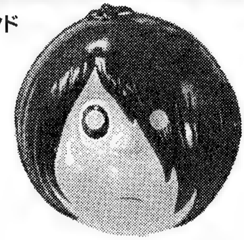


●妖怪オカリナ



●ダキフレンド





●キャラクターお面

ユタカ

1996.01～

品名	型名		発売日	種類	標準価格	
玩具	とびだす妖怪カメラ	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	600	
人形	ちびコレバッグ	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	500	
風船人形	目玉おやじ	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	OPEN	
風船人形	鬼太郎	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	OPEN	
人形	妖怪セット	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	680	
キーホルダー	鈴キーホルダー	ゲゲゲの鬼太郎	1997	3	380	
ピンズ	ピンズ	ゲゲゲの鬼太郎	1996	3	380	
貯金箱	貯金箱コレクション	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	980	
ソフトホルダー	ソフビキーホルダー	ゲゲゲの鬼太郎	1998	6	450	
お面	鬼太郎お面	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	OPEN	(500)
キーホルダー	鬼太郎	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	450	
パズル	ゲゲゲの鬼太郎①･②	ゲゲゲの鬼太郎	1996	2	600	
生活雑貨	ねたままコード	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	480	
生活雑貨	た～んしゃわ～	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	680	
洋凧	キャラクターカイト	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	680	
玩具	バラエティセット	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	350	
玩具	妖怪オカリナ	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	580	
玩具	なげっこテニス	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	350	
玩具	ジャンピング目玉おやじ	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	480	
塩ビ人形	ゲゲゲ大集合	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	980	
玩具	スーパーパチンコ	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	600	
花火	花火セット	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	600	
玩具	空ビ立ち人形	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	OPEN	
玩具	ビニール棒	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	OPEN	
玩具	ミニパンチファイター	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	OPEN	
玩具	ビニールマスコット	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	OPEN	
玩具	ソフビ人形(人形すくい用)	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	OPEN	
玩具	水ヨーヨー	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	OPEN	
玩具	粒入りヨーヨー	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	OPEN	
玩具	プラヨーヨー	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	OPEN	
玩具	キャラクターパイプ	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	OPEN	(300)
その他	綿飴用袋	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	OPEN	
ウチワ	うちわ	ゲゲゲの鬼太郎	1996	2		
塩ビ人形	消しゴム当てくじ	ゲゲゲの鬼太郎	1996	50		

●スーパーパチンコ



●ビニールマスコット



●パイプ



●ちびコレバッグ

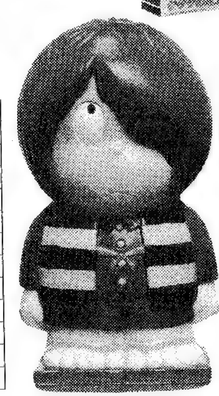


丸昌

1996.01～

品名	型名		発売日	種類	標準価格	
玩具	のび～る妖怪	ゲゲゲの鬼太郎	1996	2	200	
シール	妖怪キラシール	ゲゲゲの鬼太郎	1996	2	200	製造)セイカノート
玩具	しゃぼん玉セット	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	200	〃
玩具	ミニシアター	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	580	
玩具	風船セット	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	200	製造)セイカノート
玩具	妖怪ラケット	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	580	
玩具	妖怪バトルチップ	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	200	
玩具	アルバムヒクベ～	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	300	
玩具	システム手帳	ゲゲゲの鬼太郎	1996	1	650	製造)セイカノート

●貯金箱コレクション



GEGEGE GOODS COLLECTION

●映画ノベルティ

・シール



●キャラクターカイト



・でんぐりゴマ



●ビデオ vol.1



●ビデオ vol.2



●ビデオ / 大海獣



東映関係①　　1996.01～

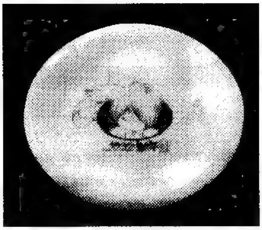
品　名	型　　名			発売日	種類	標準価格	
カレンダー	’９７　カレンダー	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1	1200	
カレンダー	’９８　カレンダー	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1	1200	
タオル	ミニタオル	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	2	350	
タオル	ハンドタオル	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1	300	
タオル	フェイスタオル	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1	500	
タオル	バスタオル	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1	1500	
ナフキン	ナフキン	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	2	380	
手帳	システム手帳	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1	680	
茶碗	茶碗	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1	450	
湯飲み	湯飲み	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1	450	
マグカップ	マグカップ	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1	580	
メモ	Ｂ７セルシールメモ	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1	100	
きんちゃく	きんちゃく大	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1	650	
きんちゃく	きんちゃく小	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1	400	
菓子	目玉おやじ棒キャラ	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1	OPEN	
セル画	テレビアニメ限定セル	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996		2000	
キーチェーン	ソフトキーチェーン	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1		
サンバイザー	サンバイザー	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996	1		
パンフレット	大海獣	ゲゲゲの鬼太郎	東映映像事業部	1996	1	500	
パンフレット	おばけナイター	ゲゲゲの鬼太郎	東映映像事業部	1997	1	500	
パンフレット	まぼろしの汽車	ゲゲゲの鬼太郎	東映映像事業部	1997	1	500	
販促品	手提げ袋　大海獣	ゲゲゲの鬼太郎	東映宣伝	1996	1		
販促品	手提げ袋　おばけナイター	ゲゲゲの鬼太郎	東映宣伝	1997	1		
販促品	手提げ袋　まぼろしの汽車	ゲゲゲの鬼太郎	東映宣伝	1997	1		
販促品	ジャンボカードダス 大海獣	ゲゲゲの鬼太郎	東映宣伝	1996	1		
販促品	ジャンボカードダス おばけナイター	ゲゲゲの鬼太郎	東映宣伝	1997	1		
販促品	ジャンボカードダス まぼろしの汽車	ゲゲゲの鬼太郎	東映宣伝	1997	1		
販促品	ポストカード 大海獣	ゲゲゲの鬼太郎	東映宣伝	1996	1		
販促品	妖怪バトルゲーム　大海獣	ゲゲゲの鬼太郎	東映宣伝	1996	1		
販促品	妖怪けん玉 大海獣	ゲゲゲの鬼太郎	東映宣伝	1996	1		
販促品	特製シール おばけナイター	ゲゲゲの鬼太郎	東映宣伝	1997	1		
販促品	でんぐりごま おばけナイター	ゲゲゲの鬼太郎	東映宣伝	1997	1		
販促品	きゃらスタンプ まぼろしの汽車	ゲゲゲの鬼太郎	東映宣伝	1997	1		
カレンダー	卓上カレンダー	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画	1996			
ビデオ	ヒーロークラブ	ゲゲゲの鬼太郎	東映ビデオ	1996	5	3100	
ビデオ	ゲゲゲの鬼太郎 シリーズ第4期		東映ビデオ	1996～	28	4800	
ビデオ	大海獣	ゲゲゲの鬼太郎	東映ビデオ	1997.7	1	2800	
ビデオ	おばけナイター	ゲゲゲの鬼太郎	東映ビデオ	1998.1	1	2800	
ビデオ	まぼろしの汽車	ゲゲゲの鬼太郎	東映ビデオ	1998.5	1	2800	
ＬＤ	大海獣	ゲゲゲの鬼太郎	東映ビデオ	1997	1	3900	
ＬＤ	おばけナイター	ゲゲゲの鬼太郎	東映ビデオ	1997	1	3900	
販促品	光る 妖怪シール	ゲゲゲの鬼太郎	東映ビデオ	1996	1		
販促品	鬼太郎シール	ゲゲゲの鬼太郎	東映ビデオ	1996	1		
販促品	セルケース	ゲゲゲの鬼太郎	東映ビデオ	1996	1		



●スケッチブック



●しゃぼん玉セット



●ケーキ皿

その他①　　1996.01～

品　名	型　　名	発売日	種類	標準価格	
生活雑貨	鬼太郎和てぬぐい 2枚セット　ゲゲゲの鬼太郎　フェリシモ	1996	1	700	
文具	名刺パッド　ゲゲゲの鬼太郎　フェリシモ	1996	1	400	
生活雑貨	ケーキ皿　ゲゲゲの鬼太郎　フェリシモ	1996	1	400	
文具	100枚便箋　ゲゲゲの鬼太郎　フェリシモ	1996	1	700	
文具	50枚封筒　ゲゲゲの鬼太郎　フェリシモ	1996	1	700	
文具	シールセット　ゲゲゲの鬼太郎　フェリシモ	1996	1	300	
文具	バインダー　ゲゲゲの鬼太郎　フェリシモ	1996	1	980	
生活雑貨	ビニールポーチきんちゃく型　ゲゲゲの鬼太郎　フェリシモ	1996	1	800	
生活雑貨	ビニールポーチ　大型　ゲゲゲの鬼太郎　フェリシモ	1996	1	700	
生活雑貨	おちゃわん　ゲゲゲの鬼太郎　フェリシモ	1996	1	400	
生活雑貨	マグカップ　ゲゲゲの鬼太郎　フェリシモ	1996	1	500	
非売品	ポストカードアルバム　ゲゲゲの鬼太郎　フェリシモ	1996	1		
文具	シール　ゲゲゲの鬼太郎 大海獣　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	300	
文具	設定ノート　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	350	
文具	ラミネートカード NO.001-002　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	2	100	
文具	下敷き　ファミリィー　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	250	
文具	字消セット　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	300	
文具	目玉おやじ メモ　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	350	
キーホルダー	ソフトキーホルダー　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	500	
生活雑貨	おやすみコード　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	600	
生活雑貨	パスケース　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	300	
生活雑貨	映画公開記念メダル　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	600	
文具	下敷き 大海獣　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	250	
生活雑貨	鬼太郎サマーバック　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	800	
文具	けむりカード　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	3	100	
テレホンカード	テレホンカード　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	2	1000	
文具	ぬりえ　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	300	
文具	ミニノート　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	200	
文具	お面付きお絵かき帳　ゲゲゲの鬼太郎　MOVIC	1996	1	250	

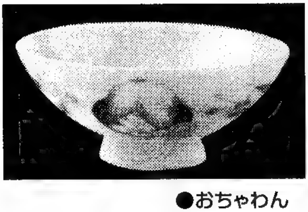


●チョコスナック

●マグカップ



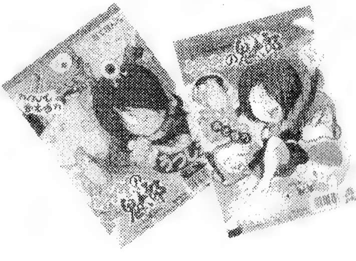
●うつし絵・ぬり絵



●おちゃわん



●ふうせんセット





●目玉おやじ メロディウオッチ



●パズル



●劇場版オリジナルサウンドトラックVOL.1



●オリジナルサウンドトラックVOL.1



●オープニングテーマ

その他②

1996.01～

品 名	型 名			発売日	種類	標準価格	
文 具	できるんですミニ	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996		480	
文 具	デッカぬりえ	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	1	380	
文 具	プリントティシュー	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	1		
文 具	鉛筆 6本入	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	1	360	
文 具	下敷き	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	2	200	
文 具	スケッチブック大	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	1	300	
文 具	スケッチブック中	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	1	250	
文 具	スケッチブック小	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	1	200	
文 具	らくがきちょう	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	1	100	
文 具	ぬりえ	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	1	200	
文 具	うつしえ	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	[illegible]	100	
文 具	消しゴム	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	2	100	
文 具	パズル	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	1	400	
文 具	メモA	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	3	100	
文 具	ミニぬりえ	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	3	100	
文 具	鉛筆キャップ	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート	1996	1	150	
パズル	№500-69	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート 天田印刷	1996	1	2000	
パズル	№300-84	ゲゲゲの鬼太郎	セイカノート 天田印刷	1996	1	1500	
シール	感温シール		アマダ	1996			
カード	P.Pカード ひくぞーくん	ゲゲゲの鬼太郎	アマダ	1996	42	20	
カード	P.Pカード ひくぞーくんセット12枚入り	ゲゲゲの鬼太郎	アマダ	1996	1	300	
カレンダー	'96生活調カレンダー	ゲゲゲの鬼太郎	芸術生活社	1996	1	900	
景 品	目玉おやじ メロディウオッチ	ゲゲゲの鬼太郎	講談社 テレビマガジン	1996.11	1		
文 具	フォトぴたカード キタロー	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画 アートス	1996	3	150	
文 具	ミニぴたシール キタロー	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画 アートス	1996	3	150	
文 具	ぷくもりシール キタロー	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画 アートス	1996	3	150	
文 具	フォトぴたシール キタロー	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画 アートス	1996	3	150	
文 具	フォトぴたブック キタロー	ゲゲゲの鬼太郎	東映動画 アートス	1996	3	150	
シングルCD	ゲゲゲの鬼太郎		Wea japan	1996	1	1000	
アルバムCD	ゲゲゲの鬼太郎 O.S.T VOL.1		Wea japan	1996	1	3000	
アルバムCD	ゲゲゲの鬼太郎 ~大海獣~ VOL.1		Wea japan	1996	1	2500	
アルバムCD	ゲゲゲの鬼太郎 ~ソングコレクション 第1集~		Wea japan	1997	1	2500	
アルバムCD	ゲゲゲの鬼太郎 ~おばけナイター~		Wea japan	1997	1	2500	
アルバムCD	ゲゲゲの鬼太郎 ~まぼろしの汽車~		Wea japan	1997	1	2548	
シングルCD	イヤンなっちゃう節	ゲゲゲの鬼太郎	Wea japan	1997	1	1020	
シングルCD	鬼太郎行進曲/ゲゲゲの応援歌	ゲゲゲの鬼太郎	Wea japan	1997	1	1020	
シングルCD	ゲゲゲの音頭/目玉おやじの妖怪数え歌	ゲゲゲの鬼太郎	Wea japan	1997	1	1020	
シングルCD	ロックだ!猫娘/ねずみうた	ゲゲゲの鬼太郎	Wea japan	1997	1	1020	
シングルCD	べったらべたらこ/吸血鬼エリート	ゲゲゲの鬼太郎	Wea japan	1997	1	1020	

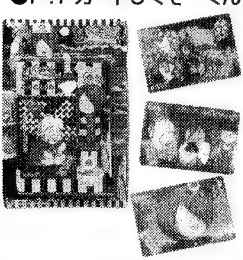


●ぬりえ



●妖怪キラシール

●P.Pカードひくぞーくん



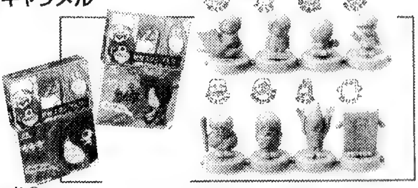
●ノート



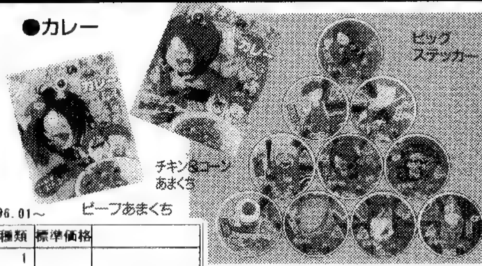


●メモ

●キャラメル



●カレー



その他③ 1996.01～

品名	型名	発売日	種類	標準価格	
アルバムCD	憂歌団ベスト お中元【主題歌 ゲゲゲの鬼太郎】 Wea japan	1996	1		
アルバムCD	憂歌団ベスト お歳暮【憂歌団バージョン イヤンなっちゃう節】 Wea japan	1996	1		
販促品	鬼太郎シール CD-SNGLE ゲゲゲの鬼太郎 Wea japan	1996	1		
販促品	鬼太郎シール CDサントラ1 ゲゲゲの鬼太郎 Wea japan	1996	1		
販促品	鬼太郎シール CD大海獣 ゲゲゲの鬼太郎 Wea japan	1996	1		
ソックス	目玉おやじ婦人用ソックス ゲゲゲの鬼太郎 岡本株式会社 セシール	1997	1		
玩具	ゲコゲコ ゲゲゲの鬼太郎 ゲゲゲの鬼太郎 トロイマー	1996	3	300	
菓子	ゲゲゲの鬼太郎ガム ゲゲゲの鬼太郎 トップ	1997	2	20	
時計	鬼太郎のおしゃべり目覚まし ゲゲゲの鬼太郎 セイコー	1996	1	5500	
玩具菓子	チョコスナック（妖怪コレクション） ゲゲゲの鬼太郎 森永製菓	1996	18	120	
玩具菓子	キャラメル（妖怪スタンプ） ゲゲゲの鬼太郎 森永製菓	1996	16	120	
菓子	チョコフレークバー（妖怪シール） ゲゲゲの鬼太郎 森永製菓	1996	20	100	
菓子	グレープフルーツアイスバー（妖怪シール） ゲゲゲの鬼太郎 森永製菓	1996	20	100	
菓子	グミキャンディ【ラムネ味】（おまけなし） ゲゲゲの鬼太郎 森永製菓	1996	2	100	
菓子	クッキー（妖怪シール） ゲゲゲの鬼太郎 森永製菓	1996	20	300	
菓子	スナックチョコ（妖怪カード） ゲゲゲの鬼太郎 森永製菓	1996	24	150	
菓子	菓子詰合せ（缶入り/お墓型箱入り） ゲゲゲの鬼太郎 森永製菓	1996			
カレー	カレー【ビーフ甘口/チキン&コーン甘口】（ビッグステッカー） ゲゲゲの鬼太郎 丸美屋	1996	10	130	
ふりかけ	ふりかけ 20袋入り（Wシール） ゲゲゲの鬼太郎 丸美屋	1996	10	220	
ソーセージ	ゲゲゲの鬼太郎ソーセージ（シール） ゲゲゲの鬼太郎 丸美屋	1997			
貯金箱	陶器貯金箱 鬼太郎 ゲゲゲの鬼太郎 オオイケ	1997	1	1000	
貯金箱	陶器貯金箱 ねずみ男 ゲゲゲの鬼太郎 オオイケ	1997	1	800	
貯金箱	陶器貯金箱 目玉おやじ ゲゲゲの鬼太郎 オオイケ	1997	1	700	
マスコット	マスコット ゲゲゲの鬼太郎 オオイケ	1997	3	480	
おてだま	おてだま ゲゲゲの鬼太郎 オオイケ	1997	4	480	
リュック	プチリュック ゲゲゲの鬼太郎 オオイケ	1997	1	880	
マスコット	鬼太郎ハウス ゲゲゲの鬼太郎 オオイケ	1997	1	3800	
ライター	キャラクターライター ゲゲゲの鬼太郎 ソフトガレージ	1997	8	380	

●グミキャンディ



●ふりかけ



●鬼太郎のおしゃべり目覚まし





●チョコフレークバー




～GOOD' Sの間～

【音信不通】



文章責任：幸治“KOZY”亮
イラスト：亀田“TURTLE”真理
資料提供：長澤“JANGA”美奈

「言っちゃうぞ！」
「あ～言っちゃえ、言っちゃえ！」
「耳の穴かっぽじって、よ～く聞きやがれ！」
「聞きなさ～い！」
「あんなもん水木しげるじゃねぇ!!」
「…あ？…朝の鬼太郎？」

これ読んで「ピンッ！」と来た方は、かなり「コア」な深夜ラジオマニアか、あの番組のヘビーリスナーだと思われます。是非お友だちになってください。

おそらく…と言うよりも、これを読む人の99．999％（※1）は何がナンだか解らず、このページをさっさと飛ばすか、馬場会長に投書して追放処分にしてもらおうと思うでしょうからキチンと説明しておくと、これはTBSラジオで月曜の深夜一時から三時まで放送されている「伊集院光のUPs　深夜の馬鹿ぢから」内で、九十七年秋頃に何回か番組とCMの間に流されたジングル（※2）。

※1　NASA安全基準

※2　TVで言うところのアイキャッチ

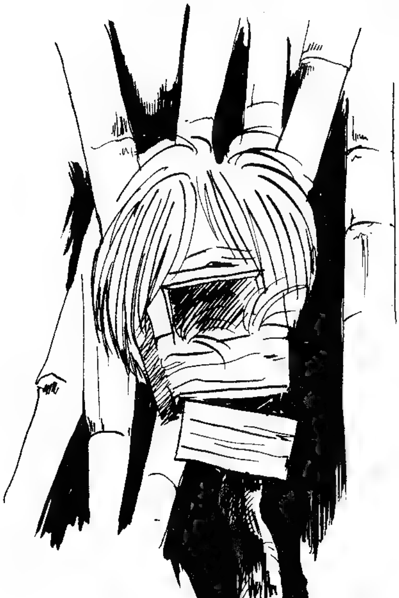
この荒川区が生んだ二代デブ専タレントのひとり伊集院、TVに出ている時は全くおとなしくしている（※3）が、いったん深夜放送に戻ってくると本領発揮の大暴れ。私もコミケなどのイベントでスタッフの某KIM嬢にハリ倒されるほどクチが汚い（※4）ことで有名だが、明らかにこのヒトから影響を受けました（※5）。何しろ生年月日が五日しか違わないから、ギャグセンスとか笑いのツボが殆ど全部ハマりまくる上に（※6）

　閑話休題、要するに彼は私と同じように、昨今のアニメブーム（※7）に対して全く興味を持てず、昭和四十年～五十年代の作品にしがみ続けているタイプだと思われる。少なくても《平成》が始まる頃には、完全に情熱は冷めていたはずだ。

所詮は自分も同じ穴のムジナだと解っていながら、週末の秋葉原の同人美女ゲー屋に集まる田舎の柔道部みたいな酸っぱい匂いの連中をコキ下ろす彼のトークを聞き続けていた私にとって、彼がこの『ゲゲゲの鬼太郎　第四部』をちゃんとチェックしてくれていたという事実は、かなりの【驚き】と【喜び】に値することだった。

　第三部にガッカリさせられたこともあって、第四部には端から諦めと「でも…もしかしたら…」という僅かな望みを抱いていたのだが……実際に憂歌団の歌う気だるい「げ、げ…」が流れた瞬間それらが杞憂であったと知ることができた。

　その証拠に次回予告の後、エンディングの物憂げな「カランコロン…」が終わるまで、全身の毛穴が開きっぱなしだったのを今でも良く覚えている。



※3 ゲーム会社絡みだとギャラが破格なので当然だろうが…

※4 歯を磨かないという意味ではない

※5 他には放送作家の高田文男とか浅草キッドとか

※6 編集部注　毎度のことですが本題からドンドン離れていくので以下焼却しました。

※7 いまだに某アニメ学院には「アニメ大好きぃ♥」な若者たちが詰めかけているそうで。結構ですな。オメデタクテ。

あの時はてっきり「よし♥あの第一部・第二部の雰囲気が帰ってくるな。コリャいよいよ大人向け、貸本時代の鬼太郎復活か？」と勝手に鼻息を荒くしていたものだったが、その後は皆さんの見ての通り。原作に対するスタッフの愛情やリスペクトが「これはっ！」という多くの傑作を生み出したのも事実だが、冷静に考えればあまりにも無理目な希望だったかも…

まあスポンサーは神様（※８）だからキャラクターグッズの露骨な宣伝はしなきゃならない（※９）し、建て前上は子供向け健全アニメ番組だから教育的な配慮も必要だろう。　製作会社だって水木プロとスポンサーとＴＶ局に板挟みならぬ鉄板プレスされ、規制に雁字搦めではやりたいこともできなかっただろう（※10）し、「大変なんだろうな…」と言うことは容易に想像できる。

あの「オカリナ」も、ＴＶでは鬼太郎の必殺技「指鉄砲」「体内原子炉」「鬼太郎憑き」等々が諸事情により表現不可能なため、それをフォローするのに考案されたという側面があるらしい。（※11）

賛否両論好き嫌いはあろうが、それでも第四部では原作（それも貸本漫画の頃）のイメージに近い鬼太郎が時折復活してくれて嬉しかった。

私が特に好きだった、と言うよりも「他の同人誌アガリみてぇなヲタク＆ヤオイアニメや柳の下のドジョウアニメにこんな凄え話ができるんだったらやってみやがれ！」と本気で想い、いまだに何度もビデオで見返してる作品のうちの一本が『ぬらりひょんと蛇骨婆ぁ』

とにかくＳＵ・ＧＯ・Ｉ。ただ凄いの一言。



※８　馬場会長から聞いた話や清水プロデューサーへのインタビューからも、そのあまりに過大すぎる影響力とそれによって引き起こされる悲劇が理解できた。

※９　いわゆるバーターか？それでもゲゲ鬼太はかなり控えめだったと思う。ＣＭも面白かったし。

※10　とか言いつつ、あのアニメ史上まれに見る鬱っとおしいヒロイン『夢子』というのが「我々のやりたかったことです♥」とか断言されたらどうしよう。

※11　これは本誌でもお馴染みである古賀ヒロアキ画伯の作品に教えられた。

アンケートランキングではあんまり上位に入らなかったが、ひょっとすると日本のアニメ史に残るほどの逸品ではないかと勝手に思ってるほど。もし見逃した人がいたら他の傑作同様ぜひレンタルすることをお勧めします。

セリフは殆ど無かったが、逆にそのことが本来鬼太郎が持つ凄み、生まれつき「幽霊族最後の生き残り」という宿命を背負わされたものの悟りと覚悟、それ故国家や正義やイデオロギーの為ではなく「生き延びる」ために相手の存在を抹消せざるを得ないという悲しみ、そして時には生きたまま（死んだままか？）永遠に地獄をサマヨワセルことも辞さないという冷酷さ（※12）等がよく表現されていたと思う。

特にクライマックスで、妖力封じのセメントの中から片目だけ出した鬼太郎が、恐怖で絶叫する『ぬらりひょん』の足首を掴み、無言のままセメントの中に引きずり込んだあと、何事もなかったかのように家路につくところは、ファンならずとも鳥肌ものである。でも良い子はヒキツケ起こしちゃうかな？怖すぎて……

以前とある作家が「ゲゲ鬼太」をはじめとする一連の水木作品を取り上げて、水木先生のことを【絶対的な虚無、絶望的な静寂を、たった一本の線で表現できる唯一の漫画家である】と絶賛していたが、まさにその一端が表現されていたと思う。（※13）



※12　ヤツは決して子供向けの優等生キャラではないという真実

※13　それでも昔気質のファンは不満なんだろうなぁ…

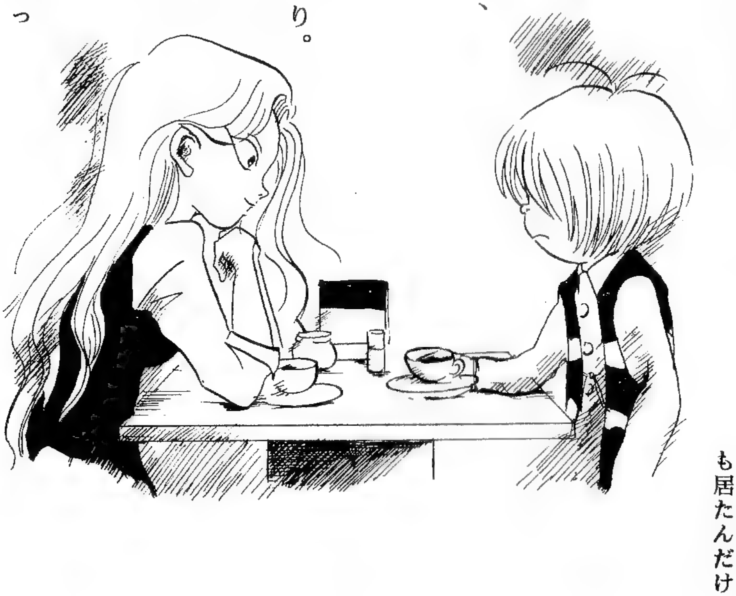
たしかに私も命あるものが一切存在せず、自分以外に動くものや気配さえ存在しない荒野を一人で永遠にさ迷わされるくらいなら、他の罪人共と一緒に閻魔様に舌引っこ抜かれて、血の池地獄なり針山なりに行かされたほうが遥かにマシだと思う。その漠然とした恐怖感を一枚の絵どころかたった一～二本の線で、しかも特に説明的なセリフは介さずに表現できる水木先生に対し、その畏敬の念はますます強くなるのだ。

「貸本時代はもちろん原作版の鬼太郎もちょっと…」というソフティ～な人には「髪の毛のびのび地獄　ラクシャサ」（髪の毛地獄だったっけ？）をお勧めするがどうだろうか？妖怪とアニメキャラと宮内洋は歳をとらないという暗黙の法則に一石を投じた作品だった（※14）が、あなたはどう感じただろうか？大人になりたがるネコ娘に何となく忘れていたモノを思い出し、おもわず胸がQ～～っと切なく（※15）

ホンとに求められてるのかヤケクソなのか、新しいものを生み出す気概を最初から放棄してるのか、最近サルの一つ覚えみたいに名作のリバイバルやヒット作の二番煎じ（※16）ばっかり。おまけに殆ど例外なくツマンネーときてる。

技術的には格段に進歩したはずなのに、それを利用すべき最前線の人たちが逆にコントロールできずに振り回されてるような感じを受けるのは私一人だろうか？

ただ、そーいう唾棄すべき慣習が定着してしまった背景には、最近自分のことをアイドルかなんかと間違えて、どう贔屓目に見ても魂が入っ



※14　私が高校生のころ「劇場版うる星やつら」でラムちゃん自身に「歳を取った」と発言させたため、ちょっとした騒ぎに発展したことがありましたなぁ…もっともその一件で現実に目が醒め、ヲタクから足を洗ったヤツも居たんだけど。

てるとは思えない仕事を流れ作業的にこなしている一部のオモシロ・フェイスな声優達（※17）や、そいつらに頼らざるをえないアニメ番組、そしてそんなアニメをカルト的に崇拝する一部のアニメファンやアニメ雑誌にも責任がある気がする。

「鬼太郎」のように一種の老舗ブランドの地位を確立している作品には、そんな連中の入る余地は無いのだろうが、いまだに技術においてもクオリティーにおいても日本製アニメが世界一だと信じて疑わない人がいたら、日本製では到底敵わないほどの世界的シェアを広げる「THE mpsons」とか「Power Puff Girls」「THE SOUTH PARK」等々を見て勉強するべきだ。好き嫌いはあろうがCGアニメの特性を最大限に活かした効果や大人でも思わずニヤリとする演出、「子供に見せて良いんか？」と思うようなブラックなユーモアは、さすがエンターテイナメントの国と思わされること請合いだ。

この際だからついでに愚痴らせてもらうが、ちょっと前までは「この声ならアノ人」ということが、ズブの素人の私にさえ《ピンッ！》と来ていた。田の中勇氏の声を聞けばアニメに興味のないヤツでも目玉のおやじと答えられるし、大平透氏の声を聞けば子供は「笑ゥせぇるすまん」大人は「ハクション大魔王」と答えるわい。（※18）

小林清治氏なら次元、井上真樹夫氏は五ヱ門で、山田康夫氏ならルパンにクリント・イーストウッド（※19）、納屋五郎氏なら目ぇつぶってても銭形のとっつぁ～んで決まり。小原乃梨子さんならドロンジョ様、白石冬美さんなら怪物くんで、永井一郎氏は波平さん。千葉繁氏がメガネ、古川登志夫氏が諸星あたるなのと同様、平野文さんはラムちゃん以外ありえないし、銀河万丈氏ならティンプ・シャローン、伊部雅刀ならデスラー総党、富山敬氏はどうしても古代君だし、内海賢二氏の声はどうしても則巻博士だし、小山茉美さん以外のアラレちゃんはただ哀れなだけだった。広川太一郎氏なら名探偵ホームズよりMr.Booとか何とか

※15 って、えっ？何？ロリコン？さぁ～何のことやら……

※16 二番煎じ三番煎じを通り越し、カラッカラに乾燥しきった出涸らしにしがみついてる番組も沢山ありますなぁ…

※17 おっと！ヴォイス・アイドルだったっけ？（爆笑）

※18 えっ？ゴア様？そりゃ見たまんまだ。

※19 はぁ？ものまね四天王？誰それ？知らねえなあ

言っちゃったり何かしっちゃったりして、島本須美さんはどうしても聖クラリス王妃(※20)とにかくetc. etc.……

今アニメ雑誌で提灯記事書かれてるアイドル声優なんて誰も頭に浮かばないんだけど、それはただ単に私が勉強不足だけじゃない筈だ。言っておくがこれはいつもの勝手な推測や個人攻撃ではない。刑事コジャックこと森山周一郎氏(※21)が、TVやラジオでことある毎に「最近の若い声優たちは自分の仕事を勘違いしている。余計な仕事に重きを置いて本業を疎かにしてるのが多すぎる。魂の入っていない仕事だから一時的に騒がれても人を感動させることはできないし、記憶にも残らない。」と苦々しく言ってんだい。(※22)

「ゲ鬼」は既にあらゆる世代に認知されたキャラクターで、原作者の水木御大ともども殿堂入りしているヒーローだ。放っておいてもまたリバイバルされるだろう(※23)が、このままではまたどんな過剰演出が付け加えられるか不安でしょうがない。はっきり私的意見を書かせてもらうが、鬼太公のキャラクターをやけに鼻につく優等生にして、ことある毎に「やめるんだ●●!」と金切り声をあげさせたり、バブリーな演歌歌手に主題歌を歌わせた(※24)功罪はあまりに大きい。たかが漫画、たかがアニメとは受け止めていない連中だってちゃんと存在しているのだから。



※20 いずれも十人十色で意見は分かれましょうが。

※21 この御方は声優と呼ばれるのが嫌でしょうがないそうな。

そこで、俳戯の極みではあるが、公認ファンクラブ【水木伝説】という虎の威を借りていくつかの提案をしてみたい。これを読む貴方も、もし何か意見があるなら声を上げて欲しい。たとえ子供向け番組であっても子供騙しでは終わらせないために。

【提案その壱】白黒にする

「ゲ鬼」に日本で初めてレタス方式のCGアニメーション技術が導入された意義は大きい。現役のアニメーターである水伝EASTのJANGA嬢の話によると、この技術の導入は「ドラゴンボール」でさえ不可能だったそうで、「ゲ鬼」はスケジュールが安定していたからこそ実現したそうな。

しかし……目が……

目がチカチカするぞぇ〜!!

いろんなところでネタにされてたけど、色が目茶目茶サイケデリックになってしまったような気が。時折「さすがはCG」とうならされるような視覚効果も見せてくれたが、これじゃ癲癇素因を持ってない奴でもヒキツケを起こしかねん。そこでこの際、デジタル技術をそのまま流用しながら彩色は白黒とかセピアにしちゃうというのはいかがでせう？多分あらゆる方面から絶賛された上に話題を独占できること請合いです。

まぁ玩具メーカーはたまったもんじゃないと思うけど。

ちなみに前述のJAN嬢は「その際、月だけは赤く塗るんですよ！」と言っていたが、それってヘタすると「ドロロンえん魔くん」になりゃせんか？

【提案その弐】NHKに放映権を譲る

水木先生を取り上げたNHK特番は、年間少なくても2〜3本（※25）は製作されているし、「のんのん婆ぁ」は鬼太郎や水木ワールドに全

※22 これらの愚痴を旧世代の世迷い言と受け流すか、一つの意見であると汲んでくれるかはこれを読む貴方にお任せする。

※23 既に第五部は計画が立ち上げられているという非公式の噂あり。

※24 それに比べて今回の憂歌団のハマリ具合は笑かしてもらった。違和感なさ過ぎ（爆笑）

※25 最近ではある朝の番組で、境港出身にも関わらず白身魚の苦手な水木先生が唯一食べられるという「奥様特製鯛のつみれ汁」を食べておられた。ファンからも仕事からも開放され奥様と二人きりの先生は、何故かこちらがホッとするほどリラックスされており、とてもとても幸福そうでありました。ワシもあんな奥さん欲しい〜なぁ〜♥

く興味のない人にも深い感動を与えてくれた。それに今更「未来少年コナン」（※26）を引き合いに出す必要もないくらいNHKのアニメは高いクオリティーを誇っている。いまや私にとって安心して観られるアニメ番組とは「ネズえもん」でも「サザエ鬼さん」でもなくNHKアニメなのだ。（※27）

黙っていても全国放送だし、下手すりゃ地球の反対側でもほぼ同時刻に放送されてるんだから喜ぶ人も多いと思うんだけどなー。それともいっそ御家芸の人形劇にするというのはいかがでしょう？（※28）



【提案その参】いわゆる放送禁止用語をバンバン使う

「指鉄砲」「体内原子炉」「リモコン手首」等がヤバくて放送不可能というのは何となく理解できる。ましてや子供向け教育的アニメ番組の正義の主人公が「シケモク」拾ったり、「ぼろいっ♥」とマージンに目が眩んでサラ金の取り立て屋になり、挙句の果てに国民的歌手は喰われる、東京はムー大陸みたいに水没しかかる、ニセ鬼太郎は溶かされるというような大惨事を引き起こしてはいけないのだろう。面白いけど。

しかし頑なに「片目」であることを隠したり、明らかに水木先生御自身をイメージシタキャラなのに「片腕」だとクレームが付いたりするのは果たしてどうなんだろうか？大体そんなこと言うなら「妖怪チンポ」はどうなるんだ？あのオティンティンがブラウン管に大写しになったときには流石のオレも引っくり返ったぜ。

臭いものに蓋をしたがるのは日本人だけじゃないが、現実として其処

※26　ちょっと前にタイトルだけ続編だけど中身は似ても似つかない、昔からのファンの気持ちを土足で踏みにじるようなアニメが民放でやってたみたいですな。まぁ結果は思った通りだったけど。

※27　歳とったせいかな〜？他にそんなヒト居ませんかね？

に存在するのに『見えてないから存在しません』したがって議論する必要もありません。」というのは、本当に教育的配慮と呼べるだろうか？

鬼太郎が幽霊族最後の生き残りという苛酷な運命を背負わなくてはならなくなった背景や、生まれてすぐに片目にされてしまった理由には、一つ一つ重要なメッセージが秘められている。それを考えてもらえれば「たかが漫画に何でそんなムキになって…」とは言えなくなるはずだ。

一方的に自分のことを「立派な」健常者だと思い込み、「哀れな」連中（※29）を「守ってやらねばならない」と傲慢不遜に考える奴ら。そんな恐るべき「勘違い」をしている奴らをこれ以上増やさないためにも「遠回し」に表現することの残虐さを子供たちに教えておくべきではないのだろうか？

メディアに携わる人たちにはもっと戦って欲しい。辛くて厳しい「現実」よりも、見た目が奇麗で耳障りのよい「偽善」や「建て前」の方が重んじられる今の世では、ハナから勝ち目は無いだろうが。

【提案その四】放送時間を替える

べつに放送時間が日曜の朝だろうが、土曜の夕方だろうが、平日のゴールデンアワーだろうが、タイマー付きのビデオデッキさえ持っていれば問題は無いのだが、本当に意味があるのか大いに疑問な〈視聴率〉とかいうものにこれ以上振り回されるくらいなら、最初か



※28 じゃあ何でみんな飛び付かないんだ？という答えは、清水プロデューサーのインタビューの中にある気がする…

※29 ハンディキャップを持つ人たち、ミゼット（小人）プロレスラー、東南アジアの売春婦etc. etc.…

ら高い数値が期待されていない深夜枠に放送したら如何だろうか？規制も緩められるだろうし、コアなファンがＴＶに齧り付き、化け物じみた視聴率が稼げるはずだが。ただ…（次章に続く）

【提案その伍】スポンサーも替えちゃ…

ただ、好調であった第四部が志半ばに終了させられてしまった最大の理由は、実は視聴率ではなくスポンサーにあるらしいのだ。これは公認ＦＣ水木伝説内でも特に水木プロや㈱東映、各出版社に太いパイプを持ち、常に情報交換を怠らないある人物（※30）から入手した情報なのだが、実際のところ『ゲ鬼　第四部』の視聴率は昨今の子供番組の中では殆どトップクラスと言えるほど高かったらしい。しかし現実には、視聴率という点では遥かに及んでいない番組（例えば某ウルトラマンシリーズ）では続々と続編や劇場版が作られたのに対し「ゲ鬼　四」は打ち切られてしまった。

この待遇の差はどこから来るのか？まあ、こんな勿体ぶった書き方をしなくても大体はお察しいただいていると思うが、最大の問題は《キャラクターグッズが売れるかどうか》の一点だけらしいのだ。

思えば第四部が始まったころ、続々発売されるグッズに気を良くし、「うわー！こげな電卓が喋っとーよ♥」とか「こがいなモンで目ぇ覚めっちゃ日にゃ、爽やかな朝が悪夢に変わるけんのお！」などと無邪気に騒いでいた…のは私くらいのもの。眼光鋭い他のメンバー達は、殆ど第三部の頃から変化も工夫もされていないグッズに相当ストレスを貯めていたらしく、ことあるごとに「やる気あんのかよバ★ダイ！」と憤りを露にしていた。

ま、それでも渋々コンプリートを目指して買ってしまうのがオタッキーな大人たちの宿命なのだが、我々よりも遥かにシビアなチビッ子達はもっと正直に反応した。もちろんツマラナイから買わなかったのである。

※30　当時オフレコという約束で教えてもらった事情もあり、今後のことも考慮し、この人物の素姓を明かすことはできないが、仮にＢ場会長と記しておく。

中には、どうしてこんな酷いことをするのか理解に苦しむ商品さえあり、

『……何でポリゴン？』

は一時期流行語にまでなる始末。

今後「ゲ鬼」のキャラクターグッズについては

「子供用だと思って嘗めてかからないで欲しい。もう子供騙しでは情報に囲まれ目が肥えた昨今の子供は引っかからない。」

「高い年齢層をターゲットにして、値段は少々高くなってもクオリティーの高いものをつくって欲しい。」

「カレーはあれじゃ甘すぎる。激辛を越えた〈地獄辛〉を作って欲しい。」

というのが正直な気持ちである。



【提案その六】放送回数を減らす

劇場版のクオリティーの高さについてはファンならずとも異論の無いところであろうと思われる。もちろんＴＶ版と劇場版を単純に比較するのは無茶であろうが、放送回数を月一回とか、年二回とか、『のんのん婆ぁ』がやろうとしたように、季節ごとに一週間連続のスペシャル番組でやるのは如何であろうか？

念のために書いておくが、私はＴＶ版のクオリティーが低いとは絶対に思っていない。ただ何となく《もったいない》ような気がしてならないのだ。放送回数がＨＥＬＬ…じゃなかった減るのは辛いことだが、せっかく技術があるのに安っぽいものを大量生産されるのは、もっと耐えられない苦痛だ。

【提案その七】台詞も減らせ！

「一反木綿」と「塗り壁」に喋らすな！それも誰が聞いても下手クソな訛で。

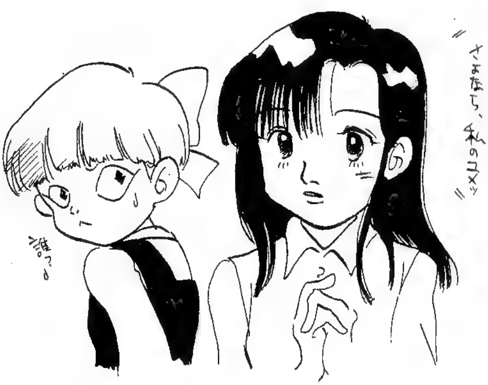
外国に行くと気味悪がられるが、言葉に出さなくても目と目で分かり合える「以心伝心」は毛唐が何を言おうと間違いなく日本人の美意識の一つである。安物のドラマじゃないんだから、不自然に説明的な台詞をダラダラ喋る必要は断じてない。もっと全体的に台詞を減らすことは可能なはずだ。ついでにわざと説明不足に作って、見ている子供たちの想像力や感性を鍛えてあげれば、親にも感謝されると思うんだが…そこまで察してくれる親何か居ねーか？

【提案その八】ヒロインはやっぱ猫ちゃんでしょう！

別に夢子ちゃんみたいなキャラクターを出すなとは言わんが、ねこ娘より登場回数が多いのはちょっとなぁ～…幸か不幸か第四部では出て来なかった（※31）が、初めて第三部のOPを見たときにはアマゾン住血虫症が再発しそうになったんで、反射的にTV消そうかと思ったもんなぁ。

鬼太公を挟んで青春ラブコメ路線というのも面白いかもしれないが、それならそれで徹底的にやって欲しかった。

途中ライバルが現れたり、校長は大らかな人なんだけど腹黒い教頭とゴマスリ主任が学園の乗っ取りを企んだり、萌えモエのメガネっ子と三角関係になったり、



※31 ホンとは岩に潰されて死んだんじゃねーのか？

金髪ボインとボインの留学生と四角関係になったり、大金持ちだけど性格のキツイお嬢さまと五角関係に…って何処まで行くんだよ！誰が秋葉原に売ってるよーな美女ゲーの話してんだよ（怒）だいたい俺って学園青春ドラマっつーたら「夕陽ヶ丘の総理大臣」しか知らねーじゃん！

ここ数年、古本業会関係者しか参加できない初段階のセリで、ほとんどの古本商が手を出せないような値段が付いてしまうという状態が続いており困惑していると、御存じ中野書店（八王子）の皆さんから聞いている。

昨今の加熱ぶりが異常だとしても、なぜファンは何十年も昔の古本を、食うものも食わずにためた何万円もの大金を投じて手に入れ、その世界に触れようとするのか？

投資目的で買い漁る餓鬼どものことを差し引いても、何故これほど何度も何度も昔の作品が復刻されるのだろうか？

水木先生を取り上げたNHKの特集番組が、年間何本製作されるか貴方は知っているだろうか？

どうして一人の漫画家や、その人が生み出した作品についての本・雑誌がこれほど膨大な数になるのか？

なぜ境港の水木ロードでは、よちよち歩きの子供から老人まであんなに楽しそうなのか？

それらの答えは、諸事情により膨大なコストや多くの制約がかかってしまった結果、水木伝説の出版物としては異色ともいえるほど高価になってしまった復刻本（例えば『地獄流し　完全版』）が、即売会で真っ先に完売するという事実と同じところに帰結するのではないだろうか？

今ファンは余計な添加物や演出の加えられていない純粋な水木作品を求めているのではないか？コミケに行けば水木作品をテーマにした同人誌が山のように売られている。しかし（これはかなり図々しい手前味噌に

なるが）公認ＦＣである「水木伝説」が出す本よりも売れている水木系同人誌が実際あるんだろうか？無礼至極な表現を使わせて貰えるならば、コピーは所詮《原本》には敵わないということだ。

怒りや絶望や締念に囚われている暇はない。

その時は来た。みな原点に帰るときが。



アニメ第四部について

BY 文月（ふみつき）廻（めぐる）

どうも今日和、新米スタッフです。タイトル通りの内容になるかどうか、心配ですわ…。余り資料とかも無いので、まぁオレの勝手な感想＋フリートークだとでも思って読んでいただければ嬉しいです。

アニメ第四部は、文明の利器ビデオデッキ及びビデオカセットのおかげで全話見ることが出来ました。で、感想ですが、全体的にＧＯＯＤでしたね。前回ほどは世界が崩れて無かったし…。

オレは元々、アニメ第三部を幼い頃に見て、ヒーロー性というのかな…その辺にひかれていました。が、親戚の家で、既にボロボロ状態だった鬼太郎のコミック（叔父の所有物だったんでしょうな。どこの出版かは覚えてませんが８巻目で『天の邪鬼』の話が載っていました。鬼太郎がくん製にされてしまったシーンがキツかったですね）を読んで、原作の印象も強かったんですよ。当時はまだまだ小学校低学年（幼稚園？）のガキんちょで、原作からアニメが作られるという構図など何も知らず、

『これはどっちも鬼太郎やよな…。でもエライ違うし、何でチャンチャンコの色が逆なんやろう？』

という疑問を抱いた覚えがしっかり残ってます。とにかくアニメが好きで、でも原作にも魅力を感じつつ、そのままこの水木伝説に入会したんです。今は随分見方が変わりました（マインド・コントロールとも言う）が、アニメが好きだという姿勢は変わっておらず、そのため第四部も抵抗無く見れたのだと思っています。

白状すると、この第四部、実際にテレビで見るまで止めどなく[illegible]てた時期は、ガロとか貸本の頃。これらはそのままじゃ[illegible]いや絶対放送が難しいと思うのでまぁ仕方が無いとして、やっぱり昭和四十年代のが醍醐味だと思うワケです。高度成長期の明暗を縫って駆け抜けたような作品ですから。

つまりモノクロ、初期カラー版は同じ時期にやったから良いけど、それが『一昔前』に見られるようになった現代に、いくら良い作品でもそのまま持ってくるワケにゃいかんし、だったらアレンジされなきゃ放映は無理になるわけでしょう？　既に前作終了時から十年近く経ってて、前よりもっとスゴイ作品になってたら…という不安をオープニングを見るまでずっと持ってたわけです。でも良かった。うん。

まず違いが目につきましたね、前作と。オープニングを見たときに、

『うーわ、暗いなぁ〜…っ！』

と思いました。第二部によく似てるので、目茶苦茶期待しましたよ。で、その期待が第三話の『夜叉』の回で、思いっきり報われました。あの話は最高でしたよ…水木先生の世界でしたね。光と陰の使い方がすごかったし、シュールな怖さがあって、とどめとばかりに鬼太郎の最後の台詞は、

「これで良かったんでしょうか…父さん？」

だしね。勝利して喜ばない鬼太郎は新鮮でした。趣味の方も言わせてもらえりゃ作画が丁寧で、細かかったし。今回のベスト10にも、きっと上位に入ってるんじゃないっスか？

その他にも好きな話は結構ありました。

『おぼろ車』なんかは鬼太郎が結局何にも出来ずに終わるという内容でした。何をどう努力したって良い方向に向かわない事の方が多いんだよという、先生のマンガでは結構おなじみの展開がミ

ソでしたね。
『妖花』と『傘化け』の二つは戦争の話でした。実際に戦争が目の当たりに行われるのではなく、それがどのように尾を引いてしまうのか、それを現代にどう持ってくるか、が鍵でしょう。そこんとこチェックして見てたんですが、とても良かったです。全シーンの底辺を哀愁が静かに流れてます。戦記物…というか、戦争体験を基にして描かれた水木作品はそれだけで他の作品とは一線を画すワケですから、その分アニメ化され（他者の手が加わ）ると質の変化が甚だしくなるという難点があるとオレは思ってます。が、事実この二話は感動しました。見れて嬉しかったです。

『皿小僧』、『あずきとぎ』、『笠地蔵』、『さざえ鬼』、『のっぺらぼう』、『オバリヨン』、『海和尚と船幽霊』、『人喰い肖像画』、『ラクシャサ』、『置いてけ堀』、『雨ふり天狗』、『妖怪自動車』、『万年竹』、『ガマ仙人』、その他色々…。思いつくまま挙げただけで、これだけ好きな話があるってのはすごいです。前作ではこんなに無かったですから。

前作との比較が多いので、そっちのファンの人からブーイングもらいそうっスね。一応オレが比較する根拠書いときます。

時代時代の視聴者（特に子供層）のニーズに応えて作られるアニメなわけですから、それぞれ違いがあるのは当然で、比較するというのは変かもしれません。が、先生の作品の調子を基本にするなら、第三部はアニメとしては素晴らしくても、水木作品の流れに属するモノとしては余りにも異端でした（それはそれで固有のファンがついたみたいっスけど…）。その反動かも知れませんが、逆にこの第四部は及第点に達するレベルだと思うワケです。だからつい違いが目につくんですね。…始めの方に書きましたが、時代が違うんです。第三部より後に放映される第四部なら、更に水木先生の味から離れてしまっても仕方がないじゃないっスか。なのに軌道修正した（後半、少しダレましたが）ってのはエライと思います。今こんな良い話が作れるなら、前のもそうして欲しかったという思いが頭にこびりついて離れませんでした。

もし第五部が放映されるなら、背景となる年代をマンガ連載当時の昭和中期に設定して、その上でやってほしいっスね。出来ないことではないと思うし。あと、ＹＡＮＯＭＡＮさんがバンダイと並ぶスポンサーになってくれればいいのになぁ――資金不足は視聴率よりも怖い最大の敵ってやつですね。例えばオモチャが売れないとか…――という勝手な希望を抱きながら、日々を送ってます。

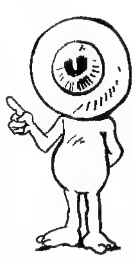
ごちゃごちゃ書きましたが、まあこんなトコです。これ以上は文じゃなく恥かきそうですので、そろそろ失礼します。下手クソな文章でお目汚しして申し訳ありませんでした。

98年 8月 文責 文月 廻

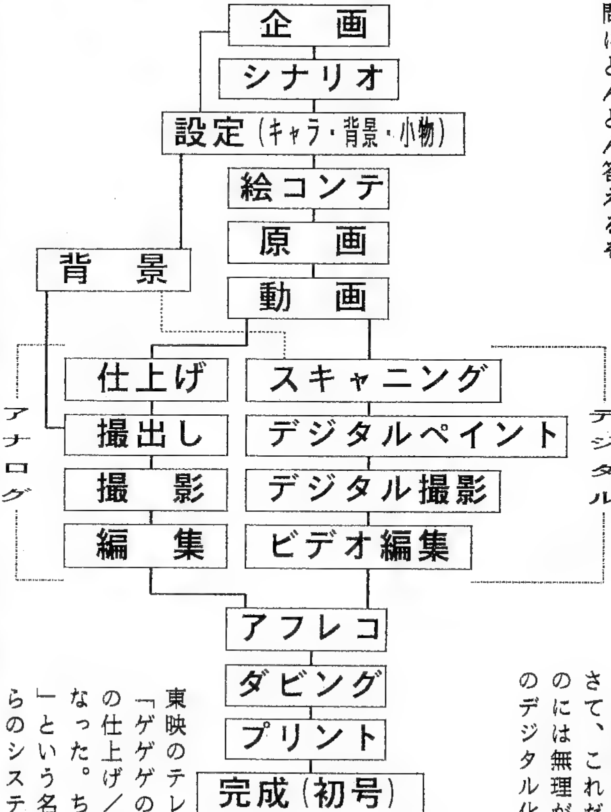


目玉親父のアニメなぜなぜ相談室

コンニチハ。
みんなアニメは好きかナ？
今回はワシがみなさんの
疑問にどんどん答えるぞ。



アニメ制作工程



このように、一本の作品が完成するまで毎回多くのセクションを経ているんじゃ。テレビアニメのエンディングでスタッフロールが流れるが、載せられる人数に制限があるため、スタジオ名のみしか、（場合によっては流れないことも）のらないことも多々ある。だから、アニメを見る人は、実際はあの何倍もの人手が動いている事を覚えておいてほしい。さて、これだけの作業をわずかな枚数で語るのには無理があるので、今回は「アニメ作業のデジタル化」にしぼって説明しようと思う。

上の図を見て分かるように、従来のセルアニメと決定的に違うのは、「仕上げ」（彩色）作業から「フィルム編集」迄の過程が全てコンピュータの端末で行われているということだ。

東映のテレビアニメでは九七年春から我らが「ゲゲゲの鬼太郎」を皮切りにコンピュータの仕上げ／撮影システムが導入されるようになった。ちなみに東映では仕上げに「レタス」という名のシステムが使われている。これらのシステムは各制作会社によって異なり、

スキャニングする動画の描き方も微妙に異なったりする。（動画とは、原画をトレスして間の動きを割っていく作業）具体的にいえば、使用する鉛筆の芯の色等であるが、何社ものスタジオの作品をかけ持ちする下請けスタジオには痛い話だろう。システムの均一化を求めたいところだ。

テレビアニメに「デジタル」作業が導入されてから、まだ3年程であるが、この短期間で全番組の8割程にまで普及している。このデジタル制を持ち込むことで何がメリットなのか？最大の理由は作業時間の短縮化・作業の簡略化である。「仕上げ」においては絵の具や筆がいらない。絵の具が乾く時間を待たなくてよいし、彩色ミスもすぐ直せる。撮影においては、カメラで一コマ一コマタップからセルを着脱して撮影をする手間がない。また彩色前の動画を取り込み、動きのタイミングを演出家（脚本をもとに映像の骨組みを作る役割）がチェックし、その場で尺を変更することもできる。つまり、一度データとして取り込んだ絵の直しがいくらでもできるので楽なのだ。データである以上、セルのように場所をとったり、撮影済みのセルを処分する必要もない。これからもますますデジタル仕上げの作品は増えるだろうし、システムもバージョンアップして行くだろう。

しかしアニメは冒頭で述べたように、たくさんの人手を経て作られている。いわば一部がデジタル化しようとも、絵は「アナログ」からの産物である。「フィルム」が廃れようと、一本の映像を作っていることに変わりはない。見る側はよい所も悪い所もどんどん言うべきであるし、作り手も見る側の事を忘れてはいけない。それがより良い作品を作る糧になるのは間違いないからじゃ。

アニメはただの「動く漫画」ではない。「映像」なんじゃよ。

Q．どうしてアニメキャラは絵なのに生き生きと動き回っているの？（神奈川県　食賀　進・九才）

A．フ～ン多分スタッフの生気をあちこちで吸い取ってるからではなかろうか？

Q．いくら不況とはいえ、この平成の世にアニメ業界の給料はきついわりに安すぎるのでは？保険もないからもし過労で入院しても自腹っすよ。声優さんみたいに徒党を組んでストライキ起こすべきっす。（練馬区　堂我　八郎・二五才）

A．ウ～ム皆分かっているが難しい問題じゃ。お主のように悶々としながら働いている人間は多数おるじゃろう。じゃがストライキを起こしたところで何を得る？声優は「声を出さない」事で仕事を拒否し、ストも成立するだろうが、この業界、多数ある下請けのスタジオのいくつかが仕事を拒否した所で、制作会社は他のコストの安い外国などのスタジオに切り替えるだけで何も変わらん。不毛だろうか？この業界に限らず働く上でこんな問題山ほどある。大事なのは君が今本当にやりたい事がなんなのか？だ。若いうちによく考えなさい。少なくともストライキは勧められん。

～目玉親父の人生相談ホットライン・完～

マニアの望む！ゲゲゲの鬼太郎《第5部》はこれだ！

ゲゲゲの鬼太郎が好きだ！

ゲゲゲの鬼太郎の放送が終了して一年後、鬼太郎の大好きな十人の仲間が集まり、アニメ版『第四部』の評価と、来るべき次回作『第五部』への期待を込めて討論した。好き勝手な事を言っているが、ここに集まった仲間達が「アニメ放送は、一部のマニアのために作られているのではなく、大衆向けに作られている。」事は、重々承知しているのであります。ただ、強烈なマニアが望んでいるアニメ版の鬼太郎は「こうだ！」と云うことを理解したうえで本稿を読んで戴きたいと思う。

放送時間帯は大切ですぞ

マニアと云えど、アニメ化された作品が大ヒットを飛ばす事が一番だと考えています。ですから、次回作はもっと視聴率の取れる時間帯を希望します。『第三部』が最も成績の良かったのは土曜日の六時半という絶好の時間帯に放送されていた事が一番の原因だと考えます。その点『第四部』は、関東地区が日曜日の朝九時から、関西なんかは月曜日の夕方でしかも、その時の番組構成によって放送時間がまちまちであった。特番が入れば放送されず、最悪の環境で放送されていました。これではいくら良い作品を作っても苦戦するのは目に見えているのではないでしょうか？

第四部の経験を活かして…

時間帯が悪いというハンディがあったにも関わらず、第四部は色々な可能性を残してくれた。水木しげる原作の得意とする「光と影のコントラスト」をそのままアニメにしたような『ギターの戦慄！夜叉』や久しぶりに見る怖い鬼太郎の『鬼太郎の地獄流し』『霊園行・幽霊電車！』最も原作に忠実だった『海奇！妖怪さざえ鬼』等。また憂歌団、佐野史郎、京極夏彦らのスペシャルゲスト編も第四部ならではの作品だったと言えよう。こういったマニア泣かせの作品が多く作られたのは「アニメは大衆向けである」と云う認識があるだけに今後の展開に期待が持てた。第五部が作られてもこのようなマニア向けの作品の登場を期待します。時間帯が悪くても最後まで応援するのは大衆ではなくマニアなのですから。

それでもこれは？

我々は『第四部』をかなり評価しているのだが、「これは？」というという不満も多少あります。関東地区の放送では画面の隅に天気予報が出て来ます。これを楽しみにしている人は居ないのではないでしょうか？またセルアニメからデジタルアニメに変わりましたが、セルの頃は良かったのですがデジタルになると色調が濃すぎて見にくいです。背景の色彩も同じで『第五部』がデジタルアニメなら、もっと色調を押

さえて見やすい画面にしてほしいと思います。作品の方では『ねずみ男』のキャラクター設定と声優さんに不満が多いようです。『ねずみ男』は『鬼太郎』と同等か？それ以上に人気のあるキャラクターで、その分思い入れが強く過去三作品の『ねずみ男』に比べれば魅力が乏しいように思われます。その原因として考えられる一つに声優の抜擢が上げられます。千葉繁さんには申し分けないが、彼の声は『ねずみ男』に合っていません。千葉繁さんに合わせてなのか？『ねずみ男』自身の性格も善良になりすぎています。ずるがしこい小悪党が『ねずみ男』の魅力！

スポンサーに一言♡

噂では東映動画さんとフジテレビは半永久的に放送を続けたかったらしいのだがスポンサーが降板したために放送が終了したと聞いている。確かに鬼太郎の商品がヒットしないのに放送を続けるのは無理があったかも知れない。しかし、商品がヒットしなかったのは番組ではなく、商品そのものに原因があったのではないでしょうか？　玩具関係、出版物、食品のおまけ、どれを見ても「欲しい」ものは少なかったように思います。鬼太郎の場合、玩具関係等の商品はロボット物等に比べヒット商品に結び付けるのは難しいかもしれません。プラモや超合金では過去に失敗しているし（プラモは第三部超合金は悪魔くん）オカリナにも、もう無理があるでしょう。では、ファンはどの様な商品を望んでいるのか？それは塩ビ人形です。『キン肉マン』で大ヒットしたあの『キン消し』の鬼太郎版は今回の商品で最も魅力のある商品でした。鬼太郎という作品の魅力はバラエティー豊かな妖怪にあります。その妖怪を安く、多くコレクションできるのは塩ビ人形なのではないでしょうか？最近の物は出来が良いですし二百円ガシャポンでのリリースも面白そうです。出版物の方もアニメ放送時にはタイアップ連載が欲しいです。『第五部』が原作に忠実なら放送順に収録した原作本やカバーにアニメ画を使用した原作本等、子供達にも読んでもらえると思います。子供向けと云えばＴＶゲームも今回は「パッ」としなかったようです。プレステのポリゴン妖怪はどうか？セガはゲーム自体が面白くなかったですし（絵は良かった）ゲームボーイはそこそこって感じでした。今後、プレステ２やドリキャスで面白いゲームが出ることを期待します。

そして第五部はこんな作品に…

ゲゲゲの鬼太郎に『アニメ版第五部』が作られるなら、基本的には第四部と同じで、出来れば原作に忠実な展開を、半永久的に放送を続けて（サザエさんやドラえもんのように）欲しいので原作のストックが無くなれば他の水木しげる作品（短編等）を絡めたりオリジナルの物語を作る場合は妖怪画集の逸話を活かすと良いのでは？また、一話完結に限らず連続物も見てみたい。原作からでも『国盗り物語』『地獄編』『お化け旅行』『鬼太郎夜話』『死神大戦記』等ある。１シリーズ十三話にしても一年以上のストックはあるわけだ。そして、鬼太郎や妖怪の特性を生かすためには時代設定を現代に限らず昭和に戻しても面白いと思う。第四部でも昭和のテイストを盛り込んだ話があり面白かったと思う。

以上が熱烈マニアの望むアニメの鬼太郎である。ただし、冒頭でも触れているがアニメ放送は基本的に大衆の物であってマニアが私物化するものではない事は承知しているつもりだ。第五部が時間帯に恵まれれば、第三部のような大衆向けの作品になっても仕方がないと思う。しかし、第四部の時のように時間帯が悪ければ、大衆が目にする機会は減り最後まで見守るのは我々マニアである事を関係者の皆さん理解して戴きたいと思います。

鼎談水木伝説

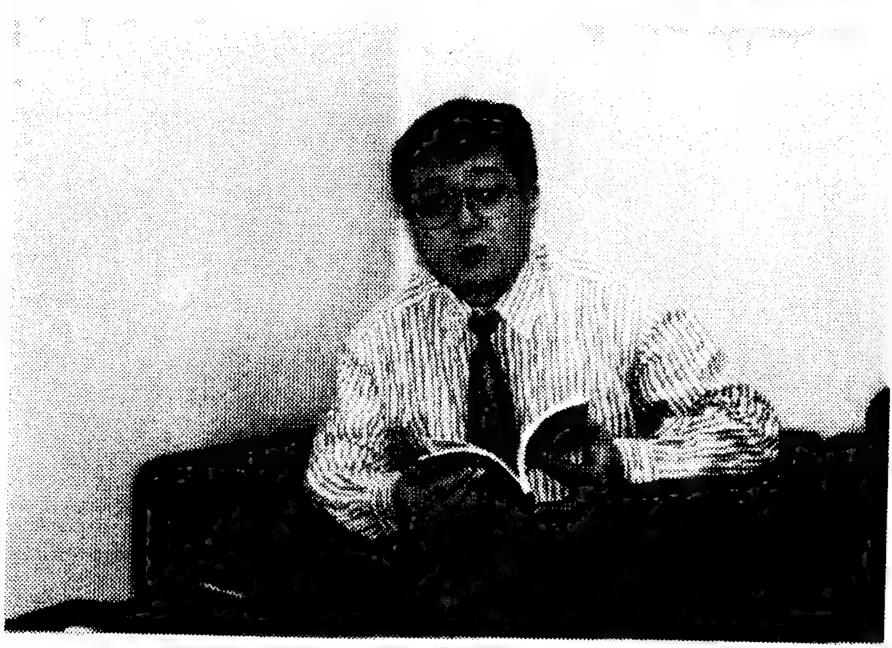
清水プロデューサー 第四部を語る

鬼太郎アニメ最後の砦㈱東映アニメーションの喧嘩番長鬼才プロデューサー**清水慎治**氏(企画営業室課長)に付けられた定冠詞は数多い。それはあたかも歴戦を生き抜いた兵の様。

今回は【イベント用3D劇場映画 鬼太郎の幽霊電車】完成直後で多忙を極めるなか、ハタ迷惑にもインタビューを敢行したのだが、その結果、気さくな人柄からは想像もできない氏の【水木世界】への情熱やポリシーそして意外にも決して平坦ではなかった鬼太郎アニメ第四部の裏側を伺うことができた為、此処に謹んで御報告する。

――ホンとに四部はもう清水さんのお陰でもう、みんな喜んでるんですけどねぇ。

清水 僕はあの、途中…最後までね、本当にこう…やりたかったんだんだよね…そしたらまあ、あの、会社の方は「鬼太郎は成功したから良いじゃないか」と。「あとは若い奴らにやらせてね、お前はもっと大変なのをやれ」っていうことで、途中からあの《金田一少年の事件簿》にね、行って一年…鬼太郎は二年…三ヵ月くらいかな?続いたんだけど、僕はまあ実質一年弱ぐらいだったんだよね。



で、まぁ、その後もちろん京極さんひっぱり出したりしたとかさ、基本的には僕なんかもうね…四〜五年続けるつもりだったんだよねぇ。だから妖怪も自分なりにいろいろローテーションって決めててさ、ある程度ノッたら、ちょっとこう…水木さんの三十年代の雰囲気？…にもうちょっと持って来ようかなぁ…と。かなりディープなやつをしようかなぁ…と思ってたの（笑）始めっからやるとさ、スポンサー逃げちゃうから（爆笑）そしたらまぁ、途中で「どけっ」ていうことになったのね。「まぁ、しょーがないなぁ……」と思ってね。結局思いの半分もできないでね、離れちゃって。

―　昨日もこちらのスタッフで話してたんですけどね。うーん、今回の鬼太郎の感想とかも聞いてたんですけど、いま清水さんが仰った三十年代とか、僕らの話も四十年代くらいの感じで…まぁ、あの「ちびまる子ちゃん」みたいな感じの…でも今の子供たちには受け入れられるんちがうかなと。

清水　うんうん、そうだよねっ！

―　無理に今の現代に持ってこなくても…

清水　うんうん。

―　まぁ、そういう話は出てたんですけどね。

清水　で、逆にお化けの話だからさ、普遍性…題材として普遍性あるからね、あのー…「できんじゃないかなぁ…」と思ってね……

―　うーん……

清水　何あたりが一番人気あるの？みんなには。

―　そうですね…

清水　例えば今回だと。何の作品あたりが？

―　やっぱ『夜叉』が一番……

清水　『夜叉』だねっ！やっぱりね！僕も一番良いかなって思うもんねぇ。





――そうですね"

清水 あの演出はね、ホンと何かでも書いたけど、途中でね《ぬ〜べ〜》に行っちゃったんだよねぇ……

――あ〜あ〜……

清水 今ちょっと思い出せないけど10個位は僕が基本的に作って、あとあの何だっけ…佐野史郎が出た後あたりにやった…

――『エリート』？

清水 『エリート』のあたりにやった、あれ…『オバリオン』！

――あっ『オバリオン』！

清水 『オバリオン』も僕が作ったんだ、話。

――妖怪『オバリオン』はね、私好きなんですよ♥

清水 『オバリオン』…『オバリオン』とあとね、もう一つなんかね出たと思うね、妖怪ね。ちょっと忘れちゃったけど。そーゆー『オバリオン』みたいなのを入れて、そーゆーテイストのものにしたいと。だから僕なんか自分の好みで『縊れ鬼』だとかさ、「あれ？今回ちょっとノスタルジーかな？」っていうのにしてるし『猫町切符』もそうだし、あーゆー『傘化け』もそうだけど、ちょっとね、自分の趣味的に走るんだけどさ、入れ込んでさ「こんなもんダメですよ」なんて言われながら結構入れ込んでたよ。

――でも、それらの評価は高いですよ

清水 ねー♥そっちの方が面白いじゃんねぇ。

――面白いですねぇ

清水 ま、結構分かってる奴は分かってんだけど、やっぱスポンサーサイドとかそーゆー処みんなね「戦う鬼太郎が欲しいんだ」って言うんだよね。

――そうなんですか……

清水 そんなの要らないんだって。みんな良い話を見たいわけよ。

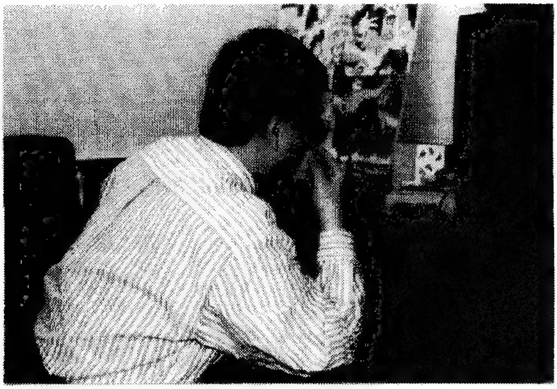
— そうですよね……

清水 ね？うーん…そうだと思うんだよね。

— えぇ…

清水 だから僕は基本的に水木さんの世界観っていうのはあの…さ、鬼太郎も四回目になると原作って言うのはもうやり尽くしちゃってるじゃない。逆に水木さんの持ってる一番良いものは非常にノホホーンとした暖かさとかだと思うんだよね。で、良ぇ話を聞きたいわけよ、みんなさ。

— そうですよね。



— ま、今回わたし（竹田）なりに良かった点としては「妖怪が妖怪らしかったなぁ」という感じがしましたね。

清水 そうだよねぇ。まぁねぇ…

— で、妖怪があまり人間の言葉喋らなかったですもんね。

清水 うーん…

— 特にあの『あかなめ』『しろうねり』がなんか…

清水 あっ！良いでしょ？アレ！ねぇ！アレ良いでしょ？うーん…

— そうですね。だからもう『あかなめ』も『しろうねり』ももう、全く喋りませんからね。その中で今のその…現代の中で妖怪がどういう感じで生きてるかっていう感じがねぇ…

清水 あの『ねずみ男』の部屋だって傑作でしょう？

— そうですね（全員爆笑）

清水 あれがあの…あの辺りがね結局「鬼太郎」やってね、三話の『夜叉』のときね、『見上げ入道』をみんなあの…何て言うかな…環境問題でとらえられちゃってさ「失敗したな」と思ったんだ。僕ら全くそういう意図なかったのよ。そしたらなんか「エコロジー訴えすぎだ」って言われて。そんなんじゃないって。たまたまそういう題材なだけでね「エコロジーなんか全然訴える気ないんだ」って言ったんだけど、どうしてもあのイメージがみんな強くて「今回の鬼太郎はかなり良いんだけど、エコロジーを訴え過ぎる」って言うから全然そんな気なかったのね。ただ、あん時もうシナリオが十三～四話くらいまで行ってたのよ。それでちょっと意識しながら。あれもちょっとエコロジーって言えばエコロジーじゃない。

— そうですね。

清水　だからエコロジーに流れないようにさ。あれも怪獣映画風にさ（笑）持ってければと思って。だからテイストは非常にあそこら辺が神経使ったとこだね。
　ただまあ途中からね、あのーかなり意識的に僕の方も外して行ったんで…まあ多少エコロジーって薄まったでしょ？

――そうですね。

清水　ねっ！あれはね前半戦けっこうね誤解されてたんだよね。

――うーん…

清水　まあ、でもね途中でホンと苦しかったけどね。みんなスタッフがどんどんいろんな仕事でこう…やってくじゃない。それでみんな「ある程度成功したな」と思うから「あと、じゃ、シミっちゃん、お任せね」でさ（笑）皆こう…打合せに参加してくんなくなるじゃない、忙しくてさ。そうなると自分で話し作っていかなきゃいけないわけ。

――はい

清水　だからそれが『縊れ鬼』だったりさ、ま、そういう…『猫町切符』でもそうなんだけど、「じゃ自分の好きな方向で行っちまえ」と！（笑）…いう割り切りをね、結構つけられたんだけどね。

――うーん…

清水　ま、前半戦のね、やっぱ十話くらいまでが結構大変だったんだな…（何かを思い出すかのように邂逅する清水プロデューサー）

清水　（暫しの沈黙の後）あっ、アレ見せてあげようか？有るかな…？ちょっと待っててね。

（ここで【鬼太郎の幽霊電車】が上映開始。エンディングの憂歌団まで全員終始無言のまま画面に釘付け!!）







清水　（自信満々に）なかなかのもんでしょ？

――　うーん。（竹田氏、満足気に頷く）

清水　違和感あんまり感じないでしょ？CGであり、さ。僕は初めね、この話が来たとき「やだ」って言ったのよ。立体は。悪いけど。でもね違和感無いでしょ？

――　違和感無いし…

清水　この位の感じだとさ。そいでもう皆ね「戦う鬼太郎やってくれ」って言うんだけどさ、断固反対「ヤダッ！」って言ってね、強引にこれ持って行っちゃったんだけどね。
　モンスターにしてさ、デカイのと鬼太郎が戦うね、そいで毛針を出すとかさ下駄を放つとかってやってくれって言われたんだけど「絶対ヤダ」って言ってね。鬼太郎は妖怪なんだからさ、ね？妖怪と妖怪を戦わせたって何も面白く無いんだよね。

――　そうですね…

清水　「いかに人間の話に持ってくるかが大事なんだから」って言って強引に。でも今みんなね「こりゃなかなか良い」って言ってくれてね、この前も富士急ハイランドの社長が来て観て、いつからやるんだったかな？まずは花やしき…浅草の花やしきでやってから日本全国に行くと…」

――　ほうほう、まずハナヤ…は「花やしき」ですかぁ？

清水　（突如上半身を乗り出して）良いでしょっ♥これはもうぜひ宣伝してくださいよね。

――　ちょっと鬼太郎が怖い存在だというのも…

――　そうですよね！

清水　良いでしょっ？ねぇ！（まさに我が意を得たりという笑顔）

――　原作に凄く近いと思います。

清水　そうでしょ？これが良い、鬼太郎だよね？

――　鬼太郎ですよね…♥

―ま、あのー、あとキャラクターではちょっと『ネズミ男』のことでね、やっぱみんな意見が出てきて。ま、ちょっとね、上品すぎる、キレイすぎるとか。

清水　うんうん

―　もっとこう…ね。ズル賢いので、その…ね。

清水　そうだろうね。あのー一番『ネズミ男』で良かったのは一作目、二作目の大塚周夫さんがやったやつだろうね。あれが悪いよね。で、富山敬さんっていうのはさ、明るい『ネズミ男』なんだよね。

―　そうですね。

清水　それでまぁ、千葉さんが一番バランスは取れてんだけど、ま、ちょうど中間の、いやらしさもちょっと有るみたいなね…でもまぁ、大塚さんだろうねぇ、一番良いのはねぇ……

―　四部でもね、あの『白山坊』の声で大塚さんを…

清水　そう！アレわざと入れたんだよ。

―　あっ、そうなんですか♥

清水　鬼太郎以外で水木さんのやつっていうのは一番人気があるって誰？やっぱ『悪魔くん』？

―　『悪魔くん』もそうですしねぇ…『かっぱの三平』は…アニメは映画で一回やっただけですからねぇ。『悪魔くん』はまた清水さん違いましたもんねぇ。

清水　あっそうそう全然。アレはテレ朝でやってたでしょう。でも『悪魔くん』も今考えてはいるんだけどね。ただまぁ作り方とスポンサーだよね。水木さんのやること…を、うーん何ていうかさ、解ってる人がさ、あまりにも少ないんだよね。作品をね…

―　はい

清水　基本的に理解してないんだよね。『悪魔くん』でもそうだと思うんだよね。モンスターが沢山…モンスターっていうか西洋妖怪…悪魔？西洋悪魔があるからさ…ま、そういう敵キャラがあるから商売になるんだっていう発想でしかないのよ。

―　うーん…

清水　それじゃぁさ、作っても違うものになっちゃうんだよね。じゃなくってもっと『悪魔くん』の世界観っていうのかなぁ…あれを理解してくれる人、応援団が周りに居ないと、例え僕が一人、声高に言ってもさ、なかなかこう…できてかないのね。そこら辺が水木さんの作品をやるとき非常に難しいというか…

―　そうですね

清水　解ってるようでいてね、みんな逆に勘違いしちゃってるのね。『鬼太郎』はそうゆうヒーロー物なんだと考えてるのよ。

―　はい

清水　『悪魔くん』もおそらくヒーロー物に作れって僕に言ってくると思うんだよね。

―　あー、はいはい

清水　僕は違うと思うんだよね。

―　ハァー…

清水　それであの、松岡洋子さんって非常に地味〜な声優さんに『鬼太郎』持ってったのね。ま、本来であれば野沢さんに持って行きたかったんだけど、ただ野沢さんの後に戸田恵子さんっていうまたスターさんを持ってきてるから、僕は戸田さんはスゴイ大好きな女優さんなんだけど、戸田さんになっちゃうと違うと思うんだよね。

―　はい

清水　やっぱりこうね…やっぱヒーローになっちゃうから、あえて地味ぃ〜にいってるわけよ。

―　はいはい

清水　そこら辺が怒られるわけだね（笑）

―　ぶははは（爆笑）

清水　何で「憂歌団」なんだと（笑）でも出来上がれば

憂歌団ピッタリじゃないか。

―― ピッタリですもんね‼

清水 でもみんな最初は「何だよそれは？」と。

―― はいはい（笑）

清水 特に東京は日曜の朝にやるから「日曜の朝にブルースじゃないだろよ！」と

―― ははははっ！

清水 でもそれが実際に絵がついて画面になるとさ、良いんだよねぇ！オープニング以上に良いんだよねぇ！

―― 良いですよねぇ。

清水 いま先生と、まぁ㊙なんだけど「悪魔くん」を考えたいんだとは言ってんだけどね、なかなか…まとまり辛いものはあるよね…

―― うーん…

清水 僕は「鬼太郎」の面白さっていうのは、毎回鬼太郎を通していろんな妖怪を見られるっていうことだと思うんだ。

―― ああ。

清水 だから僕がやってた時は、今回も全部やるように言ったんだけど、「妖怪※※」全部サブタイトルに妖怪の名前を出せって言ったの。

―― あーっはいはい！

清水 「鬼太郎」はね、今回それで全部通したと思うんだよね。でも「悪魔くん」とかは何なんだろうね？

―― うーん…

清水 「十二使徒」っていうのはアレは…

―― 「十二使徒」はアニメのときに。

清水 アニメのとき強引に作ったの？

―― あっ、でもそれは…

清水 その前にあったでしょ？

―― 原作にあったんです。

清水 そうだよね。で、その前は実写やってたんだよね。



実写では君らも見てたんだよね？
漫画はね、けっこう読んでんだよ。それで漫画がまたいろんなバージョンがあるじゃない？

―　前回確かあの送らせていただきましたよね？「悪魔くん特集」。

清水　ああっ！読ませてもらいました。
またアレの「2」っていうのを出しますけども。

清水　うーん…「悪魔くん」なんかはどこら辺が皆に人気あるの？

―　そーですね、やっぱり悪魔の存在…「メフィスト」の存在っていうのが面白いですかね、「悪魔くん」以上に。

清水　あの、西洋…悪魔っていうかさ、日本の妖怪っていうのはさ、まだ僕らの基本的なさ、毎日の生活の中に居るような気がするじゃない。僕ら日本人だからそうかも分かんないんだけれども、文化になってんじゃない？妖怪っていうかさ。でもそういう悪魔っていうとちょっと掛け離れてるんだよね。

―　はいはい。

清水　僕もだから、そこら辺ちょっと掴まえきれないのよ。

―　うーん…

清水　「鬼太郎」だったら五回目やってもね、そこそこ行くぜ、と。

―　はいはい。

清水　あとは話をどう作ってくか、かな？っていう気が有んの。

―　はい。

清水　極端な話いまのCGでさ、行けたら行っちゃったってね。今の僕らは違和感あると思うんだよね。「違うなぁ…」と思うけども、もしかしたら今の小学生なんかはさ、これ見ちゃうとさ、これになっちゃうよ。

―　そうですねぇ…

清水　コレになっちゃうよ、怖いけど。

―　であの、「今まで四部やった鬼太郎の中でどれが好きですか？」って言ったら、自分が小っさい頃に見た…

清水　そうなんだよねっ！

―　それが一番になってくるんですよね。

清水　そうなの。僕だって昔のさ、鬼太郎が好きなんだよね。一作目の白黒の頃？の方が好きだけどやっぱりこう…いま例えば子供の小学生三～四年の子はさ、今回の鬼太郎（第四部）見てるから、彼らにとっては今回の鬼太郎が一番良いだろうしさ、思うのはこう…見たときによっちゃうんだよね。

―　よりますよね。



（暫し全員沈黙してしまう）

清水　うまくできれば…できんだけどね、そこら辺の見極めが…まだ僕もちょっと掴めんなぁ…

―　そうですね。まぁ、先生の作品ではそれ以外にもいろんなその…「ムーラちゃん」とか「コケカキイキイ」とか

清水　うーん！

―　いろいろね、不思議なのもありますけどね。

清水　ま、僕なんかあと、もう「悪魔くん」はちょっとこう、自分でも考えて視野に入れなくちゃいけないなぁと思ってるんだけど、やっぱやりたいのが先生の昔の頃の短編とかさ、大人向けの怪奇…漫画？

―　そうですね。

清水　あーいうね、あーいうテイストを…まぁ、あれで作品集みたいなのを作らせてもらえれば一番ありがたいけど、なかなか商売にならないと思うんだよね。

―　はい。

清水　まぁ時代が変わってそういう時代になれば良いけども、逆に正反対の時代になってくだろうから。

―　そうですねぇ…

清水　やっぱ「鬼太郎」の中にあーいうテイストをどこまで刷り込めるかだろうねぇ…

―　「悪魔くん」は一度ね、僕らも皆で話ししてみます。

清水　「悪魔くん」はホンとにこう…やれる部分があんのかどうか…ただ世紀末ももう終わりじゃない？だから企画としてはもう遅いかも分かんないね。

―　ちょっと前でしたらね。世紀末って言うてる間に合わしてったら良かったかもしれないですね。

清水　そうか…でも「悪魔くん」って大人が面白いんだよね。

―　そうです（笑）

清水　「鬼太郎」の場合もそうだよね、大人が面白いんだよね。周りのね♥

―　そうですよね♥

清水　あと僕あれやりたいんだあの…「のんのんばあ」

―　あぁーっ！「のんのんばあ」は是非。NHKでも当たりましたし。

清水　NHKの方は僕あのとき関わってないからアレだけど、ウチおそらく断ったと思うんだよね、お金が安いってことでさ。

ホンとは実写を組み合わせれば一番良いんだけどね。「のんのんばあ」実写でやれれば一番良いんだけどね。そしたら僕「のんのんばあ」をね野沢雅子さんに演ってもらう（笑）

―　おぉー！（笑）

清水　良いっしょ？野沢さんで。

―　野沢さんに演ってもらえたらねぇ♥

清水　そうでしょ？そう思うんだけどなぁ…TVなんかでやると視聴率絶対良くなること分かってるんだけど、局のプロデューサーなんかでも「面白くなるの分かる、視聴率上がるのも分かるんだけどお客は付かない」と言うんだね。やっぱ基本的に…お客なんだよねぇ…





清水　あの京極さんの本ていうの買った？見た？

ー　買いました。

清水　あれ良いでしょ？

ー　そうですね。

清水　あれまぁ僕離れてて、もう全部裏で僕仕掛けてやったんだけど。京極さんに脚本借りて、京極さんのは勝手にあっちに置いといて（笑）こっちは好き勝手にやっちゃったんだけどね。

ー　ぶはははっ！

清水　京極さん怒ってるかもしれないよ。「自分の本で遊びやがって」と。

ー　アレは良くできてますよね。

清水　まーね、次やるときに僕ができればだいたい五回目は自信はあるんだけど。ある程度は。僕はやらしてもらえるかどうか。

（清水さんはケラケラ笑いながら言って下さったのだが、こちらは全員沈黙してしまう）

ー　それと前ひとつ思ったのは以前ね「まんが日本昔話」有りましたでしょ？あーいう感じで妖怪だけの話をね。妖怪話から、まぁタイトルは何か考えて、先生の図鑑から一ページをそのままストーリーにするとか。

清水　あぁーっ！妖怪だけ！鬼太郎出さないで？

ー　出さないで

清水　いや、今それは考えてることは考えてんだけど、ただ結局そーゆー風にやるとスポンサー付かないんだよね。スポンサー付かないとやっぱり。

ー　あー……

清水　ま、なかなかこういう「鬼太郎」みたいに、今回のこういう風に作るっていうのは大変なんだよ。

ー　はぁ。

清水　しゃあしゃあとやってるようだけどさ、僕そこ行

くまでにすーっごく苛められるんだもん。

— うーん……

清水 だってやっぱりこう凄っごくお金かかってるわけじゃない？「趣味的に作んな」って言われるんだよね。

— ふはははっ！

清水 もっと明るく楽しいものにしてくれって言うんだけどお化けなんだから明るくはできないって言うんだよ、んなのさ。

— うーん……

清水 「イベントなんだから」「もっと女の子も見るんだからあんまり怖くないようにしてくれ」って言うんだけどさ、だったら「鬼太郎」を選ぶなって言うんだよ僕は（笑）。

— ぶはははっ！

清水 僕に持って来んなっての。だから他の奴にしろっつーの！「鬼太郎」やらせんならね、他の奴にしなさいってーのよだから。そーいうこと言うならさ。僕に来るってことはこーゆー風になっちゃうよっていうさ（笑）…ことを言ってんだよね。

— はあ。

清水 ま、出来上がったらね「コレはコレで良いなぁ」とは言ってくれてんだけどねぇ。「怖い」とかね「暗すぎる」とか、

当たり前でしょ〜！
お化けでっ！（笑）

— ぶはははははっ！

清水 暗くて怖くなかったらお化けじゃないって思うね。そーゆーの分かってないんだよね。

— うーん……

清水 だって「鬼太郎」のターゲットって僕は大人と子供と…ファミリーだと考えてんだけど、皆違うよ、もう。皆もちろん大人は「鬼太郎」好きだってこと分かってんだけど。基本的にね、僕はもう大人だと思ってるんだけど、ねぇ…八才まで。三才から八才まで。

— ……（完全に沈黙させられた）

清水 だから時々こういう怖いのやると九歳・十歳の子が「おやっ？」と思うわけよ。

— あーっ！

清水 これをみんなデータあるようでいて分かってなくてね。だいたいそんなもんだね。

— うーん

清水 ま、これからも僕なんかズーッとやって行きたいけどねぇ。僕にホンとにこう…これから任してくれるんなら二十年やったっていいけどね。

— おわぁー!!

清水 「サザエさん」に負けないくらい（笑）

— ふはははっ！

【文責　幸治亮】

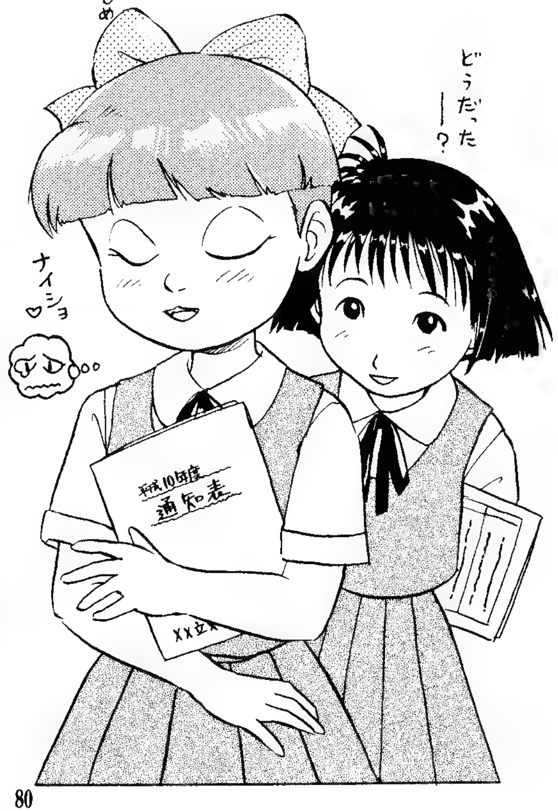

〜ときめきの間〜

四コマ劇場

悲しい天気予報（かなしいてんきよほう）

by 会員番号 二四一（にしはじめ）







■意外とおもしろかった「妖怪特急！まぼろしの汽車」と「鬼太郎ワンダーシアター」（古賀）


TVアニメ
ゲゲゲの
鬼太郎
第4
シリーズ
ついに
終了!!
遅れて放送されている地域は除く
カラン
コロ!


視聴率が良かったにもかかわらず
まあ・・・どんなにおもしろくても・・・・
・・・・大人の事情には勝ってないってことだね
女先生の 夜と夜
終わってしまったものは仕方がないとしても・・
これだけは言っておきたい・・・
それは口。





※しかも今はレコードプレーヤーが無いので、聴くこともできない……。



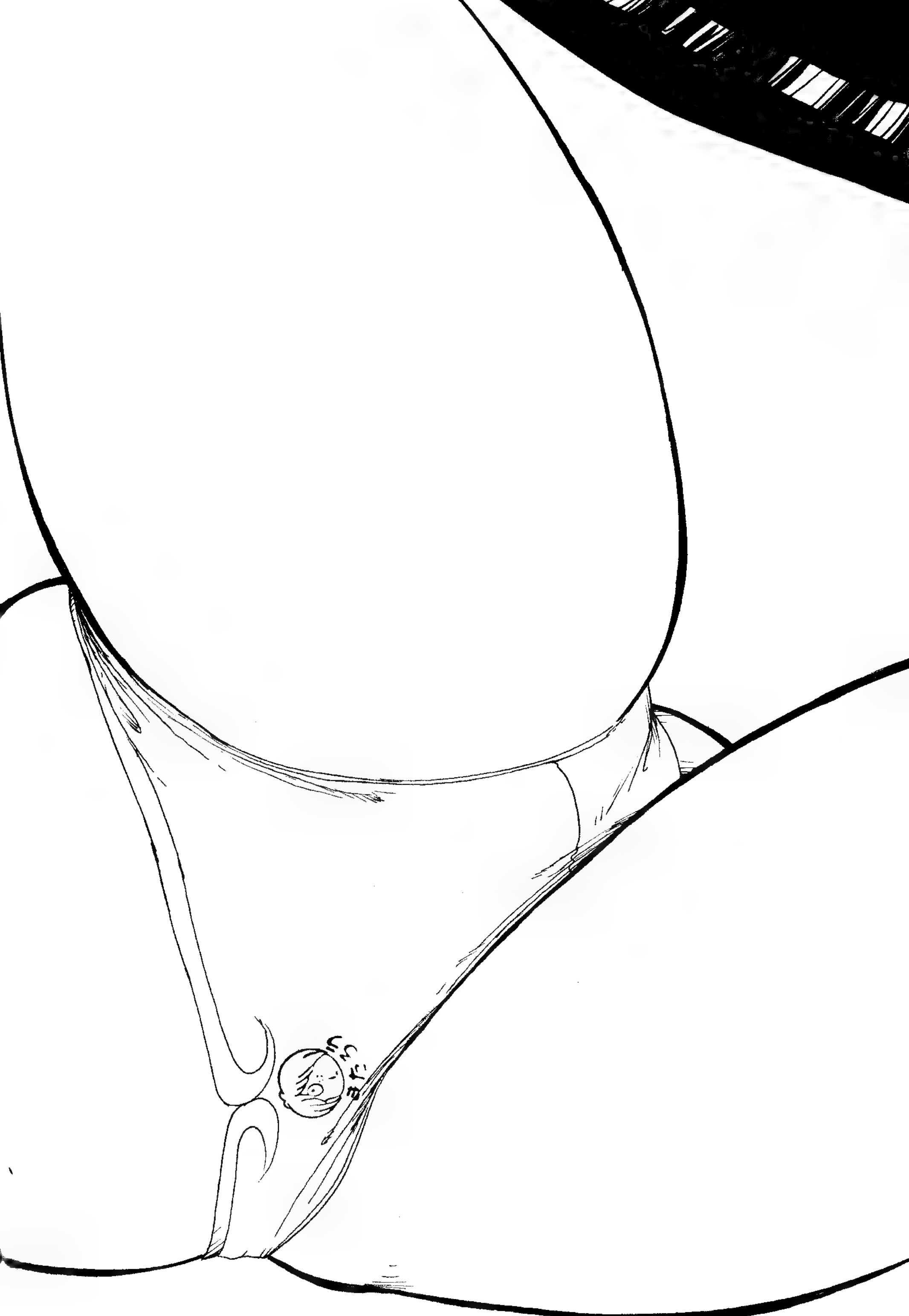

なんだ こりゃあ? 描き手の奴 欲求不満なのか?
父…さん…?
言いたいことは 東○EM○○の ミュージッ○ クリップ○ シリーズで 出ているやつ… これについても 言いたいの だよ
6と9には 肝腎の音楽が それぞれひとつずつ 抜けている!!。
旧作を知ってる人ちゃら何かは解かってくれるハズ…
月曜ドラマランドの時に復刻されてたやつ…
CDのトータルタイムを考えたら 充分収録できたはず!!
「カランコロンの歌 〔レコードヴァージョン〕」は モノラルでもいいから みすず児童合唱団のに してほしかった!!。
さあて。 いよいよ 本題だ!!。
ジャリ…
それは… これだ!!。
謎はすべて解けた!!

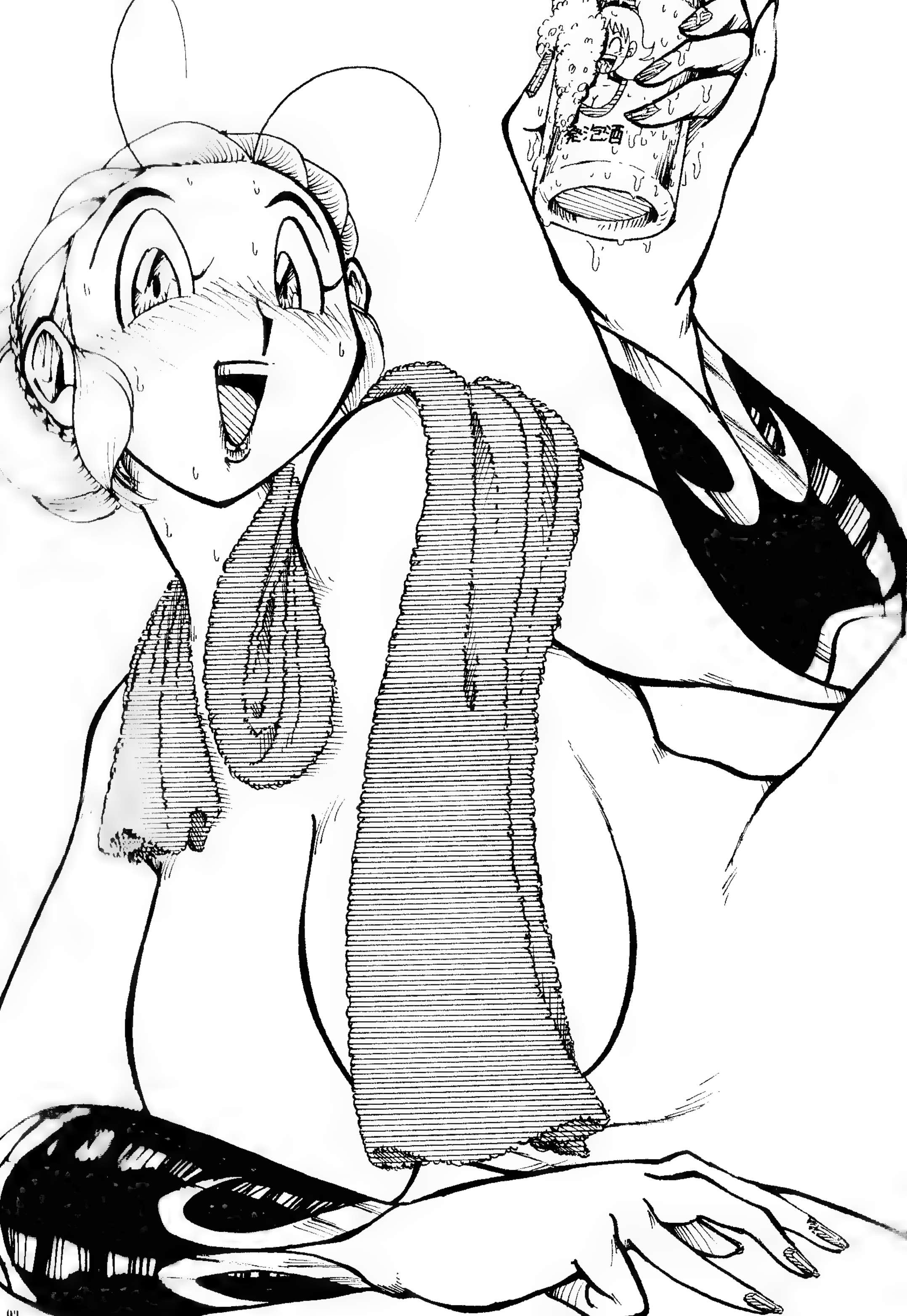











発泡酒


きゃー♡
お姉ちゃん♡
ブラボー♡
もっとも言いたかったことは・・・
ギュ
なして・・・
第4部の音楽集の「VOL・2」をなぜ出さないんだぁ!!
「VOL・1」なら「VOL・2」を出さないと意味ないだろうが!!?
ソングコレクション第1集だってそうだぜ!!
VOL・1には入ってなかった音楽で気に入っているのがあるというのに!!?


いろいろ邪魔がはいったけど
やっと言いたいことが言えたし・・・・
カランッ
コロンッ
さ〜て帰ったら寝るとするか・・・・
ぺたんぺたんぺたぺたぺたん
!
さっ

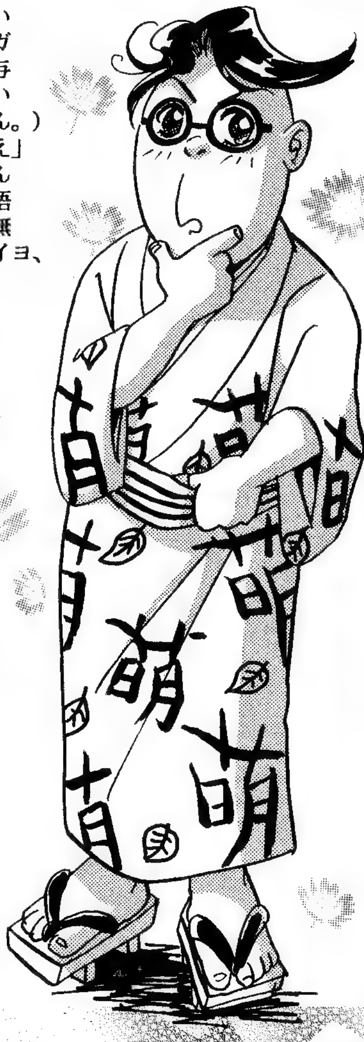
END

1998.6.7

水木へきるの4部にモエモエ～

題字：水木へきる

ヤア！私は業界で有名な（と思い込み、週末のアキバのイベント会場やホビーショップなどでだれも聞いてもいないのに自分で入手したあらゆる限りの情報をマシンガンの如く掻き喋りたて周囲にツッコミを入れるスキを与えない一人うなずき上手野郎）水木へきるだ。（くどいようですが妖怪研究家水木先生とは一切関係ありません。）今回はアニメの４部特集ということで私が考える「萌え」キャラについてとこ！とん話そうと思ったが、ババさんからページ制限を申し渡されたのでページが許す限り語ろうじゃないか。ナヌ？？こんな全身図を入れる自体無駄？まま、私の大サービスなのだからカンシャシナサイヨ、アンタ。めったに見せないんだから。



※このキャラクターは水木しげる先生と一切関係ありません。



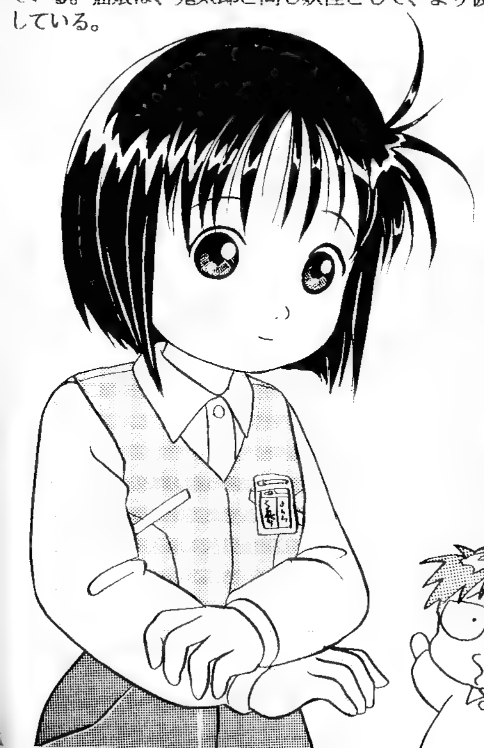
前作が「ロリロリ」、４作目は「萌え萌え」の時代



この２点の違いはなんであろう。どこかから「同じじゃねーかー！」の声も聞こえてきそうだが、明らかに違う。前作が放送されていた頃は、ほとんどの番組でヒロイン格の女の子がかわいらしさを前面にアピールしていたように思う。それを見ていた野郎達も「ＯＫ！」とばかりにそれを受け止めていた。ところが、かわいいヒロインが当たり前のようになってきた頃、視聴者は、「よりオレ好み」キャラを求めるようになる。その望みを、メジャーな方向に昇華し、小さい女の子から大きなお友だちまで巻き込んだブームを作りあげたのが「セーラームーン」であった。それまで複数の女の子がコスチュームをまとい、戦う作品というのは、野郎向けの閉じられた媒体でしか見受けられなかった。「せらむん」が大成功を納めた以降、女の子が戦う作品は一つのジャンルとして定着した。つまり、ヒロインはヒーローに変身できるようになったのだ。また、複数の女の子が出てくることで選択肢の幅が広がり、野郎共もより楽しめるようになった。これは今日びのアニメやギャルゲーを見ていただければ、その変化を見て取れるだろう。

それで、これが「鬼太郎」のどこに関係があるかというと、これが、「ユメコ」と「裕子」のちがいなんである。前作で「ユメコ」は妖怪と人間の壁をこえ、鬼太郎達と一緒に果敢に戦ったりした。その姿は、まさに妖怪と人間の理想郷の様に思えた。だが彼女があまりに完璧すぎて視聴者が自分を投影しづらくなってしまった。優等生で、人気者で、姿形も美しいとなると、かえって説得力が弱くなってしまうのだ。「ユメコ＝バブル景気」と例える知人がいて、思わずうなずいてしまった。だが、そのバブルもはじけ、完璧を目指しすぎて見失っていたものに気付かされる時代に突入した今、「ユメコ」は「夢物語」になった。

前作から８年たち、再び姿を現した鬼太郎のすぐ脇にいたのは、ユメコではなく、前作では「アネゴ」肌で脇に徹していた猫娘だった。人間の女の子「裕子」は、事件の依頼者であるが、戦いのときは終始傍観者に徹している。猫娘は、鬼太郎と同じ妖怪として、より彼の近くで、戦いに参加している。



４作目で猫娘はある意味ヒロインになったのだ。視聴者は裕子ら人間の依頼者に姿を重ね、裕子達の目を通して近づけそうで近づけない妖怪の世界をリアルに感じた。これが今の時代にしっくりと来て、４作目も２年を越す長期番組となった。

戦う女の子が１つの作品として確立した今、各番組のヒロインは必要以上に戦わなくてもよくなった。前面にかわいさを押し出していた女の子の魅力を「ロリロリ」と例えるなら、現在の女の子たちは、前面に押し出さなくとも、視聴者ごとに感じ取れる「萌え萌え」なかわいらしさを持っている。猫娘も裕子も、「もえもえ～」なのだ。



※「萌え」は、本来動詞である。
例：
ロリなキャラに萌える

次回は是非メカを！～「大海獣」に 寄せて～



４作目でも「大海獣」はアニメ化され、劇場で公開された。作画も演出もよりグレードアップし、見る側はまた新しい解釈の「大海獣」を楽しませてもらった。しかし、１原作ファンとして、もう一言ぜいたくを言わせてもらうと、やはり山田兄妹とメカ大怪獣も見たかった気がする。この長編に関しての主人公は鬼太郎というよりも山田だからだ。

原作でも異色作なので、「妖怪物」にメカを登場させる事は、ブラウン管の世界では相当の冒険になるだろう。「ジャンル」の壁を越えてしまうのだから。だが、メカ大怪獣を登場させることで、太古から続く自然の権化＝鬼太郎大怪獣と、人間の文明のエゴ＝山田のメカ大怪獣、の図式がより分かりやすくなり、水木先生のメッセージもストレートに伝わると思うのだ。また、山田の妹、啓子もラスト近くで名誉もメカも全て失い呆然とする兄に向けて、この作品のテーマとも言える言葉を投げかける。

妖怪も怪獣も巨大メカも出てくる作品を望むのは相当贅沢な事と分かっている。だが、ジャンルが多様化し、技術力も向上した今だからこそ、そんなアニメが見てみたいのだ。



いかがだったかナ？駆け足でお送りしたが、ブラウン管の中の水木ワールドに出てくる女の子へのワタクシのコダワリをちょっとでも、いやかなり分かって頂けたら、こっちも書いたかいがアルネ。ワタシも書きたいことがマダマダあるので、再登場してほしいキミは、編集部気付でレターチョンマゲ、あ、ふるー。今は♪ニャンマゲに飛びつこう♪ドンドン♪（©日光江[redacted]村）だ！それでは私はアキバで今日先行発売の○ｏ○ｏｏｏｏのＤＶＤ予約映像特典＆声優のサインカード付き限定版コンプリートボックスを知り合いの店の人にたのんどいたのを取りに行かねばならぬので、この辺でさらばだ。とぅっ！
合い言葉はー、「ビー！」じゃなくて、

©マリ鈽・ビーパラ

『もぅえもぅえ～』

（編集部注：もぅえぇ！出てくるナ！）

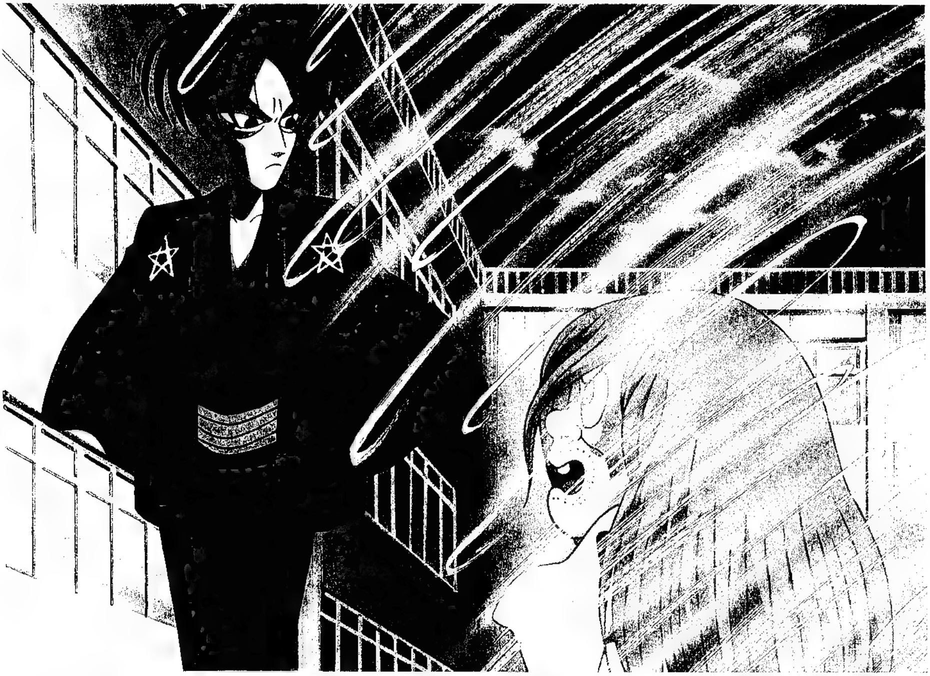
COMIC BOX VOL. 106
(1998年5月号) より

TV放映100回記念の豪華ゲスト

「ゲゲゲの鬼太郎」に京極夏彦が全面参加

Kyogoku Natsuhiko -Trying his hand at every stage of "Gegege no Kitaro"

学校の校庭にて京極氏扮するところの一刻堂VS砂かけばばあ。
Kyogoku Natsuhiko, 'disguised' as Ikkokudo, faces off with the Sunakake Baba in the school garden.



いつかはやるだろうと思われていた夢の競演がついに実現した。

かねてより親交を深めていた水木しげるさんと、只今人気絶頂の小説家・京極夏彦さん。今までも「世界妖怪会議」（97年9月16日、鳥取市にて）などで熱い議論を戦わせてきた二人だが、今回、一風変わった形での共作が見られることとなった。

昨年12月28日放映のTVアニメーション「ゲゲゲの鬼太郎」にて、京極さんは脚本を書き下ろし、ゲストキャラクター設定、そして声優として出演と、全面にわたって担当したのだ。京極さんの鬼太郎、そして水木さんに対する思い入れが十分に伝わってくるエピソードだ。今まで「鬼太郎」には佐野史郎などが声優で登場しているが、新たなキャラクターまで創り出し、しかも演じてしまう気合いに脱帽。

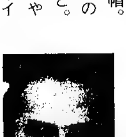
この一刻堂なる人物、京極さんのらくがきから生まれたとのこと。野性的な風貌の一方、目玉のおやじのマスコットを持ち歩くカワイイ所に京極さんの心情が表れているというのは考えすぎか。

一方、この回の演出は角銅博之さん。グループえびせん出身でアニメーションファンには既によく知られている演出家であり、東映動画では「鬼太郎」の他、「スラムダンク」や「地獄先生ぬ～べ～」などを手がけている。昨年、日本アニメーション協会の上映会でも自主作品の新作を披露した。

ところで、今回の京極さんの脚本執筆・出演を記念した本が企画中だそうだ。その中には今まで「鬼太郎」を手掛けた演出他スタッフ声優など、かなりの数の取材記事が含まれているとのこと。こちら、ファン必見本であることはまちがいない。（平林澪）



The novel [Monster Tale], by a man who reveres Mizuki Shigeru, is first and foremost a tarentella of evil spirits.
[Kai], a product of the joint efforts of Mizuki Shigeru, Aramata Hiroshi and Kyogoku Natsuhiko, is a magazine which illuminates their love of mystery.



「ゲゲゲの鬼太郎」演出の角銅博之さん。
Kakudou Hiroyuki, who directs [GeGeGe noKitaro]

一刻堂ひみつ大図解！！

TVみてるとこう感じた…



■「鬼太郎」シリーズの後半の、話題の中心はこの一刻堂登場の回だった。

関東地区での放送日はちょうどコミックマーケット参加日だったので留守録したビデオがちゃんと作動しているかどうか不安だったとか、関西地区ではその直前の99話まで放送して休止（打ち切りともいうな★）とか、なにか情けない思い出が走馬灯のように浮かぶ（笑）

右のページはコミックボックス誌に取り上げられた時の記事。古い記事になってしまったが硬派なマニア誌ならではのこだわりがうかがわれる。

あえて付け加えるならばアニメ「鬼太郎」本編は後半からデジタル彩色された為、セル画は基本的に存在しない。今回の一刻VS砂かけの2ショット画は番組宣伝用にのみ書かれたセル画のようだ。ーセル画のないTVアニメというのも白黒世代からセルに慣れ親しんだ自分にはやや寂しく感じられる。

さらに、文中のラストにある「今回の京極さんの脚本執筆・出演を記念した本は既に講談社より『ゲゲゲの鬼太郎！解体新書！』として発行済み！小誌編集の際にはこちらの本随分と参考にさせていただきました！お持ちでない方はぜひ揃えて小誌と読み比べてみてくださいヨ！

ともあれ、「一刻堂」のキャラクターとイメージは強烈！

水木伝説の関東支部「水伝イースト」では「黒いおじさん」とか「黒い秘密兵器」とかイロイロなパロディを書いて楽しませていただきましたが、それも京極先生の実力に対する羨望からくる「お遊び」！！

ーということにしといて下さいね！（苦しい）



実際の話と内容がくい違うことがあります。

アニメ版４作目

ゲゲゲの鬼太郎（きたろう）放映リスト

企画　清水賢治（フジテレビ）　※第1話~第35話
　　　鈴木専哉（フジテレビ）　※第1話~第35話
　　　石井浩二（フジテレビ）　※第36話~第72話
　　　原田冬彦（フジテレビ）　※第73話~第114話
　　　木村京太郎（読売広告社）

プロデューサー　清水慎治　※第1話~第63話
　　　　　　　　蛭田成一　※第64話~第114話

連載　コミックボンボン（講談社）
　　　テレビマガジン（講談社）
　　　たのしい幼稚園（講談社）
　　　おともだち（講談社）

製作担当　樋口宗久　※第1話~第63話
　　　　　杉本隆一　※第64話~第82話
　　　　　岡田将介　※第83話~第114話

音楽　和田薫

主題歌

「ゲゲゲの鬼太郎」	「カランコロンのうた」	「イヤンなっちゃう節」
作詩　水木しげる	作詩　水木しげる	作詩　森雪之丞
作曲　いずみたく	作曲　いずみたく	作曲　岡本朗
唄・編曲　憂歌団	唄・編曲　憂歌団	編曲　憂歌団 with HAKABA'S
(wea japan)	(wea japan)	唄　憂歌団
	※第1話~第76話	(wea japan)
		※第77話~第114話

キャラクターデザイン・総作画監督　荒木伸吾
　　　　　　　　　　　　　　　　　姫野美智

美術デザイン　蒲田又治

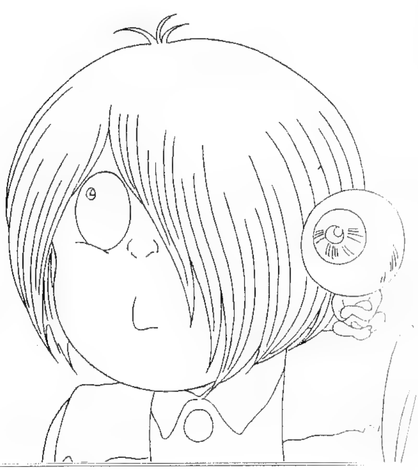
シリーズ・ディレクター　西尾大介

制作　フジテレビ
　　　読売広告社
　　　東映

声の出演

鬼太郎	松岡洋子	村上祐子	前田このみ
目玉おやじ	田の中勇	谷本淳	沼田祐介
ねずみ男	千葉繁	鈴木翔太	松井摩味

ねこ娘	西村ちなみ
砂かけ婆	山本圭子
子泣き爺	塩屋浩三
一反木綿	龍田直樹
ぬりかべ	龍田直樹



1	妖怪！見上げ入道				
放映日	平成８年１月７日	脚本	武上純希		
演出	西尾大介	作画監督	飯島弘也	美術	蒲田又治
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ・村上祐子・谷本淳・鈴木翔太 見上げ入道（声／北川米彦） 社長（声／笹岡繁蔵） 秘書（声／新田三士郎） 女の子（声／南民恵）				

2	妖怪目目連の涙！				
放映日	平成８年１月14日	脚本	橋本裕志		
演出	明比正行	作画監督	遠藤明夫	美術	鹿野良行
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・一反木綿・ぬりかべ 目目連（声／佐藤正治） 父（声／田中亮一） 母（声／高木早苗） 弟（声／野田順子） 姉（声／豊嶋真千子）				

3	ギターの戦慄！夜叉				
放映日	平成８年１月21日	脚本	雪室俊一		
演出	貝澤幸男	作画監督	木下和栄	美術	伊藤岩光
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ 夜叉（声／橋本晃一） 救急隊員（声／幸野善之） 医者（声／麻生智久）				

4	恐怖！鏡の国の鏡爺				
放映日	平成８年１月28日	脚本	武上純希		
演出	川田武範	作画監督	海老沢幸男	美術	鹿野良行
登場キャラクター	砂かけ婆・一反木綿・村上祐子・谷本淳・鈴木翔太 鏡爺(声/丸山詠二) 立間真由子(声/原田かおり) 校長(声/田中和実) 刑事(声/新田三士郎) 明美(声/南民恵) 業者(声/増谷康紀) お婆さん(声/上村典子)				

5	ダイヤ妖怪・輪入道				
放映日	平成８年２月４日	脚本	橋本裕志		
演出	吉沢孝男	作画監督	八島善孝	美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・一反木綿・ぬりかべ 輪入道（声／郷里大輔） ケン（声／嶋方淳子） ケンの父親（声／里内信夫） お巡りさん（声／川津泰彦） 男（声／土門仁） 主婦(声/住友七絵) 業者(声/小林俊夫) 老婆(声/達依久子)				

6	暴走！鬼太郎牛鬼				
放映日	平成８年２月11日	脚本	武上純希		
演出	明比正行	作画監督	出口としお	美術	鹿野良行
登場キャラクター	砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ 牛鬼 カルラ(声/河合義雄) 鬼頭(声/石森達幸) 黒岩(声/松尾銀三) 赤羽(声/島田敏) ネズミ(声/坂本正吾・青山美帆・南民恵)				

7	妖怪のっぺらぼう！				
放映日	平成８年２月18日	脚本	橋本裕志		
演出	宇田鋼之介	作画監督	直井正博	美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・一反木綿・ぬりかべ・村上祐子・谷本淳・鈴木翔太 のっぺらぼう（声／山口勝平） 女性（声／新山志保） 青年（声／佐藤浩之）				

8	妖怪かに坊主と河童				
放映日	平成８年２月25日	脚本	武上純希		
演出	川田武範	作画監督	木下和栄	美術	鹿野良行
登場キャラクター	砂かけ婆・一反木綿・ぬりかべ かに坊主（声／飯塚昭三） 河童（声／河合義雄・高戸靖広・大塚瑞恵・白鳥由里） 少年（声／野田順子）				

※鬼太郎、目玉おやじ、ねずみ男は全話登場につき、表記から省いています。（ただし、第49話・第59話は例外）

9 爆走！鬼太郎機関車

放映日	平成８年３月３日	脚本	雪室俊一		
演出	吉沢孝男	作画監督	飯島弘也	美術	松宮正純

登場キャラクター

砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

ピー（声／屋良有作）
モンロー（声／百々麻子）
男（声／里内信夫・幸野善之）
お蝶（声／達依久子）

10 怪奇！妖怪万年竹

放映日	平成８年３月10日	脚本	島田満		
演出	西尾大介	作画監督	遠藤明夫	美術	鹿野良行

登場キャラクター

砂かけ婆(姿のみ)・子泣き爺(姿のみ)

万年竹(声/大山豊)
良子(声/上村典子)
さかき(声/新田三士郎)
エリ(声/山崎和佳奈)
泥棒(声/小林俊夫・川津泰彦)
子供(声/野田順子・前田千亜紀)

11 毛羽毛現とがしゃどくろ

放映日	平成８年３月17日	脚本	武上純希		
演出	宇田鋼之介	作画監督	海老沢幸男	美術	松宮正純

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿

毛羽毛現（声／八奈見乗児）
がしゃどくろ
沼田（声／田中亮一）
立川（声／麻生智久）
秘書（声／風間信彦）

12 陰謀！猫仙人の猫王国

放映日	平成８年３月24日	脚本	橋本裕志		
演出	明比正行	作画監督	八島善孝	美術	鹿野良行

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ・村上祐子

猫仙人（声／矢田耕司）
次郎（声／嶋方淳子）
男（声／私市淳）
猫魚屋（声／増谷康紀）

13 妖怪屋敷へいらっしゃい

放映日	平成８年３月31日	脚本	島田満		
演出	川田武範	作画監督	出口としお	美術	松宮正純

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

畑怨霊（声／風間信彦）
目目連
鏡爺（声／丸山詠二）
朝男（声／新田三士郎）
太郎（声／大谷育江）
みどり(声/住友優子)
浅間教授(声/松尾銀三)
助手(声/小林俊夫)
銀八(声/風間信彦)
ジョン(声/私市淳)

14 蜃気楼海竜・みずち

放映日	平成８年４月７日	脚本	武上純希		
演出	吉沢孝男	作画監督	直井正博	美術	渡辺佳人

登場キャラクター

砂かけ婆・一反木綿・ぬりかべ

蛟
徐福（声／北村弘一）
かに坊主（声／飯塚昭三）
敏男（声／平野正人）
健吾（声／浦和めぐみ）
童男(声/桂川千絵)
駅員(声/増田均)
課長(声/麻生智久)

15 悪夢！妖怪まくら返し

放映日	平成８年４月14日	脚本	大橋志吉		
演出	明比正行	作画監督	木下和栄	美術	松宮正純

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ・村上祐子・谷本淳・鈴木翔太

まくら返し（声／肝付兼太）
つるべ火（声／塩屋浩三）
祥一（声／永島由子）
祥一の母（声／大野由佳）
祥一の父（声／増田均）

16 あかなめと白うねり

放映日	平成８年４月21日	脚本	武上純希		
演出	宇田鋼之介	作画監督	飯島弘也	美術	鹿野良行

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・一反木綿

あかなめ
白うねり
風神（声／増田均）
雷神（声／川津泰彦）
社長（声／石森達幸）
秘書(声/川津泰彦)
新聞配達員(声/増田均)
アナウンス(声/麻生智久)

17	海奇！妖怪さざえ鬼
放映日	平成８年４月28日
脚本	大橋志吉
演出	西尾大介
作画監督	海老沢幸男
美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘 さざえ鬼（声／松野太紀） 人魚（声／豊嶋真千子） 子供（声／大本眞基子・野田順子・宇和川恵美） おじいさん（声／麻生智久）

18	深海の奇跡！化け鯨
放映日	平成８年５月５日
脚本	大橋志吉
演出	川田武範
作画監督	遠藤明夫
美術	渡辺佳人
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・一反木綿 化け鯨 静子(声/柿沼紫乃) 静子の父(声/阪脩) ツアーコンダクター(声/川津泰彦) 船員(声/麻生智久) 女性 (声/宇和川恵美・鈴木麻里子・佐藤麻子)

19	恐怖！妖怪くびれ鬼
放映日	平成８年５月12日
脚本	武上純希
演出	吉沢孝男
作画監督	八島善孝
美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・村上祐子・谷本淳(姿のみ) くびれ鬼(声/鈴木れい子・江川央生) 筒井俊彦(声/島田敏・浦和めぐみ) 筒井敏子(声/前田千亜紀) 筒井晴美(声/住友優子) 俊彦の母(声/佐藤智恵) 俊彦の父(声/増田均)

20	冒険！絶海の人食い島
放映日	平成８年５月19日
脚本	橋本裕志
演出	明比正行
作画監督	出口としお
美術	浅井和久
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ 人食い島（声／青野武） ダイバー（声／幸野善之・山田真一・松尾貴司） 娘（声／豊嶋真千子）

21	白粉婆とのっぺらぼう
放映日	平成８年５月26日
脚本	大橋志吉
演出	宇田鋼之介
作画監督	直井正博
美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿 白粉婆（声／吉田理保子） のっぺらぼう（声／山口勝平） 葉子（声／笠原留美） コースケ（声／桂川千絵） 女性（声／西川宏美・鈴木麻里子）

22	蜂起！妖怪泥田坊
放映日	平成８年６月２日
脚本	武上純希
演出	川田武範
作画監督	木下和栄
美術	渡辺佳人
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ 泥田坊(声/増田均・鈴木麻里子) 直也(声/野田順子) 直也の父(声/風間信彦) 直也の母(声/川島千代子) 祖母(声/達依久子) 祖父(声/あずさ欣平)

23	風魔！妖怪雨ふり天狗
放映日	平成８年６月９日
脚本	大橋志吉
演出	吉沢孝男
作画監督	飯島弘也
美術	松宮正純
登場キャラクター	子泣き爺・一反木綿 雨ふり天狗(声/阪脩) 晴夫(声/高木早苗) 晴夫の父(声/増田均) 晴夫の祖父(声/田中亮一) 駐在(声/新田三士郎) 若者 (声/幸野善之・吉田剛夫・野島健児・沼田祐介)

24	怪談！妖怪陰摩羅鬼
放映日	平成８年６月16日
脚本	武上純希
演出	佐藤順一
作画監督	海老沢幸男
美術	橋本和幸
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ 陰摩羅鬼（声／佐藤正治） 小百合（声／三浦雅子） 老人（声／平野正人） 村人（声／川津泰彦・幸野善之・増田均）

25	古都の妖怪・おぼろ車				
放映日	平成8年6月23日	脚本	大橋志吉		
演出	宇田鋼之介	作画監督	八島善孝	美術	松宮正純

登場キャラクター
一反木綿

朧車（声／大友龍三郎）
署長（声／掛川裕彦）
市長（声／茶風林）
館長（声／田中亮一）
ドライバー（声／幸野善之・増田均・吉田剛夫）

26	復活！妖怪天邪鬼				
放映日	平成8年6月30日	脚本	雪室俊一		
演出	西尾大介	作画監督	稲葉仁	美術	渡辺佳人

登場キャラクター
ねこ娘・子泣き爺・ぬりかべ

天邪鬼（声／田中和実）
百合香（声／荒木香恵）
刑事（声／幸野善之）
警部（声／岸野幸正）

27	吸魔！妖怪野づち				
放映日	平成8年7月7日	脚本	武上純希		
演出	明比正行	作画監督	直井正博	美術	松宮正純

登場キャラクター
砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・村上祐子・谷本淳・鈴木翔太

野槌
先生（声／里内信夫）
デコ（声／田中一成）
ボコ（声／山田真一）
旦那さん（声／増田均）
奥さん（声／柏平佳代）
女(声/西川宏美)

28	幻想譚・猫町切符				
放映日	平成8年7月21日	脚本	大橋志吉		
演出	吉沢孝男	作画監督	出口としお	美術	鹿野良行

登場キャラクター
ねこ娘

猫又(声/江川央生)
秀夫(声/堀川亮)
礼子(声/住友七絵)
車掌猫(声/新田三士郎)
デブ猫(声/川津泰彦)
子猫(声/前田千亜紀)
奥さん猫(声/大塚瑞恵)
ジョンブル猫(声/幸野善之)

29	巨人伝説ダイダラボッチ				
放映日	平成8年7月28日	脚本	橋本裕志		
演出	川田武範	作画監督	木下和栄	美術	松宮正純

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆・一反木綿・ぬりかべ・村上祐子・谷本淳・鈴木翔太

ダイダラボッチ
先生(声/川津泰彦)
子分(声/千葉一伸・風間信彦)
運転手(声/増田均)
バスガイド(声/嶋方淳子)
男の子(声/南民恵)
旅館の親父(声/麻生智久)

30	妖花！夏の日の記憶				
放映日	平成8年8月4日	脚本	島田満		
演出	明比正行	作画監督	海老沢幸男	美術	渡辺佳人

登場キャラクター
妖花
河童(声/大塚瑞恵・住友優子)
花子(声/天野由梨)
良雄(声/佐藤浩之)
五郎(声/増谷康紀)
サチ(声/武藤礼子)
子供(声/南民恵・野田順子)
アナウンサー(声/増田均)
骨董屋の主人(声/八奈見乗児)

31	妖怪変化！傘化け				
放映日	平成8年8月11日	脚本	武上純希		
演出	宇田鋼之介	作画監督	八島善孝	美術	松宮正純

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺（姿のみ）・一反木綿

傘化け（声／草尾毅）
タエ（声／山口奈々）
タカオ（声／麻生智久）
ヨシコ（声／鈴木麻里子）
ツネ（声／大野由佳）
寿太郎（声／青野武）

32	電気妖怪カミナリ！				
放映日	平成8年8月18日	脚本	大橋志吉		
演出	吉沢孝男	作画監督	直井正博	美術	橋本和幸

登場キャラクター
子泣き爺・一反木綿・村上祐子・谷本淳・鈴木翔太

カミナリ（声／郷里大輔）
保谷博士（声／阪脩）
大泉助手（声／島田敏）
係員（声／幸野善之）
吾郎（声／私市淳）
マサミ(声/野田順子)

37	大追跡！妖怪自動車
放映日	平成8年9月22日
脚本	武上純希
演出	吉沢孝男
作画監督	海老沢幸男
美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ 夜行さん（声／掛川裕彦） 輪入道（声／増谷康紀） 勇夫（声／平野正人） 早苗（声／高木早苗） 勇樹（声／青山美帆）

38	血闘！おどろおどろ
放映日	平成8年9月29日
脚本	橋本裕志
演出	明比正行
作画監督	八島善孝
美術	渡辺佳人
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・一反木綿 おどろおどろ(声/佐藤正治) 剛(声/桑島法子) 剛の父(声/小林俊夫) 剛の母(声/野田順子) 配達員(声/増田均) 助手(声/根谷美智子)

39	妖狐・白山坊の花嫁
放映日	平成8年10月6日
脚本	島田満
演出	佐藤順一
作画監督	直井正博
美術	松宮正純
登場キャラクター	砂かけ婆・一反木綿(姿のみ) 白山坊(声/大塚周夫) 正吉(声/岸野幸正) 茜(声/長沢美樹) コン太(声/大谷育江) 運転手(声/新田三士郎) お手伝い(声/住友優子) 従者キツネ(声/西脇保) 獣医(声/増谷康紀)

40	夜の墓場は運動会！
放映日	平成8年10月13日
脚本	大橋志吉
演出	宇田鋼之介
作画監督	飯島弘也
美術	橋本和幸
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ 雨ふり小僧(声/田中一成) 油すまし(声/中井和哉) つるべ火(声/塩屋浩三) のっぺらぼう(声/山口勝平) あずきはかり(声/里内信夫) 妖怪(声/西脇保) 正光(声/佐藤智恵) 達也(声/大塚瑞恵) 紀子(声/笠原留美)

33	逆襲！妖怪さら小僧
放映日	平成8年8月25日
脚本	武上純希
演出	佐藤順一
作画監督	飯島弘也
美術	松宮正純
登場キャラクター	さら小僧（声／高戸靖広） 妖怪（声／吉田剛夫・増田均） 司会者（声／風間信彦） 木村（声／木村充揮(憂歌団)） 内田（声／内田勘太郎(憂歌団)） 花岡（声／花岡献治(憂歌団)） 島田（声／島田和夫(憂歌団)）

34	流浪！妖怪あずきとぎ
放映日	平成8年9月1日
脚本	大橋志吉
演出	明比正行
作画監督	稲葉仁
美術	渡辺佳人
登場キャラクター	ねこ娘 あずきとぎ(声/西村知道) あずきはかり(声/里内信夫) あずきばばあ(声/遠藤久子) 店主(声/田中和実) 職人(声/麻生智久) 店員(声/中井和哉) 男(声/増田均) 女(声/大本眞基子) アナウンサー(声/住友優子)

35	鬼太郎の地獄流し
放映日	平成8年9月8日
脚本	島田満
演出	宇田鋼之介
作画監督	出口としお
美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺 大黒（声／徳丸完） 二郎（声／田中亮一・桑島法子） 母親（声／大野由佳） 店主（声／岐部公好） アナウンサー（声／新田三士郎）

36	仰天！おりたたみ入道
放映日	平成8年9月15日
脚本	大橋志吉
演出	川田武範
作画監督	木下和栄
美術	橋本和幸
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺 おりたたみ入道(声/川津泰彦) ムジナ(声/高木渉) 油すまし(声/中井和哉) 呼子(声/上村典子) お爺さん(声/麻生智久) 兄(声/野田順子) 弟(声/南央美) 子供(声/前田愛)

41	つけもの妖怪ほうこう！				
放映日	平成8年10月20日	脚本	武上純希		
演出	吉沢孝男	作画監督	出口としお	美術	松宮正純
登場キャラクター	砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿 ほうこう（声／玄田哲章・増田均・岐部公好・稲田徹・増谷康紀）				

42	がんぎ小僧とねずみ男！				
放映日	平成8年10月27日	脚本	大橋志吉		
演出	明比正行	作画監督	稲葉仁	美術	渡辺佳人
登場キャラクター	一反木綿 がんぎ小僧（声／千葉一伸） 一目入道（声／里内信夫・山田真一・野島健児・増田均・坂本正吾） 河童（声／田中亮一・野田順子・山田真一・野島健児・増田均・坂本正吾）				

43	反乱！妖怪化けぞうり				
放映日	平成8年11月3日	脚本	武上純希		
演出	川田武範	作画監督	海老沢幸男	美術	松宮正純
登場キャラクター	砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿 化けぞうり(声/橋本晃一) シンヤ(声/亀井芳子) おじいさん(声/北川米彦) おじさん(声/麻生智久) おばさん(声/住友七絵) 骨董屋(声/河合義雄)				

44	西洋悪魔・ベリアル！				
放映日	平成8年11月10日	脚本	大橋志吉		
演出	宇田鋼之介	作画監督	木下和栄	美術	浅井和久
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ ベリアル(声/沢木郁也) からす天狗(声/新田三士郎) 油すまし 呼子 漁師(声/増田均) 高校生(声/野島健児・西脇保)				

45	もち殺し！妖怪火車				
放映日	平成8年11月17日	脚本	矢島大輔		
演出	佐藤順一	作画監督	八島善孝	美術	松宮正純
登場キャラクター	一反木綿(姿のみ) 火車（声／梁田清之） 法子（声／丹下桜） 杏子（声／笠原留美） 次郎（声／風間信彦） 陣一郎（声／里内信夫） お婆さん(声/遠藤久子)				

46	妖怪大裁判（前編）				
放映日	平成8年11月24日	脚本	武上純希		
演出	明比正行	作画監督	直井正博	美術	渡辺佳人
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ 百々爺(声/松尾銀三) ぬらりひょん(声/西村知道) 大天狗(声/笹岡繁蔵) からす天狗 (声/佐藤正治・江川央生・増谷康紀・増田均) 夜行さん(声/川津泰彦) 化けガラス 見上げ入道(声/川津泰彦) 輪入道(声/増谷康紀) くびれ鬼(声/江川央生) 妖怪(声/増田均・沼田祐介)				

47	妖怪大裁判（後編）				
放映日	平成8年12月1日	脚本	武上純希		
演出	吉沢孝男	作画監督	木下和栄	美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ 百々爺(声/松尾銀三) ぬらりひょん(声/西村知道) 大天狗(声/笹岡繁蔵) からす天狗 (声/佐藤正治・江川央生・増谷康紀・増田均) 夜行さん(声/川津泰彦) 化けガラス 館長(声/田中亮一)				

48	えんま大王とねこ娘				
放映日	平成8年12月18日	脚本	小林千賀子		
演出	宇田鋼之介	作画監督	出口としお	美術	橋本和幸
登場キャラクター	ねこ娘・一反木綿(姿のみ) 閻魔大王(声/柴田秀勝) 鬼 マリ(声/荒木香恵) 里子(声/三田ゆう子) 義男(声/河合義雄) 医師(声/麻生智久) 亡者(声/風間信彦) 女子高生(声/前田千亜紀・古山あゆみ)				

49	水妖怪赤舌の疾走！				
放映日	平成8年12月15日	脚本	矢島大輔		
演出	川田武範	作画監督	海老沢幸男	美術	松宮正純
登場キャラクター	一反木綿・村上祐子・谷本淳・鈴木翔太 赤舌（声／増谷康紀） 涼子（声／野上ゆかな） 男性強盗（声／私市淳） 女性強盗（声／野田順子） 先生（声／岐部公好） アナウンサー（声／幸野善之） ※この回にはねずみ男は登場しません				

50	遊園地の吹き消し婆！				
放映日	平成8年12月22日	脚本	大橋志吉		
演出	吉沢孝男	作画監督	稲葉仁	美術	渡辺佳人
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・ぬりかべ 吹き消し婆（声／川浪葉子） 姥火（声／伊倉一恵） 百姓（声／西脇保） 番頭（声／野島健児） 女性（声／南民恵）				

51	雪コンコン！笠地蔵				
放映日	平成8年12月29日	脚本	武上純希		
演出	佐藤順一	作画監督	木下和栄	美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿（姿のみ） 一本ダタラ（声／増谷康紀） ミミシロ（声／浦和めぐみ） シッポ（声／平松晶子） コンコ（声／榎谷美智子） おじいさん（声／嶋俊介） おばあさん（声／鈴木れい子） 店主（声／増田均） キツネ（声／大本眞基子・古山あゆみ・西脇保）				

52	コマ妖怪・あまめはぎ！				
放映日	平成9年1月12日	脚本	矢島大輔		
演出	明比正行	作画監督	八島善孝	美術	徳重賢
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ（姿のみ）・村上祐子 あまめはぎ（声／上田敏也） 進ノ介（声／野田順子） 真（声／住友優子） 男の子（声／南民恵・前田千亜紀）				

53	霊園行・幽霊電車！				
放映日	平成9年1月19日	脚本	大橋志吉		
演出	宇田鋼之介	作画監督	直井正博	美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ（すべて姿のみ） 老婆の駅員（声／高木早苗） 駅員（声／麻生智久） ガイコツ（声／西脇保・坂本正吾） 小林（声／飛田展男） 先輩（声／塩沢兼人）				

54	妖怪邪魅とガマ仙人！				
放映日	平成9年1月26日	脚本	大橋志吉		
演出	吉沢孝男	作画監督	飯島弘也	美術	渡辺佳人
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿 邪魅（声／郷里大輔） ガマ仙人（声／八奈見乗児） ぬらりひょん（声／西村知道） 行員（声／坂本正吾） ガードマン（声／増田均・西脇保）				

55	座敷童子と妖怪後神！				
放映日	平成9年2月2日	脚本	武上純希		
演出	川田武範	作画監督	出口としお	美術	松宮正純
登場キャラクター	砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ 座敷童子（声／柏倉つとむ） 後神（声／江森浩子） サボテン妖怪 つるべ火 化けガラス お母さん（声／鈴木楓） お父さん（声／岡和男） お兄ちゃん（声／川津泰彦） ホタル（声／前田千亜紀）				

56	水変化！妖怪水虎				
放映日	平成9年2月9日	脚本	矢島大輔		
演出	明比正行	作画監督	海老沢幸男	美術	内川文広
登場キャラクター	子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ 水虎（声／大友龍三郎） 昇（声／高木早苗） 剛助（声／宇和川恵美） 琢也（声／上村典子） 高男（声／高木渉） 消防団員（声／増田均・野島健児）				

57	吸血鬼エリート！				
放映日	平成９年２月16日	脚本	橋本裕志		
演出	吉沢孝男	作画監督	木下和栄	美術	渡辺佳人
登場キャラクター	エリート（声/佐野史郎） 陵子（声/鶴ひろみ） 黄金虫（声/高木渉） 執事（声/青野武） 美術教授（声/山崎和佳奈） 学生（声/野島健児） 美女（声/鈴木麻理子）	研究員（声/幸野善之）			

58	冷凍妖怪・雪ん子！				
放映日	平成９年２月23日	脚本	雪室俊一		
演出	勝間田具治	作画監督	稲葉仁	美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・一反木綿・ぬりかべ				
	雪ん子（声／三輪勝恵） 雪男（声／宇垣秀成） 雪女（声／中友子） 太一（声／鉄炮塚葉子） 園子（声／石井直子）	主婦（声/住友七絵・南央美）			

59	妖怪オバリヨン！				
放映日	平成９年３月２日	脚本	大橋志吉		
演出	宇田鋼之介	作画監督	八島善孝	美術	松宮正純
登場キャラクター	オバリヨン（声／高戸靖広） 岩魚坊主（声／佐藤正治） 真奈美（声／野田順子） 佳枝（声／吉田古奈美・川島千代子） 直子（声／桑島法子） 幸美（声／岡村明美） ウェイトレス（声／青山美帆）	※この回にはねずみ男は登場しません			

60	ぬらりひょんの陰謀！				
放映日	平成９年３月９日	脚本	矢島大輔		
演出	川田武範	作画監督	直井正博	美術	渡辺佳人
登場キャラクター	砂かけ婆・一反木綿				
	半魚人（声／堀之紀） 妖怪イカ ぬらりひょん（声／西村知道） 朱の盆（声／郷里大輔）				

61	妖怪いやみにご用心				
放映日	平成９年３月16日	脚本	田村竜		
演出	吉沢孝男	作画監督	飯島弘也	美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿				
	いやみ（声/松尾銀三） カシャボ（声/沼田祐介） 飼育係（声/里内信夫） 運転手（声/幸野善之） おじさん（声/麻生智久）	慎悟の母（声/北川美砂緒） 慎悟（声/大塚瑞恵） [illegible]（声/青山美帆）			

62	怪奇！ばけ猫街道				
放映日	平成９年３月23日	脚本	雪室俊一		
演出	明比正行	作画監督	海老沢幸男	美術	渡辺佳人
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺				
	ばけ猫（声／青野武） 輸入道（声／増谷康紀） 武藤（声／川津泰彦） 房子（声／竹田愛里） タケル（声／桑島法子）	医者（声/麻生智久） 看護婦（声/前田このみ） 佐々木（声/新田三士郎）			

63	メンソーレ！妖怪ホテル				
放映日	平成９年３月30日	脚本	武上純希		
演出	勝間田具治	作画監督	出口としお	美術	松宮正純
登場キャラクター	一反木綿				
	シーサー（声/鉄炮塚葉子） キジムナー（声/沼田祐介） 河童（声/西脇保） 泥妖怪（声/土門仁） 金城（声/阪脩）	鈴木（声/曽我部和恭） 老母（声/達依久子） 女性（声/大野まりな） 老人（声/河合義雄）			

64	激争！妖怪ラリー				
放映日	平成９年４月６日	脚本	橋本裕志		
演出	宇田鋼之介	作画監督	木下和栄	美術	内川文広
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿				
	ベアード（声/佐藤正治） 狼男（声/川津泰彦） フランケン（声/塩屋浩三） 魔女（声/住友七恵） 長江の水虎（声/龍田直樹）	のっぺらぼう（声/山口勝平） 猫仙人（声/江川央生） ぬらりひょん（声/西村知道） 朱の盆（声/郷里大輔） ガイコツ（声/茶風林）			

65 驚異！マンモスフラワー

放映日 平成９年４月13日　脚本 矢島大輔

演出 吉沢孝男　作画監督 稲葉仁　美術 松宮正純

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

マンモスフラワー
黒洋（声／丸山詠二）
友松（声／風間信彦）
桜井（声／千葉一伸）
駐在（声／麻生智久）
幕僚長(声/岸野幸正)
赤島知事(声/田中亮一)

66 風雲！妖怪城（前編）

放映日 平成９年４月20日　脚本 橋本裕志

演出 川田武範　作画監督 八島善孝　美術 松宮正純

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

たんたん坊（声／立木文彦）
二口女（声／阿部道子・津賀有子）
かまいたち（声／鈴木琢磨）
不動産屋（声／新田三士郎）
市長（声／松尾銀三）
子供(声/大塚瑞恵)
男性(声/沼田祐介)

67 風雲！妖怪城（後編）

放映日 平成９年４月27日　脚本 橋本裕志

演出 明比正行　作画監督 直井正博　美術 松宮正純

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

たんたん坊（声／立木文彦）
二口女（声／阿部道子・津賀有子）
かまいたち（声／鈴木琢磨）
子供妖怪（声／森上えり・藤野とも子）

68 荒海の伝説・磯女！

放映日 平成９年５月４日　脚本 大橋志吉

演出 境宗久　作画監督 飯島弘也　美術 松本健治

登場キャラクター
ねこ娘・一反木綿

磯女(声/上村典子)
赤ん坊(声/三田ゆう子)
一成(声/大塚瑞恵)
陽介(声/桑島法子)
先生(声/風間信彦)
生徒(声/金田沙織・前田愛)

69 悪魔ブエルとやかんづる

放映日 平成９年５月11日　脚本 田村竜

演出 宇田鋼之介　作画監督 海老沢幸男　美術 松宮正純

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

ブエル（声／島田敏）
やかんづる
ぬらりひょん（声／西村知道）

70 怪気象！妖怪ぐわごぜ

放映日 平成９年５月18日　脚本 矢島大輔

演出 吉沢孝男　作画監督 出口としお　美術 松宮正純

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

ぐわごぜ（声／くじら）
河童（声／幸野善之）
一ツ目（声／野島健児）
ユーレイ（声／前田このみ）
木水（声／田中秀幸）
アナウンサー(声/岡田加奈子)

71 オベベ沼の妖怪！

放映日 平成９年５月25日　脚本 武上純希

演出 川田武範　作画監督 木下和栄　美術 徳重賢

登場キャラクター
ねこ娘

カワウソ(声/柏倉つとむ)
ぬらりひょん(声/西村知道)
朱の盆(声/郷里大輔)
河童(声/里内信夫)
おじいさん(声/伊井篤史)
ヤクザ(声/川津泰彦・千葉一伸・中井和哉)

72 出現！天狐の地底王国

放映日 平成９年６月１日　脚本 矢島大輔

演出 明比正行　作画監督 八島善孝　美術 松本健治

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

天狐(声/川村万梨阿)
空狐(声/関智一)
三高竹蔵(声/江川央生)
三高松蔵(声/青野武)
地狐(声/土門仁)
女性(声/住友七絵・小松里賀)
警備員(声/坂本正吾)

７３	爆進！怒りの土ころび				
放映日	平成９年６月８日	脚本	田村竜		
演出	勝間田具治	作画監督	直井正博	美術	松宮正純
登場キャラクター	砂かけ婆・一反木綿・ぬりかべ 土ころび（声／古谷徹） 小林（声／大場真人） 子供（声／前田千亜紀） パイロット（声／幸野善之・土門仁） アナウンサー（声／里内信夫）				

７４	大蛇神ヤマタノオロチ！				
放映日	平成９年６月15日	脚本	矢島大輔		
演出	吉沢孝男	作画監督	飯島弘也	美術	松宮正純
登場キャラクター	砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ・村上祐子・谷本淳・鈴木翔太 ヤマタノオロチ ぬらりひょん（声／西村知道） 朱の盆（声／郷里大輔） ゲジゲジ（声／私市淳）				

７５	妖術・鏡合戦！				
放映日	平成９年６月22日	脚本	雪室俊一		
演出	川田武範	作画監督	海老沢幸男	美術	塩崎広光
登場キャラクター	砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ 雲外鏡（声／田中亮一・久川綾） 男（声／野島健児） 警官（声／坂本正吾） 警備員（声／麻生智久）				

７６	灼熱の妖怪！ひでり神				
放映日	平成９年６月29日	脚本	おおいとしのぶ		
演出	境宗久	作画監督	出口としお	美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺 ひでり神（声／立木文彦） 隆三（声／新田三士郎） 大樹（声／榎谷美智子） 大樹の母（声／鈴木楓） お爺さん（声／佐藤正治） 百姓（声／麻生智久・坂本正吾）				

７７	海和尚と船幽霊！				
放映日	平成９年７月６日	脚本	武上純希		
演出	明比正行	作画監督	木下和栄	美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘 海和尚（声／大友龍三郎） 船幽霊（声／掛川裕彦） 夜行さん（声／掛川裕彦） かに坊主（声／川津泰彦） 友吉（声／まるたまり） 鯖太郎（声／里内信夫） つり吉（声／私市淳） 勇夫（声／幸野善之） 長老（声／矢田耕司）				

７８	ぬらりひょんと蛇骨婆				
放映日	平成９年７月13日	脚本	田村竜		
演出	佐藤順一	作画監督	八島善孝	美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺 蛇骨婆（声／津田延代） ぬらりひょん（声／西村知道） 朱の盆（声／郷里大輔）				

７９	中国妖怪襲来！（前編）				
放映日	平成９年７月20日	脚本	矢島大輔		
演出	川田武範	作画監督	直井正博	美術	藤田勉
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆（姿のみ）・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ チー（声／野本礼三） 妖犬（声／里内信夫） 山しょう（声／中井和哉） 天狗（声／柏倉つとむ） 呼子（声／上村典子） さとり（声／高戸靖広） 丸毛（声／沼田祐介） 傘化け 一本ダタラ（声／私市淳） カワウソ（声／柏倉つとむ） 化けガラス				

８０	中国妖怪襲来！（後編）				
放映日	平成９年８月３日	脚本	矢島大輔		
演出	勝間田具治	作画監督	飯島弘也	美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ チー（声／野本礼三） 妖犬（声／里内信夫） 山しょう（声／中井和哉） 天狗（声／沼田祐介） 呼子 夜行さん（声／掛川裕彦） さとり（声／沼田祐介） 丸毛（声／沼田祐介） 井戸仙人（声／八奈見乗児） 輪入道 傘化け（声／里内信夫）				

81 子育て妖怪！うぶめ

放映日	平成9年8月10日	脚本	小林千賀子		
演出	明比正行	作画監督	海老沢幸男	美術	松宮正純

登場キャラクター
ねこ娘・一反木綿

うぶめ(声/三田ゆう子)
つるべ火
太郎(声/増谷康紀)
健太(声/前田このみ)
ゆりな(声/前田千亜紀)
少年(声/小松里賀・前田愛)
女性(声/坂本円・藤野とも子)
男性(声/西脇保・野島健児)

82 古代妖怪・大首！

放映日	平成9年8月17日	脚本	武上純希		
演出	境宗久	作画監督	出口としお	美術	松宮正純

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

大首（声／屋良有作）
骨女（声／山崎和佳奈）
ＯＬ（声／坂本円）
警官（声／田中一成）

83 ゲタ合戦！妖怪逆柱

放映日	平成9年8月24日	脚本	矢島大輔		
演出	川田武範	作画監督	木下和栄	美術	徳重賢

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺

逆柱(声/高木渉)
ぬらりひょん(声/西村知道)
朱の盆(声/郷里大輔)
作業員(声/高塚正也)
TVアナウンサー(声/坂本正吾)
女性アナウンサー(声/古山あゆみ)

84 怪奇！人食い肖像画

放映日	平成9年8月31日	脚本	大橋志吉		
演出	佐藤順一	作画監督	八島善孝	美術	松宮正純

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺(姿のみ)

怪物（声／坂本正吾）
画家（声／二又一成）
女性（声／小松里賀）

85 魔境・土蜘蛛の山！

放映日	平成9年9月7日	脚本	田村竜		
演出	明比正行	作画監督	直井正博	美術	松宮正純

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿

土蜘蛛（声／田中和実・桑島法子）
権藤（声／河合義雄）
山崎（声／太田真一郎）
室田（声／島田敏）

86 死の使い・モウリョウ

放映日	平成9年9月14日	脚本	おおいとしのぶ		
演出	境宗久	作画監督	飯島弘也	美術	松本健治

登場キャラクター
ねこ娘

モウリョウ(声/松尾銀三)
橋爪洋(声/大塚瑞恵)
原田(声/風間信彦)
三池(声/中井和哉)
長嶋晴之助(声/青野武)
社長(声/茶風林)
監督(声/江川央生)
助監督(声/遠藤武)
スタッフ(声/坂本正吾)

87 迷い家の倉ぼっこ

放映日	平成9年9月21日	脚本	大橋志吉		
演出	芝田浩樹	作画監督	海老沢幸男	美術	松宮正純

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆(姿のみ)・一反木綿(姿のみ)・ぬりかべ

倉ぼっこ(声/松野太紀)
納戸婆(声/上村典子)
天井なめ
クネユスリ
提灯お化け
村上(声/岡和男)
安田(声/飯塚昭三)
秘書(声/小松里賀)
部下(声/野島健児・坂本正吾)

88 妖怪ふくろさげの罠！

放映日	平成9年9月28日	脚本	武上純希		
演出	川田武範	作画監督	出口としお	美術	松宮正純

登場キャラクター
ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・ぬりかべ

ふくろさげ（声／徳丸完）
親分（声／田中一成）
子分（声／西脇保）
男の子（声／野田順子）

89	髪の毛地獄！ラクシャサ
放映日	平成9年10月5日
脚本	小中千昭
演出	角銅博之
作画監督	木下和栄
美術	徳重賢
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ ラクシャサ（声／塩沢兼人） 行者（声／河合義雄） 女性（声／西川宏美）

90	峠の妖怪・ぶるぶる
放映日	平成9年10月12日
脚本	田村竜
演出	明比正行
作画監督	八島善孝
美術	松宮正純
登場キャラクター	砂かけ婆 ぶるぶる(声/沢海陽子) つるべ火 遠山(声/風間信彦) 洋子(声/住友七絵) 正広(声/嶋方淳子) 巡査(声/川津泰彦) ヤンキー女(声/大塚瑞恵) ヤンキー男(声/土門仁) 女性(声/前田このみ・大本眞基子)

91	夜の怪！百鬼夜行の鬼
放映日	平成9年10月19日
脚本	大橋志吉
演出	境宗久
作画監督	直井正博
美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿 百鬼夜行の鬼（声／川津泰彦・増谷康紀・坂本正吾・沼田祐介） 閻魔大王（声／柴田秀勝） 鬼

92	百目とぬらりひょん
放映日	平成9年10月26日
脚本	おおいとしのぶ
演出	吉沢孝男
作画監督	飯島弘也
美術	松本健治
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ 百目(声/浦和めぐみ) 妖怪樹 ぬらりひょん(声/西村知道) 朱の盆(声/郷里大輔) 油すまし(声/龍田直樹) 呼子(声/大本眞基子) あずきとぎ(声/西村知道) あずきはかり(声/塩屋浩三)

93	月よりの妖怪・桂男！
放映日	平成9年11月2日
脚本	矢島大輔
演出	川田武範
作画監督	海老沢幸男
美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・一反木綿・ぬりかべ 桂男（声／長嶝高士） 月女（声／久川綾）

94	鬼太郎魚と置いてけ堀
放映日	平成9年11月9日
脚本	武上純希
演出	細田守
作画監督	出口としお
美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿 水仙人（声／石森達幸） 井戸仙人（声／八奈見乗児） 達也（声／大塚瑞恵） 寿司屋のオヤジ（声／増谷康紀） 客（声／幸野善之・稲田徹）

95	妖力泥棒・釜なり！
放映日	平成9年11月16日
脚本	大橋志吉
演出	芝田浩樹
作画監督	木下和栄
美術	徳重賢
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿 釜なり（声／青野武） 油すまし（声／龍田直樹） 呼子（声／上村典子） 傘化け（声／塩屋浩三） あずきはかり（声／里内信夫）

96	妖怪王・ぬらりひょん
放映日	平成9年11月23日
脚本	矢島大輔
演出	明比正行
作画監督	八島善孝
美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿 ぬらりひょん(声/西村知道) 朱の盆(声/郷里大輔) ベアード(声/佐藤正治) ヨナルテパズトーリ ウーストレル(声/坂本正吾) ポルターガイスト 見上げ入道(声/郷里大輔) がしゃどくろ ダイダラボッチ ヤマタノオロチ 老婆 (声/達依久子) キャスター (声/西川宏美)

101	言霊使いの罠！				
放映日	平成９年12月28日	脚本	京極夏彦		
演出	角銅博之	作画監督	木下和栄	美術	松宮正純

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ・村上祐子・谷本淳・鈴木翔太

一刻堂（声/京極夏彦）
瀬戸大将
護法童子
小鬼
ぬらりひょん（声/西村知道）
朱の盆（声/郷里大輔）
木場先生（声/坂本正吾）

102	凶悪！中国妖怪刑天				
放映日	平成10年１月４日	脚本	矢島大輔		
演出	明比正行	作画監督	直井正博	美術	松宮正純

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

刑天（声／青森伸）
茶伊那道士（声／石森達幸）
男（声／私市淳）
女（声／古山あゆみ）

103	化けネズミ！妖怪旧鼠				
放映日	平成10年１月11日	脚本	大橋志吉		
演出	吉沢孝男	作画監督	八島善孝	美術	松本健治

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・一反木綿

旧鼠（声／曽我部和恭）
岩魚坊主
村人（声／増谷康紀・幸野善之）
女性（声／吉田愛理）
母親（声／山本真奈美）
奥さん（声/宇和川恵美）

104	恐怖！吸血妖怪の島				
放映日	平成10年１月18日	脚本	矢島大輔		
演出	川田武範	作画監督	信実節子	美術	松宮正純

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

吸血樹
ランスブィル（声/江川央生）
ペナンガラン（声/風間信彦）
アササボンサン（声/中井和哉）
吸血ナマコ
ぬらりひょん（声/西村知道）
朱の盆（声/郷里大輔）
化け鯨

97	追撃！西洋妖怪四天王				
放映日	平成９年11月30日	脚本	矢島大輔		
演出	吉沢孝男	作画監督	直井正博	美術	松宮正純

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

ぬらりひょん（声/西村知道）
朱の盆（声/郷里大輔）
ベアード（声/佐藤正治）
こうもり猫（声/松野太紀）
グルマルキン（声/伊倉一恵）
ウーストレル
ポルターガイスト
ゴーレム
井戸仙人（声/八奈見乗児）
老婆（声/達依久子）

98	試練・妖魔城への道！				
放映日	平成９年12月７日	脚本	橋本裕志		
演出	川田武範	作画監督	飯島弘也	美術	松本健治

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

ぬらりひょん（声/西村知道）
朱の盆（声/郷里大輔）
ベアード（声/佐藤正治）
こうもり猫（声/松野太紀）
グルマルキン（声/伊倉一恵）
ブイイ（声/川津泰彦）
ジャイアント（声/増谷康紀）
つらら女（声/松井摩味）
ひょうすえ（声/松井摩味）
輪入道
かに坊主
化け鯨
あずきとぎ
あずきはかり
あずきばばあ（声/達依久子）
雪女（声/松井摩味）

99	決戦！妖怪王対鬼太郎				
放映日	平成９年12月14日	脚本	橋本裕志		
演出	境宗久	作画監督	海老沢幸男	美術	松宮正純

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

ぬらりひょん（声/西村知道）
朱の盆（声/郷里大輔）
ベアード（声/佐藤正治）
こうもり猫（声/松野太紀）
グルマルキン（声/伊倉一恵）
ジャイアント（声/増谷康紀）
ゴーレム
つらら女（声/松井摩味）
ひょうすえ
輪入道（声/郷里大輔）
化け鯨
あずきとぎ
あずきはかり（声/松野太紀）
あずきばばあ
雪女（声/松井摩味）

100	暗闇の招き・妖怪影女				
放映日	平成９年12月21日	脚本	田村竜		
演出	芝田浩樹	作画監督	出口としお	美術	徳重賢

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

影女（声／岡本嘉子）
千里（声／井上美紀）
マネージャー（声／幸野善之）
母親（声／杉浦智子）
主婦（声／西川宏美・岡本加奈子）

105	迷宮・妖怪だるま王国				
放映日	平成10年1月25日	脚本	橋本裕志		
演出	細田守	作画監督	海老沢幸男	美術	松宮正純
登場キャラクター	砂かけ婆・一反木綿・ぬりかべ だるま（声／田中信夫・藤田さゆり・森上えり） 政治家（声／川津泰彦） 秘書（声／坂本正吾） 母親（声／溝上真紀子） 子供（声／井上隆之）				

106	悪夢！妖怪地獄				
放映日	平成10年2月1日	脚本	田村竜		
演出	境宗久	作画監督	出口としお	美術	徳重賢
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿 百々爺（声／松尾銀三） 姥火（声／伊倉一恵） 二口女（声／津賀有子） 蛇骨婆（声／津田延代） 井戸仙人（声／八奈見乗児）				

107	山の神・穴ぐら入道				
放映日	平成10年2月8日	脚本	矢島大輔		
演出	芝田浩樹	作画監督	木下和栄	美術	松宮正純
登場キャラクター	一反木綿 穴蔵入道(声/屋良有作) 大百足 病虫 長老(声/上村典子) 古野国権造(声/田中和実)	作業員(声/坂本正吾・井上隆之) 運転手(声/西脇保)			

108	不老不死！猫ショウ				
放映日	平成10年2月15日	脚本	大橋志吉		
演出	明比正行	作画監督	直井正博	美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺 猫ショウ(声/島田敏) ヒトミ(声/冨永みーな) ミー(声/松井摩味) 女子学生(声/宇和川恵美・疋田由香里) 男子学生(声/西脇保・高塚正也)	博士(声/青野武)			

109	雪山の怪異・のびあがり				
放映日	平成10年2月22日	脚本	矢島大輔		
演出	角銅博之	作画監督	八島善孝	美術	松本健治
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ のびあがり(声/立木文彦) 春(声/馬場澄江) 増本(声/北川米彦) 今日子(声/津賀有子) 登山者(声/風間信彦)	役場の人(声/土門仁・中井和哉) 村人(声/坂本正吾)			

110	八百八狸の反乱！（前編）				
放映日	平成10年3月1日	脚本	大橋志吉		
演出	川田武範	作画監督	信実節子	美術	松宮正純
登場キャラクター	一反木綿 刑部狸(声/仲木隆司) タキシード狸(声/増谷康紀) ハチマキ狸(声/川津泰彦) 着物狸(声/田中一成) 蛟龍	竹切狸(声/草尾毅) アナウンサー(声/風間信彦) 野次馬(声/西脇保)			

111	八百八狸の反乱！（後編）				
放映日	平成10年3月8日	脚本	大橋志吉		
演出	明比正行	作画監督	出口としお	美術	藤田勉
登場キャラクター	一反木綿 刑部狸(声/仲木隆司) タキシード狸(声/増谷康紀) ハチマキ狸(声/川津泰彦) 着物狸(声/田中一成) 狸カメラマン(声/土門仁)	蛟龍 なまず神 竹切狸(声/草尾毅) 海爺(声/丸山詠二) アナウンサー(声/風間信彦)			

112	妖怪鬼髪と黒髪切				
放映日	平成10年3月15日	脚本	田村竜		
演出	境宗久	作画監督	直井正博	美術	松宮正純
登場キャラクター	ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿 鬼髪(声/江森浩子) 黒髪切(声/滝口順平) 油すまし 呼子(声/宇和川恵美) あずきとぎ	あずきはかり(声/西脇保) あずきばばあ(声/宇和川恵美) 妹(声/前田千亜紀) 参拝客(声/西脇保)			

劇場版2	おばけナイター				
公開日	平成９年３月８日				
製作	高岩淡・泊懋	企画	清水慎治		
製作担当	目黒宏	脚本	島田満	監督	佐藤順一
作画監督	窪秀巳	美術監督	松宮正純		

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

風神（声／川津泰彦）
輪入道（声／岸野幸正）
傘化け（声／塩屋浩三）
あずきとぎ（声／松尾銀三）
球妖怪（声／小野坂昌也）
畑怨霊（声／太田健介）
あずきはかり（声／高木渉）
三太郎（声／日髙のり子）
純（声／くじら）
光太（声／佐藤智恵）
洋（声／浦和めぐみ）
慎（声／高戸靖広）
メガネ君（声／嶋方淳子）

劇場版3	妖怪特急！まぼろしの汽車				
公開日	平成９年７月12日				
製作	高岩淡・泊懋	企画	清水慎治・蛭田成一		
製作担当	本間修	脚本	大橋志吉	監督	吉沢孝男
作画監督	荒木伸吾・姫野美智	美術監督	徳重賢		

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿

吸血鬼（声／塩沢兼人）
狼男（声／島田敏）
フランケン（声／増谷康紀）
魔女（声／クロ）
閻魔大王（声／柴田秀勝）

113	鬼太郎対三匹の刺客！				
放映日	平成10年３月22日	脚本	矢島大輔		
演出	細田守	作画監督	木下和栄	美術	徳重賢

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺

五徳猫（声／堀川亮）
如意自在（声／田中亮一）
山爺（声／稲田徹）
ぬらりひょん（声／西村知道）
朱の盆（声／郷里大輔）

ひょうすえ
あずきとぎ

114	絶体絶命！死神の罠				
放映日	平成10年３月29日	脚本	武上純希		
演出	川田武範	作画監督	海老沢幸男	美術	松宮正純

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

死神（声／塩沢兼人）
ヒー族の巫女（声／勝生真沙子）
夜行さん（声／佐藤正治）

劇場版1	大海獣				
公開日	平成８年７月６日				
製作	高岩淡・泊懋	企画	清水慎治		
製作担当	高梨洋一	脚本	星山博之	監督	勝間田具治
作画監督	荒木伸吾・姫野美智	美術監督	東潤一		

登場キャラクター

ねこ娘・砂かけ婆・子泣き爺・一反木綿・ぬりかべ

アカマタ（声／古谷徹）
チンポ（声／古川登志夫）
やし落とし（声／郷里大輔）
キジムナー（声／佐藤正治）
井戸仙人（声／八奈見乗児）
川村（声／島田敏）
メグミ（声／中山真奈美）
長老（声／嶋俊介）
村人（声／増谷康紀・西川宏美）
ヤクザの男（声／江川央生）
課長（声／田中亮一）
社員（声／風間信彦・里内信夫）
船長（声／増田均）

水木プロ速報

（２０００年６月末日現在）

《出版物》

『戦記傑作大全』　（人類文化社）４月下旬発刊

『カランコロン漂泊記』（小学館）５～６月発刊

『妖しい楽園』　（ＰＨＰ出版）５月２日発刊

『水木しげる伝記』（講談社）　５月発刊

『死神大戦記』　（文藝春秋）　５月発刊

『怪』　（角川出版）　５月発刊

《イベント》

2000年７月２０日兵庫県【宝塚ゆうえんちにてサイン会】

８月　５日鳥取県【美保関にて妖怪協議】

８月９～２３日東京都町田市

【東急百貨店にて水木しげる妖怪展】

８月２０～３０日の内のどこか一日

東京都内において【世界妖怪会議】

（場所と時間は未定）

水木しげる公認ファンクラブ 水木伝説

サークル活動趣旨

●日本の漫画家としてはベスト3に入り、妖怪、怪奇漫画家としては間違いなく一番である『水木しげる』先生の公認ファンクラブです。我々『水木しげるFC・水木伝説』は偉大なる漫画家『水木しげる』先生の全ての作品を愛し研究する団体で、超マニアの方から初心者まで立派な水木しげるファンといつでも歓迎いたします。日本中のいや世界中の水木しげるファンと一人でも多く知り合いたいと思っておりますので貴方の入会を心よりお待ちしております。

サークル入会資格

1. 水木しげる先生の創造世界をこよなく愛する者であること。
2. 水木しげるファンであることを誇りに思える者であること。
3. 水木しげるファンとして、他人に迷惑を掛けないこと。

サークル活動内容

◎年4回会報『フハッ』の発行（会員同志の情報交換など掲載）
◎年1回会報『水木伝説』の発行（水木しげる作品の研究本）
◎年1回サマーイベントの開催（全国規模の会員イベント）
◎他、水木先生とファンのジョイント役として活動します。

会　費

★入会金:￥500 ★年会費:￥4000

*会費は『フハッ』の印刷代と送料、及び『水木伝説』の誌代と送料、その他、案内書などの発送に使用されます。
*送金方法は無記名の定額小為替か現金書留でお願いいたします。普通郵便での現金発送は法律で禁じられています。定額小為替は郵便局の窓口でお求めになれます。
*申込書の一部の掲載に付いて
・以下の4点を会報『フハッ』に掲載しますので御了承ください。
①の○○県○○市 ②のフルネーム（本名）
⑥の一番すきな作品 ⑦の自由欄（自己紹介、イラストなど）

申込み&問合せ先

〒654-0151
神戸市須磨区北落合3丁目38-217-709
馬場方 水木しげるFC・水木伝説

↓下の申込書に御記入の上80円切手を同封して、お送りください。
※申込書はコピーしてお使いください。

申込書

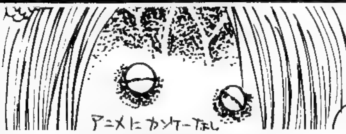
①住所 〒		
②氏名	③年齢	④性別　男・女
⑤電話番号	⑥水木しげる先生の漫画で一番すきな作品	
⑦自由欄		

詳 細

会報『フハッ』では水木しげる先生の最新情報、短編作品の復刻、ミニ特集、会員証会、お便り等掲載しています。
また、会員同士の交流を深めるためのイベントも、地元神戸だけでなく全国へ広げようと考えております。
世界で初めて公認となった『水木伝説』！水木しげるの大好きな素人ファンで結成された団体ではありますが、企業団体では味わえない手作りの良さを満喫して下さい。



編集後記



まさか、アンケートを自分で編集することになるとは…

当時は予想もしないで書いてました。しかし、個人的に思い入れのある4作目。こうして無事？？本にできるのは嬉しいです。アンケートにお答えくださった皆さん、ありがとうございます〜。もちろん買って下さった皆さんも。表紙とベストテンの画像がきれいにでてるといいんですが。どうでしょう？？（りんご中毒女・かめっち）



「リメイク作品を作るときは『旧作のどこを生かして、どこを新しいイメージで作るのか』に一番心をなやませるそうです。4作目はスタッフの方々がなやみながら…でも一生けん命鬼太郎のことを考えながら、番組製作してくれた手ごたえを感じて うれしいデス…」と思いながら『さらばやーい』やってた木村香織

●今回はぴったりと仕事のヤマとぶつかってしまい四苦八苦。

なんとか間に合ってホッとしています。……かな！？　　【銀八】



早、第5号！いっつもこんなこと言ってますネェ…、私…。

何で" こんなにグッズってあるんでしょうか。今回大変ビックリしました。でも、さらにビックリしたのは、そのほとんどを持っている天山氏！いったい彼は何者なのでしょう。いつか天山の秘密に迫ります。
ちのこ

「うったっ助けてくれ、今ユメコちゃんに追われてるんだ」「よくもあたしの時代が終わったなんて書いてくれたわねー、きーっ！」バキッドコッバリバリバリッ「うう堪忍してたもー。マロはこれから知人の店に喜久子お姉様のCDを取りに行きがてら山本麻里安ちゃんのアルバム予約に行かねばならぬのじゃああ」「いや許さん」「ワテだって昔は君のことが好きでメッセ以前の晴海で君のあーんな本とか買ってたんだ〜でもその後サイコーゆ鬼とかひかるとかリンとかえり子とかシャンプーとかよう子とかエリ様とかココアとかナディアとかおみっちゃんとかわぴことかマリアとか霊さまとかなつみとか亜美ちゃんとかちびうさとか蛍とかチャチャとかオトとか果林とかククリとか風ちゃんとか綾波とかルリルリとかさくらとかしのぶとかにはまって、今はおんぷちゃんと六奈ちゃん♡」「うっオ〇クー もうええわ許したる」（ぷに系♥水木へきる）

OBAKE

奇想天外　神出鬼没　全身全霊　百戦錬磨　無病息災　慢心創痍
天下泰平　日進月歩　終始一貫　十人十色　千差万別　悪戦苦闘
平身低頭　熱烈感謝　　謝謝！！　天山

第5部が世界初の3D・TVアニメになる頃までにMacのG5とOS10を手に入れてイラストレーターver.9で(バリ)^{2}編集したい。もう椅子や机がノリで(ベト)^{2}になるのは耐えられん。コージ

大変お待たせ致しました。告知より大幅に遅れましたが我らが『水木伝説』の最終兵器『水伝EAST』の力でようやく完成にこぎつけました。ま、アニメ版鬼太郎・第4部の特集号と云うことで、当然中身も第4部一色！ですが古いタイプの人間である私はやはり、アニメの鬼太郎と云えばモノクロ版が最も好きで…　モノクロ版が一番好きじゃいけねーのかよ！『セブン』より『ウルトラマン』の方が好きじゃいけないのか？リドリー・スコットよりデビット・リンチの方が好きじゃいけないのか？ゴジラよりガメラの方が好きじゃいけないのか？蝶野より橋本の方が好きじゃいけないのか？新必殺仕置人より必殺仕掛人の方が好きじゃいけないのか？ **手塚治虫より水木しげるが好きじゃいけないのかよー？** と云うわけで次回『フハッ増刊』はモノクロ版鬼太郎特集を予定しています。

会長・馬場茂幸

おくづけ

★当会は水木プロ・東映アニメーション・バンダイの公認サークルです。

★本誌よりの無断転載はお断りいたします。

★敬称略

フハッ　増刊四

総括　ゲゲゲの鬼太郎・アニメ四作目

発行日/　平成１２年８月１１日
編集/　水木 FC 水木伝説本部（代表　馬場茂幸）
編集補助/ 水木伝説関東支部・水伝イースト
〈幸治亮・長澤美奈・鴇尾銀八・亀田真理・つちのこ・日比野聖巳・高橋知和・木村香織〉
協力/　水木プロダクション・東映アニメーション・清水慎治
竹田勝二・古賀弘明・でえもん佐藤・文月廻・吉田良恵・水木伝説会員各位
印刷/　大陽出版株式会社

制作/　〒６５４―０１５１
兵庫県神戸市須磨区北落合３丁目３８番地２１７号練７０９号室
水木しげる FC　水木伝説

おくづけ

★当会は水木プロ・東映アニメーション・バンダイの公認サークルです。

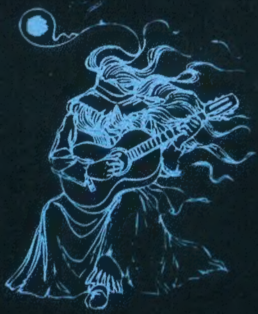
★敬称略

フハッ　増刊四

総括　ゲゲゲの鬼太郎・アニメ四作目

発行日/　平成１２年８月１１日
編集/　水木 FC 水木伝説本部（代表　馬場茂幸）
編集補助/ 水木伝説関東支部・水伝イースト
〈幸治亮・長澤美奈・鴇尾銀八・亀田真理・つちのこ・日比野響巳・高橋知和・木村香織〉
協力/　水木プロダクション・東映アニメーション・清水慎治
竹田勝二・古賀弘明・でえもん佐藤・文月廻・吉田良恵・水木伝説会員各位
印刷/　大陽出版株式会社
制作/　〒６５４—０１５１
兵庫県神戸市須磨区北落合３丁目３８番地２１７号練７０９号室
水木しげる FC　水木伝説

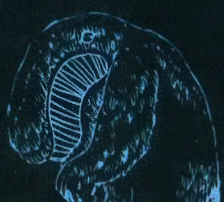






MIZUKI DENSETSU





東映動画・水木プロ公認